

長ハ社長ノ承認ヲ得テ養成期間ヲ概三箇月ニ短縮スルコトヲ得
 第十五條 候補生ノ養成期間ハ救護看護婦長候補生ハ六箇月トシ救護看護人長候補生ハ三箇月トス
 第十六條 生徒及候補生ノ養成期間ハ戰時、事變ニ方リ、補充其ノ他ノ都合ニ依リ社長之ヲ變更スルコトヲ得但シ養成期間ヲ三分ノ二以内ニ短縮スルコトヲ得ス
 第十七條 生徒及候補生所定ノ課程ヲ卒業シタルトキハ生徒ニハ卒業證書^{書式第三號} 候補生ニハ適任證書^{書式第四號}ヲ授與ス
 第十八條 生徒及候補生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ病院長ノ具申ニ依リ社長及支部長ハ退學ヲ命ス
 一 傷疾疾病ノ爲卒業ノ目途ナキ者
 二 品行不正又ハ怠惰ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 三 學業ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
 第十九條 生徒及候補生中前條第二號ニ依リ退學ヲ命シタル者及情願ニ依リ退學ヲ許シタル者ニハ養成中ノ學費ヲ返還セシム
 第二十條 生徒及候補生ニハ在學中第一表ノ學費ヲ給ス
 第二十一條 救護看護婦生徒及救護看護婦長候補生ニハ宿舍ヲ給ス
 第二十二條 生徒及候補生ニハ第二表ノ被服ヲ貸與又ハ給與ス
 第二十三條 生徒及候補生ニ旅行ヲ命スルトキハ第三表ノ旅費ヲ給ス
 第二十四條 生徒及候補生傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ社費ヲ以テ之ヲ治療ス卒業後引續キ入院治療ヲ要スルトキ亦同シ
 前項治療ハ養成ヲ受クル病院又ハ其ノ所在地ニ於テスルモノトス但シ願ニ依リ歸郷療養ヲ許可スル

コトアルヘシ此ノ場合ニ在リテハ社費ヲ以テ治療スルノ限リニ在ラス
 第二十五條 生徒及候補生傷疾疾病ノ爲廢疾不具ト爲リ又ハ死亡シタル者ニハ第四表ノ手當ヲ給ス

附 則

本則ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 日本赤十字社支部救護員養成所規則及日本赤十字社支部救護員養成所設置ニ關スル件ハ在學ノ生徒卒業又ハ養成擔任ノ病院へ轉學ノトキヲ以テ之ヲ廢止ス

第一表 學 費

區 分	手 當	寄 宿	料
救護看護婦生徒	四 圓	宿舍及現食ヲ給スルヲ以テ寄宿料ヲ給セズ	十 二 圓
救護看護人生徒	六 圓	宿舍及現食ヲ給スルヲ以テ寄宿料ヲ給セズ	十 二 圓

一、入學、退學又ハ歸郷ノ爲一箇月ニ滿タサル場合ノ學費計算ハ日割トス
 二、(削除)
 三、卒業後引續キ入院治療ヲ要スル者ニハ手當ノ支給ヲ停止ス但シ勤務ニ基因セル者ニ限り六十日間其ノ半額ヲ給ス
 四、願ニ依リ歸郷療養ヲ許可シタル者ニハ手當ノ支給ヲ停止ス但シ勤務ニ基因セル者ニ限り六十日間其ノ全額ヲ給ス

戸年ト又ノ人ト同内父等
主者キハノ戸ト一ニ母ノ要
未ナハ見シシ主キ戸ア見ス
成ル人其ノ本ナマシテ

書式第一號

救護看護婦(何々)生徒採用願

某儀

日本赤十字社何生徒志願ニ付御採用被成下度卒業ノ上ハ貴社規定ノ誓約年間何時ニテモ召集ニ應シ救護ノ業務ニ従事可仕依テ別紙履歷書戸籍謄本相添此段相願候也
大正何年何月何日

本籍 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
住所 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地某方

本人

氏名
氏名
生年月日

日本赤十字社長(何支部長)爵氏名殿

印紙ニハ
本人及各
保證人控
印スヘシ

書式第二號

收入印紙

入學證書

氏名

右書社何生徒(何候補生)ニ御採用ニ付テハ御規則可相守ハ勿論貴社救護員養成規則ニ依リ學費ノ返還ヲ命セラレ候節ハ保證人連帶責任ヲ以テ辨償可仕尙修業中本人身上ノ儀ハ何事ニ限ラス保證人ニ於テ引受可申候也
大正何年何月何日

本籍 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
住所 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

氏名

本籍 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
住所 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

氏名

本籍 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
住所 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

氏名

日本赤十字社長(何支部長)爵氏名殿

書式第三號(用紙局紙鳥ノ子) (注意)輪廓ノ十字ヲ赤色トス

櫻花模様輪廓

第何號

卒業證書

何府縣(華)士(疾)平民

氏名

日本赤十字社救護看護婦何

々生徒ノ課程ヲ卒業シタル

コトヲ證ス

病院

大正何年何月何日

日本赤十字社病院(某支部)院長勳功學位付氏名職

印

一寸五分

分五寸一

尺一

分七

書式第四號(用紙局紙鳥ノ子)寸法第三號ニ同シ (注意)輪廓ノ十字ヲ赤色トス

櫻花模様輪廓

第何號

救護看護婦長(何々)適任證書

救護看護婦(何々)氏名

日本赤十字社救護看護婦長何

々ニ適任者タルコトヲ證ス

病院

大正何年何月何日

日本赤十字社病院院長勳功學位付氏名職

印

分五寸一

◎日本赤十字社救護員養成細則

明治四十二年二月二日
本達乙第一號

改正

- 明治四十三年十月廿四日
本達乙第一號
- 明治四十四年十一月十六日
本達乙第十一號
- 大正元年十二月十日
本達乙第一〇號
- 大正二年四月二十四日
本達乙第一號
- 大正六年六月十九日
本達乙第三號

日本赤十字社救護員養成細則別冊ノ通相定ム
但本細則ニ抵觸スル規定ハ廢止ス

日本赤十字社救護員養成細則

- 第一條 救護看護婦、救護看護人、各生徒志願者ノ採用試験ハ本部又ハ支部ニ於テ適宜試験委員ヲ設ケ之ヲ行フ
- 第二條 救護看護婦長、救護看護人長、各候補生ノ養成人員ハ入學期前ニ本部支部ノ所要ニ基キ社長之ヲ定メ本社病院長ニ通告ス
- 支部所要ノ人員ハ入學期三箇月前ニ支部長ヨリ社長ニ申告スルモノトス
- 第三條 生徒及候補生ヲ採用シタルトキハ名簿^書第一式ヲ調製シ其ノ養成ヲ爲ス所ノ病院長、養成所長ニ送付ス
- 病院長、養成所長ハ前項ノ名簿ニ隨時必要ノ事項ヲ記入シ養成結了後其ノ所管ニ從ヒ社長又ハ支部長ニ之ヲ返送ス
- 第四條 支部ニ於テ生徒及候補生ヲ採用シタルトキハ其ノ人名ヲ社長ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第五條 生徒及候補生傷疾疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ入學延期ヲ願出タルトキハ社長又ハ支部長ハ二週日以内ヲ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條 救護看護婦生徒ノ養成期間ハ第一學年第二學年第三學年ニ分チ一學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第一學年ニ於テハ學科、術科ヲ教授シ第二學年第三學年ニ於テハ實務ヲ練習セシム但シ必要ニ依リ第一學年中ニ實務ヲ見學セシムルコトヲ得

第七條 救護看護人生徒ノ養成期間ハ第一學期第二學期ニ分チ各學期ヲ五箇月トス

第一學期ニ於テハ學科術科ヲ教授シ第二學期ニ於テハ實務ヲ練習セシム但シ必要ニ依リ第一學期中ニ實務ヲ見學セシムルコトヲ得

第七條ノ二 前二條ノ學科、術科ハ實務練習期間ニ於テモ之ヲ復習セシムルヲ要ス

第八條 生徒ノ入學期ハ救護看護婦生徒ハ四月一日トシ救護看護人生徒ハ所管ニ依リ社長又ハ支部長之ヲ定ム

候補生ノ入學期ハ救護看護婦長候補生ハ五月一日救護看護人生徒長候補生ハ九月十一日トス

前二項ノ入學期ハ場合ニ依リ社長之ヲ變更スルコトアルヘシ

第九條 (削除)

第十條 救護看護婦生徒ノ試験ハ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ

救護看護人生徒ノ試験ハ各學期ノ終リニ於テ之ヲ行フ

候補生ノ試験ハ養成期ノ終リニ於テ之ヲ行フ

第十一條 試験ノ方法ハ學科ニ在リテハ口述又ハ筆答トシ術科ニ在リテハ實地應用トス

實務練習ハ別ニ試験ヲ行ハス練習中ノ成績ヲ以テ試験ニ代ウ

第十二條 試験ノ成績ハ點數ヲ以テ其ノ優劣ヲ定ム但シ採點ニハ平素ノ成績ヲモ參酌スルヲ要ス

第十三條 生徒及候補生ノ養成ヲ終リタルトキハ卒業名簿書式第二號ヲ作り本社病院長ハ社長ニ支部病院

長養成所長ハ支部長ニ報告スヘシ但シ他支部ノ者ニ在リテハ當該支部長ニモ其ノ名簿ヲ送付スヘシ

第十四條 傷疾、疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ定期ノ試験ヲ受クルコト能ハサル者ニハ病院長

養成所長ハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十四條ノ二 病院長、養成所長ハ生徒及候補生ニ特別ノ善行アルトキハ之ヲ表彰シ不良ノ行爲アル

トキハ禁足、譴責等懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十五條 生徒及候補生ノ休暇日ハ左ノ如シ

大祭祝日

日曜日

皇后陛下御誕辰

靖國神社例祭日

本社創立日(五月一日)

病院長、養成所長ハ前項ノ外暑中又ハ年末、年始等ニ際シ適宜休暇ヲ與フルコトヲ得

第十六條 生徒、候補生及保證人ノ轉籍、轉住、氏名變更其ノ他身上異動又ハ保證人ノ變更等ハ保證人

ヨリ速ニ届出ツルモノトス

第十七條 生徒及候補生傷疾、疾病ニ依リ歸郷療養ヲ願出タルトキハ病院長、養成所長ハ適宜日數ヲ定

メ之ヲ許可スルコトヲ得但シ追願ヲ爲ス場合ニハ其ノ願書ニ診断書ヲ添へ保證人連署スルモノトス
 第十八號 生徒及候補生父母ノ死亡又ハ病氣危篤其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ歸郷ヲ願出タルトキ
 ハ病院長、養成所長ハ往復ヲ除キ一週日以内ヲ限り許可スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ確實ナル證明
 書ヲ添へ願出ツルモノトス

第十九條 生徒及候補生ノ服制ハ救護員服制ニ據ル但シ救護看護婦生徒ノ衣ニハ學年別徽章、救護看
 護人生徒ノ衣ニハ學期別徽章ヲ附ス

前項但シ書ノ徽章ハ其ノ學年學期ニ相當スル眞鍮製亞刺比亞數字大サ五分ノモノトシ衣ノ左襟ニ附
 ス看護衣及作業衣亦同シ

第二十條 病毒汚染等ノ爲被服ヲ燒却又ハ棄却シ若ハ水火盜難其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ之ヲ
 失ヒ又ハ毀損シテ使用ニ耐ヘサルモノハ確實ナル證明ヲ以テ其ノ代品ヲ給ス但シ故意又ハ怠慢其ノ
 他不都合ノ所爲ニ依リ紛失又ハ毀損シテ使用ニ耐ヘサラシメタルトキハ其ノ代價ヲ辨償セシム

附 則

第二十一條 本細則施行前ニ採用シタル救護看護婦生徒ノ學期ハ從前ノ規定ニ據ル

書式第一號(用紙美濃紙)

場所	養成	管	所	本籍	現住	種別 (候補生)	資格	社員	身分 關係 氏名	戶主(某何男何女)(何々) 氏名 傍調ヲ附ス	誕生	年月日
				族稱								

採用 後ノ 經歷	採用 前ノ 經歷	採用時 成績	試驗 成績	名中 番體	格 甲 乙	身長 尺寸分	體重 貫	氏名	籍本	保證人	籍本	住所	採用 年月日	學 年 月 日	卒業 年月日	入學 年月日	番 號

採用 後ノ 經歷	採用 前ノ 經歷	採用時 成績	試驗 成績	名中 番體	格 甲 乙	身長 尺寸分	體重 貫	氏名	籍本	保證人	籍本	住所	採用 年月日	學 年 月 日	卒業 年月日	入學 年月日	番 號	卒業ノ成績	性質 操行	種痘	健康	狀態	不感	不感	卒業期ニ於ケル	身長 尺寸分	體重 貫
																					名中	番	卒業平均成績	嗜好及技術	卒業期ニ於ケル		

項 事	キ ル ト ナ	参 考 來	將 來	賞 罰	賞	疾 病	傷 殘	ナ ル	主 要	養 成				
										日 數	第 一 學 年 (期)	第 二 學 年 (期)	第 三 學 年	
										計	ク 受 ケ ル 日 數	ヲ 受 ケ ル 日 數	養 成 日 數	缺 課 日 數
											日	日	日	日

書式第二號

注意

一、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

二、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

三、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

探 何 年 何 月	何 用 救 護 看 護 婦 生 徒 卒 業 名 簿	平 卒 均 業 點 成 績	賞	席 次 所	管 氏	名

三、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

四、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

五、本名簿は看護婦生徒卒業名簿

考 備

● 救護看護婦、救護看護人、各生徒、救護看護婦長、救護看護人長、各候補生ノ教授及試験採點ニ關スル件

改正 ●明治四十四年八月一日 ●明治四十四年十一月十六日 ●明治四十四年三月十五日
 本達 丙 第四號 本達 丙 第五號 本達 丙 第二號
 ●大正六年六月十九日 ●本達 丙 第一號

明治四十二年本達丙第三號救護看護婦、救護看護人、各生徒、救護看護婦長、救護看護人長、各候補生ノ教授及試験採點等ニ關スル件左ノ通改正シ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 生徒ノ教授順次及候補生ノ教授課程ハ附表ニ據ル
- 二 學術科ノ教授ハ每週教授豫定表^{書式第一號}ヲ作リ之ヲ實施シ週末ニハ教授實施表^{書式第一號}ヲ作ルモノトス但シ豫定表中豫定ト實施ト異リタル事項ハ朱字ヲ以テ改メ實施表ノ作製ヲ略スルモ妨ナシ
- 三 試験ハ各學術科ノ教授科目ニ就キ之ヲ行フ
- 四 試験ノ方法ハ左ノ如シ

- | | |
|-----------|-------------------|
| 一 編 帶 | 實地應用及口述二問題ヲ課ス |
| 一 按 摩 | 同 |
| 一 醫療 器械 | 實物又ハ圖畫ニ就キ口述二問題ヲ課ス |
| 一 患者ノ運搬 | 實地應用及口述二問題ヲ課ス |
| 一 天幕ノ建設 | 實地應用 |
| 一 其ノ他ノ各科目 | 口述又ハ筆答二問題ヲ課ス |

附表第一表

看護看護婦生徒教授順次表

科	目	教授期間
一 修身 一 赤十字事業ノ要領 一 陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領 一 人體ノ構造及其ノ作用 一 繃帶 一 患者ノ運搬		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年
		第一學年

一 患者ノ運搬 一 第一學期科目ノ復習 一 修身 一 繃帶 一 按摩 一 外傷 一 救急 一 衛生 一 藥物及調劑 一 患者ノ運搬 一 第一、第二學期科目ノ復習 一 修身 一 實務練習 一 第一學年科目ノ復習	第一學年 第二學年 第三學年	各學期 各學期 各學期
一 修身 一 實務練習 一 第一、第二學年科目ノ復習	第三學年	各學期

一 本表科目ノ外成ルヘク普通學ノ素養ヲ參酌シテ之ヲ補習セシメ又隨意科トシテ英語ヲ教授ス但シ第一學年又ハ第二學年限リ廢學セシムルモ妨ケス

- 二 教授ハ教科書ニ據リ簡明ニ敷衍講述シ其ノ要領ヲ筆記セシム但シ事項ニ依リ教授者ノ意見ヲ以テ教科書ヲ持タシメ筆記ヲ省略スルコトヲ得
- 三 地方ノ状況ニ依リ已ヲ得サル場合ニ在リテハ教授ノ順次ヲ變更スルコトヲ得
- 四 「赤十字事業ノ要領」中赤十字事業ノ大意、禮式、服從、敬稱、稱呼及「陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領」中軍人ノ官等、等級、制服ノ大要並「患者ノ運搬」中ノ教練ハ第一學年第一學期中ニ教授ス
- 五 修身ニハ婦人作法ヲモ交ヘ教授ス
- 六 實務練習ニハ藥局其ノ他ニ於ケル實習ヲ包含ス
- 七 第一學年ノ教授日數ハ二百日以上トシ每週教授時數ハ二十八時乃至三十時トス
各科目ノ每週教授時數ハ病院長又ハ養成所長之ヲ定ム但シ修身ノ教授時數ハ每週一時間ヲ標準トス
- 八 陸軍病院又ハ海軍病院ノ勤務見學ハ第二學年又ハ第三學年ニ於テ約七日間之ヲ行フ但シ海軍病院ノ勤務見學ハ鎮守府所在地支部ニ限り之ヲ行フ
勤務見學ハ當該病院ト協議シ診斷室、手術室、病室、消毒所等ニ於ケル實地ヲ見學セシメ且勤務ニ關スル心得等ノ教授ヲ受ケシム

附表第二號

科	目	教授期間
一 修身	救護看護人生徒教授順次表	

一 赤十字事業ノ要領		第 一 學 期
一 陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領		
一 人體ノ構造及其ノ作用		
一 繃 帶		
一 患者ノ運搬		
一 看 護		
一 治療ノ介輔		
一 手術ノ介輔		
一 消 毒		
一 傳染病及其ノ他ノ疾病		
一 醫療器械		第 二 學 期
一 救 急		
一 外 傷		
一 藥物及調劑		
一 天幕ノ建設		
一 實務練習		
一 第一學期科目ノ復習		
一 本表科目ノ外成ルヘク普通學ノ素養ヲ參酌シテ之ヲ補習セシム		
二 教授ハ教科書ニ據リ簡明ニ敷衍講述シ其ノ要領ヲ了得セシムルヲ要ス		
三 第一學期ノ教授日數及每週教授時數ハ病院長又ハ養成所長之ヲ定ム		

附表第三號

救護看護婦長候補生教授科程表

赤十字事業ノ要領	科	目
陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領		
人體ノ構造及其ノ作用		
繃 帶		
看 護		
治療ノ介輔		
手術ノ介輔		
傳染病及其ノ他ノ疾病		
醫療器械		
外 傷		
救 急		
藥物及調劑		
實務練習		
一 本表科目ノ外適當ノ時期ニ於テ修身、消毒、按摩、衛生、患者ノ運搬等ヲ課シ救護看護婦生徒ニ比シ其ノ程度ヲ進メ教授スルヲ要ス		
二 前記ノ外成ルヘク隨意科トシテ英語ヲ教授シ又普通學ノ素養ヲ參酌シテ之レヲ補習セシム		

- 三 教授ハ教科書ニ據リ敷衍講述シ其ノ要領ヲ筆記セシム
- 四 實務練習ニハ藥局其ノ他ニ於ケル實習ヲ包含ス
- 五 實務練習中適當ノ時期ニ於テ陸軍病院又ハ海軍病院ニ派遣シ必要ノ勤務ヲ見學セシム

附表第四號

救護看護人長候補生教授科程表

赤十字事業ノ要領	科	目
陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領		
人體ノ構造及其ノ作用		
繃 帶		
看 護		
治療ノ介輔		
手術ノ介輔		
按 摩		
傳染病其ノ他ノ疾病		
醫療器械		
外 傷		
救 急		

- 一 衛生
- 一 藥物及調劑
- 一 實務練習

- 一 本表科目ノ外適當ノ時期ニ於テ修身、消毒及患者ノ運搬等ヲ課シ救護看護人生徒ニ比シ其ノ程度ヲ進メ教授スルヲ要ス
- 二 教授ハ教科書ニ據リ敷衍講述シ其ノ要領ヲ筆記セシム
- 三 實務練習ニハ藥局其ノ他ニ於ケル實習ヲ包含ス

●日本赤十字社救護員志願者身體検査規程

明治四十二年二月廿四日 救護第一〇一號

改正 ●明治四十二年五月廿七日 救護第四四二號 ●明治四十四年十一月二十一日 救護第一〇一五〇一號

- 第一條 救護員(理事員、救護醫長ヲ除ク)及生徒志願者ノ身體検査ハ本規程ニ據リ之ヲ行フ
- 第二條 身體検査ハ本社關係ノ醫員ヲシテ之ヲ行ハシムルモノトス但シ場合ニ依リ他ノ醫員ニ囑託スルコトヲ得
- 第三條 身體検査ニ於テ合格トスヘキ者ハ身體強健、全身ノ發育宜シキヲ得テ戰時勤務ニ堪ユヘキ者トス
- 第四條 身體検査ハ概ネ左ノ順序ニ依リ施行ス但シ合格ト爲スヘカラサル事項ヲ發見シタルトキハ爾餘ノ検査ヲ省略スルモノトス
 - 一、身長ノ測定
 - 二、視力ノ検査
 - 三、聽力ノ検査
 - 四、一般ノ構造及各部ノ検査
 - 五、關節運動ノ検査
- 第五條 検査成績ハ甲乙丙ノ三種ニ區分シ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス
 - 一、身體薄弱ナル者
 - 二、精神機能ニ障害アル者
 - 三、全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病、腋臭、文身、梅毒及外傷等ノ痕痕著シキ者

- 四、頭部、顔面、頸部ノ畸形及醜形、頸腺ノ腫大著シキ者
- 五、傳染性眼疾ヲ患フル者又ハ視力六分ノ六(廿分ノ廿)ニ達セサル者
- 六、眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視、遠視、亂視等アル者但シ生徒志願者ニ在リテハ十五度以上ノ近視二十度以上ノ遠視、亂視ハ不合格トス
- 七、八米突以内ノ距離ニアラサレハ低聲ヲ解シ能ハサル者
- 八、言語ノ障害著シキ者(吃等)
- 九、悪性腫瘍、榮養失常其ノ他各器各系ノ慢性疾患、變常アル者又ハ其ノ疑アル者
- 十、四肢ノ薄弱、畸形又ハ傷疾疾病ニ起因スル著シキ不正形及運動ニ障害アル者
- 十一、遺傳性及發作性疾病ノ證據アル者
- 十二、前各號ノ外生徒ニ在リテハ修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者又ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

第六條

身體検査ノ成績ハ別紙身體検査表ニ記注シ其ノ方法ハ大要左ノ要領ニ依ルヘシ

- (一)身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ身長計ノ臺上ニ立チ踵ヲ并ヘテ後ニ接シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニ在リテハ小桿ヲ膝下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 身長ノ測定ニ際シテハ體量ヲモ測定スヘシ
- (二)視力ハ中心視力ヲ斯涅兒連氏試視力表ニ依リ左右各別ニ検査シ視力ノ度ヲ検査表ニ記注スルニハ6、6、6又ハ20、20、30等ノ數ヲ以テシ視力ニ障害アル者ハ近視、遠視其ノ他ノ症タルコトヲ検査シ其ノ種類及補正ノ度數ニ記注スヘシ
- (三)聽力ヲ検査スルニハ受験者ヲ受験醫員ノ前方約八米突ノ距離ニ立タシメ濕シタル示指頭ヲ以

テ交々一耳ヲ密塞シ其ノ検査ヘキ耳ヲ検査醫員ニ對向セシメ低聲ヲ以テ單語ヲ解シ得ルヤ否ヤヲ検査スヘシ

- (四)一般ノ構造及各部ノ検査ヲ行フニハ受験者ヲシテ體ノ上部ヲ露ハサシメ検査醫員ノ前二三歩ノ所ニ直立姿勢ヲ正サシメ前面ヨリ通視シ後チ後面ニ及ホシ次テ頭部、面部、頸部、胸部、腹部、背部等ヲ精査シ又住所、年齢、既往及現在ニ於ケル疾患ノ有無ヲ問ヒ應答ノ間言語、精神機能等ヲ検査シ必要ニ際シテハ體重、胸圍、呼吸縮張ノ差ヲ測定シ或ハ排泄物ヲ検査シ異狀ノ有無ヲ検査表ニ記注シ體重、胸圍、呼吸縮張ノ差等ヲ測定シタルトキハ之ヲ併記スヘシ

救護看護婦生徒志願者ハ成ルヘク著衣ノ儘検査スルヲ要ス

- (五)關節運動ノ検査ハ頸部ニ於テハ俯仰、顧盼、側屈、脊柱ニ於テハ反張、前屈、左右屈、四肢ニ於テハ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲ爲サシメ次ニ歩行ヲ試ミ又ハ趾尖ヲ以テ體重ヲ支ヘシメ支柱ノ力ヲ検査スヘシ

第七條 前條ノ検査終レハ検査醫員ハ検査ノ成績ヲ總括シテ甲種乙種丙種ヲ定メ身體検査表ニ記注シ順序ヲ經テ社長又ハ支部長ニ提出スヘシ

用紙半紙半折體

身體檢查表

檢查醫員 氏

名

考 備	視 力		身 體 長	檢 查 成 績	志 願 類	年 齡	名 氏
	右	左					
	運 動 關 節		一 般 造 及 各 部	聽 力			
				右	左		

明治 年 月 日

●生徒及候補生優等卒業者ニ對スル賞品授與方ノ件

改正 ●明治四十四年五月十二日 救護第三九九四號 ●大正二年四月十四日 救護第三六四號

明治四十二年三月四日 救護第一九〇號(社長)

救護看護婦救護看護人各生徒及救護看護婦長救護看護人長各候補生優等卒業者ニ對スル賞品授與方左ノ通相定メ候條自今右ニ據リ賞品授與有之度候也

一 生徒及候補生ニシテ卒業成績優等ニシテ全員ノ五分ノ一以上(一位ニ滿タサル端數ハ一人トス)ノ席ヲ占メタル者ニハ賞品ヲ授與ス其ノ等級左ノ如シ

- 一等賞 卒業成績九十八點以上ノ者
- 二等賞 卒業成績九十五點以上ノ者
- 三等賞 卒業成績九十點以上ノ者

- 二 賞品ノ價格ハ左ノ如シ
 - 一等賞品價格十二圓以下八圓以上
 - 二等賞品價格八圓以下五圓以上
 - 三等賞品價格五圓以下三圓以上
- 賞品ハ卒業ノ紀念トシテ恰當ノ書籍又ハ其他ノ物品ヲ選擇スルコト

三 賞品ハ生徒又ハ候補生ノ所管ニ從ヒ本部ニ在リテハ病院長支部ニ在リテハ支部長ヨリ授與スル
コト

● 生徒及候補生ニシテ本部受託ノ者ハ本社病院長ニ於テ

賞品選定授與ノ件

明治四十二年三月十三日
教第二四八號(本社)

救護員各生徒及各候補生優等卒業者ニ對シ賞品授與方救第一九〇號通牒ノ通該賞品ハ其所管ニ從ヒ支部長ヨリ授與セラルルコトニ相定マリ候處本部受託ノ生徒及候補生優等卒業者ニ對シテハ本社病院ニ於テ卒業證書又ハ適任證書授與ノ際共ニ賞品ヲモ授與ノコトニ相成候方便宜ト存候就テハ今後貴部選出ノ候補生又ハ依託生徒卒業ニ際シ其都度賞品授與方及御協議居候テハ時機ヲ失シ候ニ付右候補生又ハ生徒中優等卒業者有之候節ハ本社病院長ヲシテ適當ノ賞品ヲ選定セシメ卒業式舉行ノ際當該支部長ノ名ヲ以テ授與爲致其旨通報ノコトニ致度依テ豫メ御承諾ヲ得置度此段及御協議候也

●日本赤十字社救護員生徒養成配屬區分及派遣

ニ關スル規程

大正六年十二月十九日
本達 乙 第九號

日本赤十字社救護員生徒養成配屬區分及派遣ニ關スル規程左ノ通相定メ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 日本赤十字社救護員生徒ノ養成配屬ハ附表ノ區分ニ依ル

第二條 本部及各支部ニ於テ毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ左ノ標準ニ依ル但シ現在セル救護員ノ數ニ應シ適宜増減スルコトヲ得

病院船一隻毎ニ

七名

看護婦組織救護班一箇毎ニ

三名

看護人組織救護班一箇毎ニ

四名

第三條 病院ヲ有セサル支部ニ於テハ毎年養成ノ生徒數(養成ノ全部ヲ陸軍病院ニ依託セントスル救護看護人生徒ヲ除ク)ヲ前年十二月中ニ養成擔任ノ病院所管ノ本部又ハ支部ニ通報スヘシ但シ救護看護人生徒ニ在リテハ其ノ教育開始ノ時期ヲ養成擔任ノ病院所管ノ本部又ハ支部ト協定更ニ實務練習ヲ依託セントスル陸軍病院所管ノ師團司令部(臺灣ニ在リテハ臺灣總督府陸軍部)ヘ出願シ承認ヲ受ケタル後之ヲ本部又ハ支部ニ通報スヘシ

第四條 本部及支部ニ於テ前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ所管ノ生徒數ト共ニ速ニ之ヲ當該病院ニ通報スヘシ

第五條 救護看護人生徒ヲ依託スル陸軍病院ハ成ルヘク當該支部ニ近接スルモノタルヲ要ス但シ其ノ人員ハ師團司令部所在地ノ陸軍病院ニ在リテハ二十名以内、聯隊所在地ノ陸軍病院ニ在リテハ五名

以內トス

第六條 病院ニ於テ生徒ヲ入學セシメタルトキハ身體検査ヲ行ヒ異常ヲ認メタル者ハ其ノ現症及將來ノ見込ヲ當該支部ニ通報スルモノトス

附 則

明治四十二年二月本達丙第貳號救護看護婦、救護看護人各生徒養成依託ニ關スル件ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本規程施行ノ際本社病院及支部病院ニ於テ養成中ノ救護員生徒ハ配屬區分外ノ者ト雖卒業ニ至ル迄當該病院ニ於テ養成スルモノトス

本規程施行ノ際支部救護員養成所ニ於テ養成中ノ救護員生徒ハ大正七年四月一日ヲ以テ養成擔任ノ病院ニ轉學セシムルモノトス但シ場合ニ依リ社長ノ承認ヲ得テ卒業ニ至ル迄當該養成所ニ於テ養成スルコトヲ得

附 表

日本赤十字社救護員生徒養成配屬區分表

病 院 名	配 屬 區 分
日本赤十字社病院	本部 東京支部 神奈川縣支部 埼玉支部 千葉支部 茨城支部 愛知支部 静岡支部 山梨支部 宮城支部 福島支部 岩手支部 青森支部
北海道支部病院	北海道支部

大阪支部病院	大阪支部	長崎支部	岡山支部	廣島支部	山口支部
兵庫支部姫路病院	兵庫支部	熊本支部			
群馬支部病院	群馬支部	栃木支部			
三重支部山田病院	三重支部	岐阜支部	福井支部		
滋賀支部病院	滋賀支部	京都支部			
長野支部病院	長野支部	新潟支部			
秋田支部病院	秋田支部	山形支部			
富山支部病院	富山支部	石川支部			
鳥取支部病院	鳥取支部	島根支部			
和歌山支部病院	和歌山支部	奈良支部			
香川支部病院	香川支部	德島支部	高知支部	佐賀支部	宮崎支部
愛媛支部病院	愛媛支部	鹿兒島支部	沖繩支部		
臺灣支部醫院	臺灣支部				

●救護看護人生徒寄宿料増額方ノ件

大正六年十二月二十二日
救第一一九四號(本社)

通

牒

(本社病院及病院
ヲ有スル支部宛)

今般救護員養成規則改正學費中救護看護人生徒及候補生ノ寄宿料ハ地方ノ狀況ニ依リ増額シ得ルコト
ニ相成候處右増額ノ必要ヲ認メタルトキハ豫メ關係支部ト協議ノ上各病院毎ニ給額一定相成候様取計
ハルヘク此段及通牒候也

追テ陸軍病院依託ノ場合ニ在リテハ本文ニ依ラス其ノ生徒所管ノ支部ニ於テ適宜相定メ候儀ト承知
可有之候

通

牒

(男班ヲ負擔シ病院
ヲ有セサル支部宛)

今般救護員養成規則改正學費中救護看護人生徒及候補生ノ寄宿料ハ地方ノ狀況ニ依リ増額シ得ルコト
ニ相成候處陸軍病院依託ノ場合ニ在リテハ生徒所管ノ支部ニ於テ適宜定メラレ差支無之候得共本社病
院支部病院在學ノ者ニ關シテハ別紙ノ通り本社病院及病院ヲ有スル支部へ通牒致置候間爲念及通牒候
也

●救護員生徒學科教授擔任者報告方ノ件

大正七年二月十八日
救第九三號(本社)

通牒

救護員生徒學科教授擔任者報告別紙様式ノ通り相定メ明治四十二年七月二十八日救第五三八號ハ廢止候條此段及通牒候也

(別紙)

大正何年

救護看護婦生徒各學年第何學期
(救護看護人生徒第一學期)

學科教授擔任者報告

病院名

科目名	教授擔任者	病院名
何々	囑託員 何々高等女學校長	何誰
何々	外科醫長	何誰
何々	豫備上等看護長	何誰
何々	書記	何誰
何々		何誰

調製上ノ注意

一 本報告ハ救護看護婦生徒ニ在リテハ各學年各學期教授開始ノ郡度、救護看護人生徒ニ在リテハ第一學期教授開始ノ郡度調製提出ス但救護看護婦生徒各學年ニ依リテ教授擔任者ヲ異ニスルモノアルトキハ區別記載ス

- 二 囑託員及社長任命ニアラサル職員ハ官職若ハ履歷中ノ主要ナルモノヲ氏名ニ肩書ス
- 三 擔任者ニ異動ヲ生シタルトキハ隨時其ノ旨報告ス
- 四 救護看護人生徒ノ養成ヲ全部陸軍病院ニ依託シタルモノニ關シテハ本報告ヲ要セス

●全部陸軍病院依託ノ救護看護人生徒ノ卒業證書

等ニ關スル件

大正七年四月十八日
救第三六三號(本社)

通牒

養成ノ全部ヲ陸軍病院ニ依託シタル救護看護人生徒ノ卒業證書及本社病院又ハ支部病院ト所在地ヲ異ニスル陸軍病院ニ於テ實務ヲ練習シタル同生徒ノ卒業證書授與ニ關シテハ左記ノ通取扱可相成此段及通牒候也

- 一 養成ノ全部ヲ陸軍病院ニ依託シタル救護看護人生徒ハ當該陸軍病院ニ於テ調製シタル卒業名簿ニ依リ當該支部長ノ名ヲ以テ救護員養成規則所定ノ卒業證書ヲ授與スルコト
- 二 本社病院又ハ支部病院ニ於テ養成ノ救護看護人生徒ニシテ其ノ病院ト所在地ヲ異ニスル陸軍病院ニ於テ實務ヲ練習シタル者ノ卒業證書ハ當該本社病院又ハ支部病院ニ於テ之ヲ調製シ生徒所管ノ支部ヘ送附セシメ之ヲ生徒ニ授與スルコト

●救護看護婦生徒及救護看護婦長候補生現食料

増額ノ件

大正八年七月廿二日
救第七九四號(社長)

通牒

大正七年十月一日救第九八五號以テ救護員養成規則第一表中救護者看護婦生徒及救護看護婦長候補生ノ現食料ハ地方ノ狀況ニ依リ當分ノ内五割以内増額シ得ル旨及通牒置候處爾來物價益々騰貴ヲ加フルノ趨勢アルニ付更ニ増額ノ必要アリトスル向ニ於テハ特ニ社長ノ承認ヲ經テ若干ノ増額ヲ行ハレ不苦條此段及通牒候也

●救護看護婦生徒及救護看護人生徒募集ノ都度

報告方ノ件

大正八年二月三日
救第九七號 社名

自今救護看護婦生徒看護人生徒ノ募集ヲ行ヒタルトキハ其都度左記ノ事項ヲ報告可有之候也

- 左記
- 一 生徒採用數
- 二 志願者數
- 三 志願取消者數
- 四 試験不參者數
- 五 身體検査不合格者數
- 六 學科試験及試問不合格者數
- 七 試験合格者數
- 八 應募者普通學ノ狀況
 - イ 高等小學卒業者數
 - ロ 右ニ準スル者數
 - ハ 高等女學校卒業者數
 - ニ 右ニ準スル者數
 - ホ 看護婦免狀又ハ産婆免狀ヲ有スル者數
 - ヘ 其他何々

◎第二節 任用

●日本赤十字社救護員任用規則

明治四十二年五月廿七日
本達 甲 第四號

改正

●明治四十四年八月一日
本達 甲 第一五號

日本赤十字社救護員任用規程別冊ノ通相定ム
但シ日本赤十字社救護員採用規則ハ廢止ス

(別冊)

第一條 左記救護員ノ任用ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

- 一 救護理事、救護副理事、救護醫員、救護調劑員、救護看護婦監督
- 二 救護書記、救護調劑員補、救護看護婦長、救護看護人長
- 三 救護看護婦、救護看護人

第二條 本則ニ依リテ任用スル救護員ノ人員ハ救護部及救護團體ノ編制定員ニ其ノ補充員ヲ加ヘタル員數ニ依ル

第三條 左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ救護員ニ任用セス

- 一 身體強健ナラサル者
- 二 素行修マラサル者
- 三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者及從前身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 四 懲役又ハ無期若ハ六箇月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ニ依リ重罪又ハ定役ニ服スヘキ

輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 常備兵役後備兵役補充兵役ニ關係アル者

第四條 救護理事、救護副理事ハ本社ノ職員タル者ヨリ任用スルヲ例トス但シ必要ニ應シ他ノ適任者ヨリ任用スルコトアルヘシ

第五條 救護醫員、救護調劑員ハ年齢五十年未滿ニシテ醫師免許證（醫術開業免狀）藥劑師免狀ヲ所持シ左ノ各號ノ一ニ該ル者ヨリ任用ス

一 帝國大學醫科大學ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

二 專門學校令ニ依ル醫學校ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

第六條 救護看護婦監督ハ年齢三十年以上ノ救護看護婦長ニシテ適任ナリト認ムル者ヨリ任用ス

第七條 救護書記ハ左ノ各號ノ一ニ該ル者ヨリ任用ス

一 本社ノ書記タル者又ハ書記タリシ者

二 官衛其ノ他ニ在リテ庶務又ハ會計ニ從事シタル者

第八條 救護調劑員補ハ年齢二十年以上五十年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ヨリ任用ス

一 陸海軍ノ衛生部下士タリシ者

二 一箇年以上病院又ハ藥劑師、醫師ノ藥局ニ在リテ調劑ノ助手ト爲リ技能熟達セル者

第九條 救護看護婦長救護看護人長ハ其ノ適任證書ヲ所持スル者ヨリ任用ス

前項ノ外必要ニ應シ救護看護婦長ハ救護看護婦ニシテ一箇年以上本社病院又ハ支部病院ニ勤務シ又ハ戰時救護ノ勤務ニ從事シ成績優秀且取締ノ才能アル者救護看護人長ハ陸海軍ノ衛生部下士タリシ者ヨリ任用スルコトヲ得但シ支部ニ於テ任用スル場合ハ社長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 救護看護婦、救護看護人ハ本社ノ生徒ニシテ成規ヲ卒ヘタル者ヨリ任用ス

磨工ニ充ツル救護看護人ハ年齢四十年未滿ニシテ陸海軍ノ磨工タリシ者又ハ二箇年以上醫療器械工ニ從事シ且算筆ノ心得アル者ヨリ任用ス

第十一條 救護員ノ任用ハ社長之ヲ行フ但シ支部ニ要スル救護看護婦監督以上ハ支部長ノ推薦ニ依リテ社長之ヲ行ヒ救護書記以上ノ任用ハ支部長之ヲ行フ

支部所屬ノ救護員ハ支部長之ヲ管理ス

第十二條 救護員ヲ任用セムトスルトキハ願書^{第一式}履歷書^{第二式}戶籍謄本ヲ徵シ且身元調査（第三條ノ第三號第四號第五號ニ該當ノ有無）及身體検査ヲ行フ但シ本社養成ノ者ヨリ任用スル場合ハ此

ノ限ニ在ラス

第十三條 救護員ヲ任用スルトキハ辭令ヲ交付シ誓約書^{第三式}ヲ徵ス

第十四條 救護員ヲ任用シタルトキハ其ノ所管ニ從ヒ本部又ハ支部ニ於テ救護員名簿^{第四式}ヲ調製ス

第十五條 支部ニ於テ救護書記以下ヲ任用シタルトキハ其ノ人名ヲ支部長ヨリ社長ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第十六條 左記救護員ハ誓約年限ヲ定メ之ヲ任用ス

救護醫員 五箇年

救護看護婦長、救護看護婦 十五箇年

救護看護人長、救護看護人 十箇年

救護看護婦ヨリ救護看護婦長ニ救護看護人ヨリ救護看護人長ニ任用シタル者ノ誓約年限ハ前職ノ年限ヲ通算ス

第十七條 救護員ノ誓約年限ハ任用ノ月ヲ以テ起算シ其ノ滿期ハ終月ノ末日トス

第十八條 救護員ノ誓約年限ハ左ノ如シ

救護醫員

五十五年

救護看護婦長、救護看護人長

五十年

救護看護婦、救護看護人

定限年齢ニ達スルモ身體尙強健ナル者ニ對シテハ五箇年以内ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第十九條 救護員誓約年限既ニ滿ツルモ戰時又ハ事變ノ際ハ其ノ年限ヲ延スコトアルヘシ

第二十條 救護員再誓約ヲ志願スル者アルトキハ身體檢査ノ上更ニ誓約ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十一條 救護員海外(滿洲委員部管内ヲ除ク)ニ旅行シ又ハ住所變更ノ届出ヲ怠リテ住所不明ト爲

リタルトキハ其ノ期間ヲ誓約年限ニ算入セス

第二十二條 誓約年限中ハ毎年手當金トシテ救護醫員ニ三十六圓救護看護人長ニ十八圓救護看護人ニ

十二圓ヲ給ス

前項ノ手當ハ月割ヲ以テ六月、十二月ニ給ス

第二十三條 前條ノ手當金ハ本社ヨリ俸給又ハ報酬ヲ受クル者及第二十一條ニ該當スル者ハ其ノ支給

ヲ停止ス

前項ノ事故曆日ノ月割一箇月ニ滿タサルモノハ停止處分ヲ行ハス

第二十四條 救護員ハ戰時又ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス

前項ノ外天災事變其ノ他演習、講習、點呼ノ時亦之ヲ召集ス

第二十五條 救護員左記事項ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ解ク

一 第三條ノ各號ノ一ニ該リタルトキ

二 誓約定限又ハ定限年齢ニ達シタルトキ

三 規則改正又ハ其ノ他事由ニ依リ解職ヲ必要ト認メタルトキ

第二十六條 救護員傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ醫師二名以上勤務ニ堪ヘスト診斷シタルトキハ其ノ診

斷書ヲ添ヘ解職ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 救護員ニ解職辭令ヲ發送シタルトキ住所ノ變更其ノ他ノ事故ニ依リ本人ニ到達セサルコ

トアルモ本社ハ發令ノ日ヲ以テ其ノ名籍ヲ削除ス

第二十八條 救護員轉籍、轉住、氏名變更其ノ他身上ノ異動アリタルトキハ所管ニ從ヒ本部又ハ支部

ニ届出ヘシ

附 則

第二十九條 本則施行前ニ任用シタル救護員ニモ亦本則ヲ適用ス但シ誓約年限、定限年齢及誓約年限

中ノ手當金ハ從前ノ規定ニ據ル

書式第一號 (用紙半紙罫紙又ハ白紙)

願 書

某 儀

貴社救護醫員(何々)志願ニ付御任用相成度別紙履歷書戸籍謄本相添此段相願候也

明治何年何月何日

本籍 何應(府)(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
住所 何應(府)(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

傍訓ヲ記入ス
氏 名

日本赤十字社長某支部長(爵氏名殿)

書式第二號 (用紙半紙罫紙又ハ白紙)

履 歷 書

何應(府)(縣)華(士)族(平民)

位、勳、功、學位、爵 氏

年 月 日 名 生

記載ハ悉ク
外履歴ノ
關スル事
項ハ悉ク
記載ス

- 一、何年何月何日某學校入校何年何月何日同校卒業
- 一、何年何月何日第何號醫師免許證(第何號醫術開業免狀)(第何號藥劑師免狀)ヲ受ク
- 一、何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何學校ニテ何學研究
- 一、何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何學校(何々)ニ於テ何々專修
- 一、何年何月何日何學校ニ入校何年何月何日同校卒業
- 一、何年何月何日任何々叙高等官何等級俸
- 一、何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何病院(某藥劑師)(某醫師)ノ調劑助手トシテ藥局勤務ニ從事ス、
- 一、何年何月何日任陸軍何等看護長(陸軍何等計手)(海軍何等看護手)(海軍何等書記)
- 一、何年何月何日某衛戍病院ニ於テ磨工ヲ命セラレ月給何圓何年何月何日何々ニ依リ磨工ヲ免セラレ
- 一、何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ某工場ニ於テ職工(何々)トシテ醫療機械ノ工務ニ從事ス

- 一、何年何月何日何々ニ依リ非(休)職ヲ命ス何省(何々ヲ免セラレ)
 - 一、何年何月何日叙正(從)何位
 - 一、何年何月何日何々ニ付金何百圓下賜
 - 一、何年何月何日何々ノ廉ニ依リ俸給何分ノ一減俸
 - 一、何年何月何日叙勳何等授瑞寶(旭日)章
 - 一、救護員任用規則第三條ノ三、四、五ニ關係ナシ
- 右ノ通相違無之候
- 明治何年何月何日

書式第三號 (用紙半紙野紙又ハ白紙)

誓 約 書

某 儀

今般日本赤十字社救護員任用規則ニ依リ救護醫員(何々)ニ任用相成候ニ付テハ報國恤兵ノ主旨ヲ體認シ御規則嚴重ニ可相守ハ勿論召集ノ際ハ速ニ之ニ應シ救護ノ業務ニ從事可仕候也

明治何年何月何日

本籍 何廳(府)(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
 住所 何廳(府)(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
 氏 名

日本赤十字社長某支部長爵氏名殿

書式第四號 (用紙美濃紙)

前 身 履 歷	本 社 出 身	本 社 出 身 後 ノ 履 歷		年 誓 約 限 約 自 何 年 何 月 何 日 至 何 年 何 月 何 日	職 務 救 護 醫 員 (何々) 額 給 俸 本 時 戰 何 額 格 資 員 社 正 (特 別) 社 員 位 勳 功 學 位 正 (從) 何 位 勳 何 等 瑞 冠 日 寶 何 功 何 實 績 名 氏 戶 主 (某 何 男、女 (何々)) 傍 訓 ナ 記 入 ス 氏 名 何 年 何 月 何 日	所 管 本 部 (何 支 部) 住 所 本 籍 及 族 稱 何 廳 (府) (縣) 何 郡 (市) (區) 何 町 (村) 何 番 地 華 (士) 族 (平 民)
		傷 起 勤 務 病 因 務	戒 懲			
何 年 何 月 何 日 何 病 院 何 職 拜 命 何 年 何 月 何 日 辭 職	何 年 何 月 何 日 第 何 號 醫 師 開 業 免 狀 (第 何 號 藥 劑 師 免 狀) ヲ 受 ク	何 年 何 月 何 日 何 地 ニ 於 テ 何 々 ニ 由 リ 何 傷 (何 病)	何 年 何 月 何 日 何 々 ノ 廉 ニ 依 リ 俸 給 何 分 ノ 一 減 俸	何 年 何 月 何 日 何 々 ニ 付 叙 勳 何 等 金 何 圓 下 賜		

三、出身後本
履、身、本
出、後、社
履、身、本
出、後、社
履、身、本
出、後、社

本社出身後ノ履歷

●救護團體編制定員ニ對スル補充員ノ件

改正

●明治四十二年五月十八日
本達乙第四號

明治四十一年十一月二十六日
本達乙第五號

第一條 救護員任用規則第二條ノ補充員ハ左記救護員ニ在リテハ救護團體編制定員ノ五分ノ二ヲ準備スルモノトス但一人ニ達セサル端數ハ之ヲ一人ニ算ス

救護醫員

救護看護婦長

救護看護人長

救護輸長

救護看護婦

救護看護人

救護輸送人

前項ノ救護看護婦長、救護看護婦ニ在リテハ本部、支部ノ必要ニ應シ若干ノ増置ヲ爲スコトヲ得但シ此場合支部ニ在リテハ社長ノ承認ヲ受クヘキモノトス

第二條 理事員、救護書記並救護醫長、救護調劑員、救護看護婦監督、救護調劑員補ノ補充員ハ臨時必要ニ應シ之ヲ置ク

第三條 救護看護婦長、救護看護人長、救護輸長ノ補充員ニハ救護看護婦長、救護看護人長、救護輸長ノ適任證書ヲ所持スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 救護看護婦、救護看護人、救護輸送人ハ養成ノ都合ニ依リ一時第一條ノ員數ニ超過スルヲ妨ケス

第五條 本社ノ職員ニシテ救護醫員、救護調劑員ヲ志願スル者ハ第一條ノ員數ニ加ヘス員外トシテ之ヲ置クコトヲ得

第六條 誓約停止中ノ者ハ第一條ノ員數ニ加ヘス員外トシテ取扱フコトヲ得

附 則

第七條 現在救護員ノ人員救護團體ノ編制及第一條ノ員數ヲ超過スルトキハ誓約滿期迄員外トシテ之ヲ置クコトヲ得

● 戦時編制人員中調劑員ハ當分配屬セサルニ付

任用ニ及ハサル件

明治四十二年二月二十二日
救護法第二十七條(社長)

通 牒

戦時救護規則第二表救護班編制人員中ノ救護調劑員ハ當分ノ内救護班ニ配屬スルヲ要セス隨テ救護調劑員ハ任用ニ及ハス候此段及通牒候也

●救護看護婦組長救護看護人組長選命方ノ件

大正三年八月十七日
救第七三七號(本社)

通牒

- 戰時救護規則ニ據リ救護看護婦組長救護看護人組長選命方左ノ通り相定メ候條此段及通牒候也
- 一 救護看護婦組長、救護看護人組長ハ救護團體編成ニ際シ其ノ編成員中ヨリ本社又ハ支部ニ於テ之ヲ命ス但シ爾後異動ノ場合ハ當該團體ノ編成員中又ハ其ノ他ヨリ之ヲ命ス
 - 二 組長ハ左ノ順位ニ依リ之ヲ命ス
 - 一 救護看護婦組長救護看護人長ノ適任證書ヲ所持スル者
 - 二 曾テ組長タリシ者
 - 三 救護看護婦、救護看護人ニシテ學術優等及取締ノ才能アル者
 - 三 組長當該團體ヲ離ルルトキハ別ニ辭令ヲ用キス其ノ職務ヲ解除セラレタルモノトス
 - 四 辭令書式別紙ノ通
 - 書式 (用紙半紙半葉又ハ全頁紙)

病院船何丸(第何救護班)編入中組長ヲ命ス
年 月 日

救護看護婦(人)氏名

日本赤十字社(支部)印

● 救護員ノ席次ニ關スル件

大正三年九月十八日
救第九三九號(社長)

通牒

救護員ノ席次自今左ノ通り相定メ候條此段及通牒候也

- 一、救護員ノ席次ハ戰時救護規則所定編制ノ職順ニ依リ各職中ノ席次ハ本社養成ノ者ヨリ任用スル救護員(救護看護人長ヲ除ク)ニ在リテハ故參順ニ依リ其ノ以外ノ救護員ニ在リテハ戰時本俸額ノ給額順ニ同給額ノ者ハ其ノ故參順ニ依ル
- 二、救護看護婦救護看護人ニシテ組長勤務中ノ者ハ救護看護婦救護看護人ノ上席トシ其ノ席次ハ故參順ニ依ル
- 三、所管ヲ異ニスル救護員ヲ臨時混同スルトキノ各職ノ席次ハ前各號ニ依ルノ外本部及支部順ニ依ル

●救護員任用及解職辭令書式ノ件

明治四十二年十二月三日
本達 丙 第六號

改正

●明治四十三年十月廿三日
本達 丙 第四號

救護員任用及解職辭令書式左ノ通相定ム

但シ明治四十二年五月二十七日救第四四六號通牒ハ廢止ス

救護員任用及解職辭令書式

救護看護婦監督以上

(用紙鳥ノ子紙縱七寸六分横壹尺)

氏 名

日本赤十字社救護理事(何々)ヲ命ス
但シ本部(何支部)所屬トス

年 月 日

社 長 名 印

(用紙局紙八行罫紙縱九寸横六寸五分)

職 氏 名

(救護員任用規則第二十五條第二十六條)ニ依リ日本赤十字社救護理事何々ヲ解ク

年 月 日

社 名

救護書記以下

(用紙寸法ハ救護看護婦監督以上ニ同シ)

日本赤十字社救護書記(何々)ヲ命ス

氏 名

年 月

社
日印
(支部印)

社 名(支部名)

(用紙寸法ハ救護看護婦監督以上ニ同シ)

職 氏 名

年 月 日

社 名(支部名)

(救護員任用規則第二十五條第二十六條)ニ依リ日本赤十字社救護書記(何々)ヲ解ク

● 救護看護婦救護看護人初任日附一定ノ件

大正四年三月十八日
救護第二八五號

通 牒

救護看護婦救護看護人ノ初任日附ハ從來區々ニ相成居リ候得共右ハ自今卒業ノ翌月一日附ヲ以テスル
コトニ御取扱相成度此段及通牒候也

●救護員任用手續濟ノ上ハ履歷書戸籍謄本及誓約書ヲ

支部ニ保存ノ件

明治四十二年十一月三十日
救護第八六五號(本社)

通牒

救護員履歷書戸籍謄本及誓約書ハ救護員名簿取扱心得ニ依リ救護員名簿ト共ニ保存ヲ要シ候ニ付從來本部ニ於テ保存セル貴部所管救護員左記ノ名ニ對スル該書類此際及送付候尙將來ハ任用手續濟ノ上等ノ書類可及送付候條誓約書ト共ニ保存有之度此段及通牒候也

●救護員書記以下任用及各生徒採用ノ節報告竝

救護員異動報告ノ件

明治四十二年五月二十七日
救護第四四九號(本社)

改正

●大正六年十二月二十二日
救護第八七八號

通牒

救護書記以下任用及救護員各生徒採用ノ節ハ自今別紙書式ニ依リ報告有之度尙異動社長任用ニ係ル
救護員ノ異動共ノ場
合ハ其異動年月日及事由ヲ記載シ報告有之度此段及通牒候也

追テ救護員及同生徒連名簿調製上入用ニ付現在ノ救護書記以下並ニ同生徒ノ人名別紙書式ニ依リ來
ル六月十五日迄ニ報告有之度候也

●救護員任用ノ際交付スヘキ書類ノ件

大正三年一月八日
救護第二〇號

通牒

救護員任用ノ際交付シ來リタル左記書類ハ任用ノ都度送付致居候處爾今生徒出身者ニ交付スル分ニ限
リ其卒業前ニ豫送可致候間此段及通牒候也

左記

- 一 總裁殿下御諭旨寫
- 一 救護員心得
- 一 日本赤十字社條例
- 一 同定款
- 一 戰時救護規則
- 一 同施行手續
- 一 救護員任用規則
- 一 救護員召集規則
- 一 救護員戰時給與規則
- 一 救護員平時召集給與規則
- 一 災害救護規則
- 一 救護員服裝規程
- 一 ナイチンゲール嬢寫眞(男救護員ヲ除ク)

●救護看護婦監督以上海外旅行其他異動ノ都度

報告ノ件

明治四十二年十一月十八日
救第 八六六 號(本社)

救護看護婦監督以上ニシテ海外旅行其他ノ爲メ誓約停止及停止解除若ハ氏名變更ノ場合ハ其都度報告有之度候也

●救護員誓約年限計算方法ノ件

明治四十一年九月十五日
救第三九四號(第一節)

看護婦看護人等ノ誓約年限ノ儀ハ生徒若ハ救護員ニ採用當時ノ規則ニ照シ差出シタル各自ノ誓約書ニ據リ調査可相成等ニ候處調査方相違ノ向モ往々有之歟ニ承及候ニ付別紙參考迄ニ及回付候也

發表年月日	名	稱	誓約年限	計算方法	摘	要
明治廿九年五月	地方部看護婦養成規則	卒業後滿十年間	日ヲ以テ算ス		本則改正以前卒業ノ者及入學濟ノ生徒ノ縮約年限ハ舊規則ニ據ル	
同三十一年八月廿五日	支部準備看護婦規則	卒業後滿十年間	同上		本則第二十一條ニ據リ本社病院ニ於テモニ於テ養成シタル支部選出ノ者ニ於テ	
同廿六年九月	本社看護婦養成規則	卒業後滿十年間	同上		本則第三十一條ニ據リ本社病院ニ於テ養成シタル支部選出ノ者及入學濟ノ生徒ノ縮約年限ハ舊規則ニ據ル	
同三十一年八月廿五日	本社準備看護婦規則	卒業後滿十年間	同上		本則第三十一條ニ據リ本社病院ニ於テ養成シタル支部選出ノ者及入學濟ノ生徒ノ縮約年限ハ舊規則ニ據ル	
看護婦長誓約年限ハ以上ノ四個規則ニ據ル						
同三十六年十二月二十二日	本社救護員採用規則	採用後滿十年間	月ヲ以テ算ス		本則施行前ニ採用シタル者ノ誓約年限定年限ハ從前ノ規則ニ據ル	

看護人及看護人	
同廿九年 八月廿五日	同三十二年 十二月廿二日
本社準備看護人規則	本社救護員採用規則
卒業後滿十年	採用後看護人長ハ 滿五年間看護人ハ 滿十年間看護人ハ (本則第七條參照)
同上	同上
本則改正以前ニ卒業シタル者 及入學ノ生徒ノ縮約年限ハ 舊規則ニ據ル	本則施行前ニ採用シタル者ノ 誓約年限定年限年ハ從前ノ規 定ニ據ル

● 救護醫員推薦書ニ修得ノ外國語及得意科

記入方ノ件 大正四年六月四日
救第六七九號(本社)

通牒

自今救護醫員推薦ノ場合ハ其ノ推薦書ニ本人ノ修得セル外國語ノ種類及其ノ程度並内科外科等本人ノ得意トスル科名記入相成度此段及通牒候也

●第三節 召集

●日本赤十字社救護員召集規則

明治四十三年十月十九日
本達甲第一六號

改正 ●明治四十四年九月十九日
本達甲第二一號

日本赤十字社救護員召集規則別冊ノ通改正ス
(別冊) 日本赤十字社救護員召集規則

第一條 救護員ノ召集ハ戰時召集、平時召集ノ二トス

第二條 戰時召集ヲ分テ充員召集、補充召集ノ二トス

充員召集ハ戰時又ハ事變ニ方リ救護團體編成ノ爲召集スルヲ謂フ

補充召集ハ充員召集實施後ニ於テ關員補充ノ爲召集スルヲ謂フ

第三條 平時召集ヲ分テ災害救護召集、演習召集、講習召集、點呼召集ノ四トス

災害救護召集ハ天災事變其ノ他公衆ノ災害ニ際シ救護實施ノ爲召集スルヲ謂フ

演習召集ハ救護團體演習ノ爲召集スルヲ謂フ

講習召集ハ新ニ任用シタル救護醫員ニ對シ救護勤務講習ノ爲召集スルヲ謂フ

點呼召集ハ點檢及諭達ノ爲召集スルヲ謂フ

第四條 災害救護召集ハ災害救護規則ニ據リ之ヲ行フ

演習召集ハ必要ニ應シ臨時之ヲ行フ

講習召集ハ救護員ニ任用シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ之ヲ行フ

點呼召集ハ三箇年毎ニ之ヲ行フ

第五條 救護員ノ召集ハ其ノ所管ニ隨ヒ本部又ハ支部ニ於テ之ヲ行フ但シ他管内ニ在住スル救護員ノ

點呼召集ハ其ノ所在地ノ支部ニ依託シテ之ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ本人ノ救護員名簿寫ヲ送付ス

第六條 救護員ノ召集ハ召集狀書式第一號ヲ用フ

第七條 召集狀ハ戰時召集ニ在リテハ特使又ハ書留郵便ニ依リ送付シ平時召集ニ在リテハ適宜ノ方法ニ依リ送付ス

特使ヲ以テ召集狀ヲ送付シタルトキ本人不在ノ場合ハ家族又ハ同居者ニ交付スルモノトス

召集狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ速ニ受領證ヲ差出スヘシ

第八條 演習召集、講習召集、點呼召集ハ召集期日二十日以前ニ召集狀ヲ發送スルヲ例トス

第九條 救護員召集ヲ受ケタルトキハ指定ノ日時迄ニ到着スヘシ若傷疾疾病其ノ他事故ノ爲應召スル

コト能ハサルトキハ傷疾疾病ニ在リテハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ事故ニ在リテハ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

前項ノ傷疾疾病治療シ又ハ事故止ミタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

第十條 應召員傷疾疾病其ノ他事故ノ爲召集地到着ノ期日ニ遅レタルキトハ其ノ始末書ヲ差出スヘシ

但シ場合ニ依リ口頭ヲ以テ其ノ始末ヲ申告スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ徴スルコトアルヘシ

第十一條 應召員召集地ニ到着シタルトキハ醫員ヲシテ健康診斷ヲ行ハシム但シ診斷ノ結果勤務ニ堪

ヘスト認ムル者ハ直ニ歸郷セシムヘシ

第十二條 救護員ヲ召集スルトキハ救護員召集人名簿書式第二號ヲ調製ス

第十三條 召集旅費手當支給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

附 則

第十四條 樺太委員部、朝鮮本部及滿洲委員部ノ管轄内ニ在住スル救護員ニ對シテハ當分ノ内演習召集、講習召集、點呼召集ヲ行ハサルコトヲ得

第十五條 本則ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年本達甲第四號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

書式第一號ノ一 五寸(曲尺)

受 領 證

一充員(補充)召集狀

右受領ス

明治何年何月何日

住 所

日本赤十字社(某支部)御中

職 氏 名

四寸五分(曲尺)

充員(補充)召集狀

住 所

職 氏 名

(寸四)尺曲

第何救護班(何々)編成(補充)ノ爲召集セラル依テ何月何日午前(後)何時迄ニ何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)日本赤十字社(某支部)ニ參著シ此ノ召集狀ヲ以テ届出テラレヘシ

明治何年何月何日

日本赤十字社(某支部)圖

(尺曲)分五寸七

作成上ノ注意

- 一、用紙ハ適宜ニシテ淡紅色トス
 - 二、召集狀ニ用キル封筒ハ適宜トス但シ其表面ニハ本人不在ノ場合ハ家族又ハ同居者ニ於テ開封スヘキ旨ヲ記載スルヲ要ス
 - 三、裏書ノ心得事項ノ外尙必要ト認ムルモノアルトキハ追加記入スヘシ
 - 四、召集旅費ノ支給ヲ要セサル者ニ在リテハ召集狀裏書心得第五項ハ抹殺スヘシ
- 書式第一號ノ一裏面

心得

- 一、召集狀ノ交付ヲ受ケタルトキハ本狀受領證ノ用紙ヲ切取り之ニ受領セル年月日、住所、職、氏名ヲ記入シ速ニ差出スヘシ本人不在ノ場合ハ家族又ハ同居者ヨリ前項ノ受領證ヲ差出シ其ノ旨本人ニ急報スヘシ
 - 二、傷疾疾病其ノ他事故ノ爲應召スルコト能ハサルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ傷疾疾病ニ在リテハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ事故ハ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添フヘシ
 - 三、前項ノ傷疾疾病治療スルカ又ハ事故止ミタルトキハ本人ヨリ速ニ其ノ旨届出ツヘシ
 - 四、印形及日用品中必要缺クヘカラサルモノノミ携帯スヘシ
 - 五、自服ノ保管ニ必要ナル風呂敷ノ類ヲ携帯スヘシ
 - 五、召集地迄ノ旅費ハ召集地到着ノ上之ヲ支給ス但シ其ノ金額ハ左ノ通
- 金

注意

- 一、本受領證ハ捺印ノ上使ノ者ニ渡スヘシ
- 二、本人ニ代リ受領シタル者ハ職氏名ノ側ニ氏名ヲ記シ捺印スヘシ
- 三、受領者印形ヲ所持セサルトキハ拇印ヲ爲スモ妨ケナシ
- 四、召集狀ヲ郵便ニ依リ受領シタルトキハ本用紙ヲ用キス郵便葉書ヲ以テ差出スモ妨ケナシ

書式第一號ノ二 五寸(曲尺)

受領書

一演習(講習)(點呼)召集狀
右受領ス

明治何年何月何日

日本赤十字社(某支部)御中

住所 職氏名

(四寸五分曲尺)

演習(講習)(點呼)召集狀

住所

職氏名

(尺曲)寸四

演習(講習)(點呼)ノ爲何日間召集セラル依テ來何月何日午前(後)何時迄ニ何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)日本赤十字社(某支部)ニ參著シ此ノ召集狀ヲ以テ届出テラルヘシ

明治何年何月何日

日本赤十字社(某支部)印

(尺曲)分五寸七

●召集等ノ場合御諭旨捧讀ノ件

明治三十六年十二月二十三日
一ノ一第150一號(社長)

本月十八日 總裁殿下ヨリ救護員へ御諭旨ヲ賜ハリ候ニ付各自ヲシテ恪守奉行爲致度仍テ複寫シテ各自へ交付可致候條御傳達有之度候且支部へモ一本配賦致候ニ就テハ後來救護員召集等ノ場合ハ貴下ニ於テ御捧讀其外適宜ノ方法ニ依リ能ク 台旨ノ在ル所ヲ通徹セシムル様可然御取計相成度此段御通牒旁申進候也

追テ支部保存並救護員へ交付ノ分合セテ……部發送爲致候間到着御查收有之度又本部ヨリ及御依託置候救護員へハ貴部ヨリ御交付御取計被下度候此段申添候也

●日本赤十字社救護員點呼規程

明治四十三年十月二十七日
本達乙第八號

改正 ●大正五年二月一日
本達乙第一號 (大正六年一月一日ヨリ施行)

日本赤十字社救護員點呼規程左ノ通相定ム

日本赤十字社救護員點呼規程

第一條 點呼施行ノ時期ハ十月トシ其ノ日數ハ三日以内トス

第二條 點呼ハ施行主任及係員ヲ命シ之ヲ行フ但シ第三條第三號ノ健康調査ハ應召ノ救護醫員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

施行主任ハ本部ニ在リテハ救護課長支部ニ在リテハ支部主事ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 點呼ハ左ノ事項ヲ施行ス

- 一 呼名點檢
 - 二 總裁殿下ノ御諭旨捧讀
 - 三 健康及在郷間ノ狀態調査
 - 四 諸規程ノ新定又ハ改正ニ關スル事項及其ノ他必要ナル事項ノ注意
 - 五 身上異動ノ調査
 - 六 外國語又ハ他ノ専門ノ學術ヲ修得セシ者ハ其ノ學歷ノ調査
- 第三條ノ二 點呼ヲ終リタルトキハ本部ニ在リテハ社長支部ニ在リテハ支部長諭告ヲ與フ
- 第四條 支部長點呼施行ヲ結了シタルトキハ左記各號ノ書類及其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記シ十日以内ニ社長ニ報告ス
- 一 應召及不應召職別人員表 様式第一號

- 一 本表以外ノ救護員ノ考査ハハルコトニ依リテ
 - 二 應召員職業別人員表 第二式
 - 三 應召女救護員結婚者人員表 第三式
 - 四 他支部へ召集依託救護員人員表 第四式
 - 五 點呼召集ヲ行ハサリシ救護員人員表 第五式
- 第五條 他管ヨリ委託セラレタル救護員ニ對シテハ支部長ハ人名別ニ點呼施行ノ結果ヲ記シ當該所管ノ本部又ハ支部ニ通報ス
- 様式第一號(用紙半紙)

注意
一 本表以外ノ救護員ノ考査ハハルコトニ依リテ
二 應召員職業別人員表
三 應召女救護員結婚者人員表
四 他支部へ召集依託救護員人員表
五 點呼召集ヲ行ハサリシ救護員人員表

應召及不應召職員人員表		某支部	
職名	召集員應召	病不	氣事
救護醫員	救護看護婦長	救護看護人長	救護看護婦
救護看護婦			
救護看護人			
計			
備考			

様式第二號(用紙半紙)

注意
一 本表以外ノ救護員ノ考査ハハルコトニ依リテ
二 應召員職業別人員表
三 應召女救護員結婚者人員表
四 他支部へ召集依託救護員人員表
五 點呼召集ヲ行ハサリシ救護員人員表

應召員職業別人員表		某支部	
職名	業吏	救護看護婦長	救護看護人
官(公)吏	救護看護婦	救護看護人長	救護看護婦
救護看護婦			
救護看護人			
計			
備考			

様式第三號(用紙半紙)

注意
 一 救護員ハ救護シテハ
 二 救護員ハ救護シテハ
 三 救護員ハ救護シテハ
 四 救護員ハ救護シテハ
 五 救護員ハ救護シテハ
 六 救護員ハ救護シテハ
 七 救護員ハ救護シテハ
 八 救護員ハ救護シテハ
 九 救護員ハ救護シテハ
 十 救護員ハ救護シテハ

考 備	計	應召女救護員結婚者人員表			某 支 部	
		年 齡	應 召 人 員	應召人員中ノ結婚者	結婚者中ノ有兒者	
		二十五歳未満				
		二十五歳以上				
		三十歳以上				
		三十五歳以上				

様式第四號(用紙半紙)

注意
 一 本表以外ノ救護員アルトキハ備考ニ記ス

考 備	計	他支部へ召集依託救護員人員表					某 支 部		
		依託支部名	救護 醫 員	救護看護婦長	救護看護人長	救護看護婦	救護看護人		

様式第五號(用紙半紙)

點呼召集ヲ行ハサリシ救護員人員表

某 支 部

職 名	籍 貫			支那旅行	歐洲旅行	米國旅行	其他(旅行)	住所不明
	樺太在住	朝鮮在住	滿洲在住					
救護 醫員								
救護看護婦長								
救護看護人長								
救護看護婦								
救護看護人								
計								
考 備								

●他管内在住救護員點呼ノ件

大正三年八月二日
救第七一二號(本社)

通 牒

他管内ニ在住スル救護員ノ點呼召集ハ其ノ所在地ノ支部ニ依託シテ之ヲ行フ筈ニ候得共實際上所管支部ニ召集スル方便宜ナリト認メラルル場合ハ強テ所在地ノ支部ニ依託セサルモ差支無之候間此段及通牒候也

●點呼召集當時ノ諭告及注意事項ヲ不應召者ニ告知ノ件

明治四十一年十月十四日
救第四六一號(本社)

通牒

救護員點呼召集ノ際諭告及ヒ注意事項ハ一般救護員心得上必要ニ付當日不應召者ニ對シテハ特ニ其要旨ヲ告知相成度此段及通牒候也

●日本赤十字社救護團體演習規程

明治四十三年十月二十七日
本 達 乙 第 九 號

日本赤十字社救護團體演習規程左ノ通相定ム

日本赤十字社救護團體演習規程

第一條 救護團體演習ハ戰時救護又ハ天災救護ニ擬シ之ヲ施行ス場合ニ依リ學術科ノ復習ニ止ルコトアルヘシ

第二條 演習ハ其ノ所管ニ從ヒ本社病院、支部病院、養成所ニ於テ之ヲ行フ場合ニ依リ陸軍衛生隊演習、海軍小演習等ニ附隨シ又ハ陸海軍病院ニ派遣シテ之ヲ行フコトアルヘシ

第三條 演習施行ノ期間ハ七日以内トス

第四條 支部ニ於テ演習ヲ施行セムトスルトキハ支部長ハ演習ノ期間及計畫ヲ定メ社長ノ承認ヲ受ク
第五條 演習ニ要スル救護材料ハ戰時及天災救護ノ爲準備スルモノヲ充用ス

第六條 演習ハ本部又ハ他ノ支部ト聯合シテ之ヲ施行スルコトヲ得

第七條 演習施行ヲ結了シタトキハ支部長ハ左ノ事項ヲ記シ十日以内ニ社長ニ報告ス

一 演習施行月日

二 應召及不應召職別人員

三 演習ノ方法及作業ノ狀況

前各號ノ外必要ト認ムル事項

附 則

本規程ハ明治四十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年人甲第一〇號日本赤十字社支部救護演習施行準則ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●日本赤十字社救護醫員講習規程

大正六年十月一日
本連乙第五號

日本赤十字社救護醫員講習規程左ノ通相定メ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本赤十字社救護醫員講習規程

第一條 日本赤十字社救護員召集規則第四條ニ依ル救護醫員ノ講習ハ日本赤十字社病院ニ於テ行ヒ病院長之ヲ掌理ス

第二條 講習ノ期間ハ概十日以内トス

第三條 講習ニ救護勤務ニ必要ナル事務學術ヲ授クルモノシニテ其ノ科目概左ノ如シ

一 赤十字條約及赤十字事業ノ要領

二 陸海軍ノ制規及衛生勤務ノ要領

三 軍陣内科學軍陣外科學

前項ノ外必要ニ應シ科目ヲ増加シ且陸海軍ノ病院、學校等ヲ參觀セシムルコトアルヘシ

第四條 講習施行ノ時期、期間及人員ハ社長之ヲ定メ其ノ都度本社病院長及支部長ニ通知ス

第五條 本社病院長第四條ノ通知ヲ受ケタルトキハ講習日課及擔任講師ヲ定メ社長ニ報告スヘシ

第六條 支部長第四條ノ通知ヲ受ケタルトキハ救護員召集規則ニ依リ救護醫員ノ召集ヲ行ヒ講習開始ノ前日ヲ期シ之ヲ本社病院ニ派遣スヘシ

本部所管ノ救護醫員ニ在リテハ社長前項ノ手續ヲ行フ

第七條 前條ノ救護醫員確定シタルトキハ所管ニ依リ社長支部長ハ速ニ其ノ人名ヲ本社病院長ニ通報ス但シ支部ニ在リテハ社長ニモ之レヲ報告スルヲ要ス

第八條 講習ニ要スル參考材料ハ本社病院長ノ請求ニ依リ本部ニ於テ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第九條 講習中ニ於ケル救護醫員ノ願届其ノ他ニ關スル諸件ハ本社病院長之ヲ處理スヘシ

第十條 講習中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ由リ講習ヲ了ル目途ナキ救護醫員ハ本社病院長其ノ事由ヲ具シ社長ノ承認ヲ得テ所管ニ歸還セシムヘシ

第十一條 講習中救護醫員ニハ其ノ所管ニ於テ左記ノ物品ヲ貸與シ之ヲ著用セシムヘシ

- 一 帽
- 一 衣袴 夏期ニ在リ
- 一 外套 テハ夏衣袴
- 一 劔劍帶共
- 一 救護員徽章
- 一 手套
- 一 靴

第十二條 講習結了シタルトキハ本社病院長ハ其ノ狀況ヲ社長ニ報告スヘシ

◎第四節 規律 懲戒

●御諭旨

日本赤十字社ハ
天皇

皇后兩陛下眷護ノ下ニ立チ政府ノ監督ヲ受ケ海外各社ト同盟聯伍スル所ノ團體ニシテ其目的ハ戰時ノ傷者及病者ヲ救護スルニ在ルヲ以テ國家有事ノ日ニ方リ其任務ヲ全クスルハ專ラ救護員ノ力ニ賴ラサルヲ得ス是レ本社カ年來救護員ノ準備ニ務メ其選擇養成ニ苦心スル所以ナリ

明治二十七八年ノ戰役ニ於テ軍衛衛生部ノ事業ヲ助ケ 兩陛下ヨリ優渥ナル 勅語令旨ヲ賜ハリ又三十三年ノ北清事變ニ際シ彼我ノ患者ヲ救護シテ廣ク内外ノ稱讚ヲ受ク尋テ三十四年勅令ヲ以テ日本赤十字社條例ヲ發布セラレ救護員ハ軍人ニ准スルノ待遇ヲ得本社ノ光榮洵ニ大ナリト雖モ其責任モ亦重キヲ加ヘタリ況ヤ赤十字條約ヲ海戰ニ應用シ事業ノ範圍爲メニ廣汎ヲ致ス救護員タル者ハ其職責最モ重大ナリト謂フヘシ因テ茲ニ其要項ヲ示シテ遵守スル所ヲ知ラシム

一 篤ク本社ノ主旨ヲ體シ

天皇 皇后兩陛下下一視同仁ノ聖意ヲ奉シ忠愛ナル衆社員ノ心ヲ心トシ勤勉以テ其職ヲ盡スヘシ

一 陸海軍ノ衛生ヲ幫助スルニ當リ能ク法令紀律ヲ守リ服從敬禮ノ道ヲ失フヘカラス

一 患者ヲ救護スルハ彼我ノ別ナク懇篤深切ヲ旨トスヘシ

一 品行方正ニシテ風紀ヲ保持シ難苦ヲ忍ヒ缺乏ニ耐ヘ能ク其任務ヲ全クスヘシ

一 各其分限ヲ守リ同心協力以テ全體ノ功績ヲ舉クルコトニ勵ムヘシ

以上數項ノモノ一モ之ヲ闕クコトアラハ戰時救護ノ目的ハ完全ニ達スルヲ得ヘカラス救護員タル者ハ

常ニ此旨ヲ服膺シ至誠以テ服効ヲ圖リ本社ノ光輝ヲ發揚センコトヲ望ム

明治三十六年十二月十八日

日本赤十字社總裁 大勳位 功四級 載 仁 親 王

● 救護員心得

明治三十三年七月二十五日
準人乙 第四三九號(社長)

日本赤十字社救護員心得別冊ノ通り改正致候間此段及御通牒候也

日本赤十字社救護員心得

- 一 日本赤十字社救護員タル者ハ社旨ニ遵ヒ報國恤兵ノ大義ヲ盡スヘキハ勿論畏クモ天皇陛下カ軍人ヲ以テ股肱トシ玉フ深遠ノ聖慮ト 皇后陛下カ常ニ傷兵救護ノ事業ヲ眷護シ玉フ宏大ノ慈仁トヲ奉體シ衆社員ノ忠愛心ヲ代表シ一意勤勉以テ能ク其實効ヲ奏スヘシ
- 一 救護員ハ陸海軍衙ノ命令ニ依リ衛生勤務ヲ幫助スルモノナレハ陸海軍ノ法令紀律ヲ遵守スヘシ
- 一 軍人ニ對シテハ常ニ敬禮ヲ厚シ殊ニ傷病兵ニ對シテハ專ラ敬愛懇篤ヲ旨トスヘシ
- 一 救護員ハ個人的功名心ヲ舍テ同心協力以テ全體ノ成功ヲ期スヘシ
- 一 救護員ハ品行ヲ正シク能ク艱苦ト缺乏トニ耐ヘ苟モ本社ノ體面ヲ損スルカ如キ所爲アルヘカラス
- 一 救護員ハ官衙其他ノ取扱若クハ待遇上ニ於テ假令其意ニ適ハサルコトアルモ之ヲ辭色ニ顯ササル様深ク慎ムヘキモノトス
- 一 救護員ノ上級者ハ下級者ノ模範トナルヘキモノナレハ各率先戒慎ヲ加フヘシ
- 一 凡ソ部下ヲ董率スルニハ威嚴ト愛撫トヲ兼ネ寬宥ニ流レス苛酷ニ失セス尤モ愛憎偏頗ヲ慎ミ諸事公平ヲ失ハサル様深ク注意スヘシ
- 一 救護員ハ各職責ヲ帶ヒテ勤務ニ服スルモノナレハ指揮監督者ノ許諾ヲ得スシテ猥リニ職務ヲ離ルヘカラス
- 一 救護員中職務權域ヲ異ニスル者ハ各其分ヲ嚴守シ協和ヲ保ツヘシ
- 一 以上ノ各項ハ天災事變ニ當リ派遣スル救護員ニ在テモ亦之ヲ服膺スヘシ

●救護員陸海軍人ニ對シテ敬禮方ノ件

明治三十五年四月廿四日
人甲第八八號(社長)

通牒

本社救護員敬禮方ニ關シ別紙ノ通陸海軍兩大臣へ伺出候處今般別紙付記ノ通指令相成候間御心得迄ニ此段及御通牒候也

追テ救護員禮式制定以前ト雖モ現ニ養成中ノ準備看護婦生徒同看護人生徒ニ在テハ別紙伺ノ主旨ニ基キ相當ノ敬禮ヲ行ハシメ候義ト御了知相成度此段申添候也
(別紙)

人甲第六五號

本社救護員禮式ノ義從來別段ノ制規無之候處過般發布相成候日本赤十字社條例ニ於テ夫々救護員ノ待遇ヲ定メラレ又曩ニ御認可ヲ得テ救護員制服ヲモ相定メ候ニ付テハ此際凡ソ左記ノ標準ニ依リ本社救護員禮式相定メ度右ハ別段御差支無之哉此段相伺候也

明治三十五年四月五日

日本赤十字社長 伯爵 佐野常民

陸軍大臣 寺內正毅殿

海軍大臣 男爵 山本權兵衛殿

追テ本文禮式細目制定ノ義ハ更ニ御認可可相仰候爲念此段申添候也

- 一 日本赤十字社救護員室内ニ於ケル敬禮ハ陸軍禮式第十八條ニ準シ姿勢ヲ正シ注目ノ禮ヲ行ヒ室外ニ於ケル禮式ハ陸軍禮式第三十一條ニ準シ舉手注目ノ禮ヲ行フ但シ看護婦監督以下女子救護員ハ室外ト雖モ室内ニ於ケルト同一ノ禮ヲ行フ
- 二 前項ノ敬禮ハ救護員相互間及陸海軍ニ對シテ之ヲ行フ

伺之通 (指令)

陸軍大臣
海軍大臣

(参照)

陸軍禮式

第十八條 軍人室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ面シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ルモノトス若シ帽ヲ手ニ持ツトキハ右手ニテ其ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩ルトキハ柄ヲ後ニシ兩鑲ノ間ヲ握ル

第三十一條 軍人室外ノ敬禮ハ舉手注目トス其ノ法姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ伸シ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ受禮者ノ眼又ハ敬スヘキモノニ注目ス

●日本赤十字社救護員懲戒規則

明治三十七年五月四日
本達 第一五號

日本赤十字社救護員懲戒規則左ノ通相定ム

日本赤十字社救護員懲戒規則

- 第一條 救護員戰時事變召集中理事以下ニシテ左ノ行爲アル者ハ本則ニ據リ之ヲ懲戒ス
- 一 救護團體ノ秩序風紀ヲ紊亂シ救護員ノ信用ヲ傷ケ若ハ體面ヲ汚スヘキ行爲アリタル者
 - 二 職務ノ權限ヲ侵シ若ハ他ノ職務執行ヲ妨ケタル者
 - 三 勤務ヲ離レ又ハ勤務ヲ缺キ若ハ之ヲ懈リタル者
 - 四 戰地ニ於テ指定ノ地域外ニ出テタル者
 - 五 秘密ノ事項ヲ傳説漏洩シタル者
 - 六 成規ニ違ヒタル所置ヲ爲シ若ハ命令ヲ怠リ又ハ之ヲ誤リ若ハ之ヲ誤リ傳ヘタル者
 - 七 物件ノ調達、貯藏、運搬、支給ヲ誤リタル者
 - 八 規則、命令ヲ遵奉セス若ハ之ヲ誹謗シタル者
 - 九 罵詈、侮慢若ハ鬭爭シタル者
 - 十 言語、所爲詐偽ニ涉リタル者
 - 十一 白地赤十字ノ臂章又ハ同交付證書ヲ亡失シタル者
 - 十二 酩酊シテ事ヲ省セサル者
 - 十三 疾病事故ニ託シ勤務ヲ免レントスル者
 - 十四 服裝法ニ違ヒタル者
 - 十五 敬禮ヲ缺キタル者

第二條 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 解約
- 二 解任
- 三 減俸一ヶ月以上六ヶ月以下
本俸十分ノ一ヲ減ス
- 四 譴責

看護婦、看護人、輸送人ニ對シテハ尙加役ノ一種ヲ加ヘ二日以上三十日以下勤務ノ外雜役ヲ執ラシム

第三條 社長、理事首長、理事長、理事ハ左ノ區別ニ從ヒ懲戒處分ヲ行フ

- 一 理事以下ノ解約及ヒ看護婦監督以上ノ解任并ニ減俸三ヶ月以上ノ處分ハ社長之ヲ行フ
- 二 看護婦監督以上ノ減俸二ヶ月以下ノ處分及ヒ書記以下ノ解任并ニ減俸三箇月以上ノ處分ハ理事首長(社長管理ノ場合ハ社長)之ヲ行フ

三 看護婦監督以上ノ譴責及ヒ書記以下ノ減俸二ヶ月以下ノ處分ハ理事長(社長又ハ理事首長管理ノ場合ハ社長又ハ理事首長)之ヲ行フ

四 書記以下ノ譴責、看護婦以下ノ加役ノ處分ハ理事(理事首長又ハ理事長直屬ニアリテハ理事首長又ハ理事長)之ヲ行フ

第四條 前條第二號以下ノ懲戒處分ヲ行フ者カ其懲戒處分外ニ涉ルモノト認メタルトキハ本人ノ始末書ニ意見ヲ附シテ上長ニ差出シ其處分ヲ請フヘシ

第五條 懲戒執行中特ニ功績若ハ勤勞アル者ニ對シテハ其執行ヲ免シ若ハ之ヲ輕減スルコトヲ得

第六條 數回減俸以下ノ處分ヲ受ケ尙ホ改悛ノ狀ナキ者ハ解任又ハ解約ス

第七條 懲戒ハ行爲ノ情狀又ハ平素ノ行狀ニ依リ斟酌スルコトヲ得

第八條 懲戒ヲ行フヘキ者アルトキハ本人ヨリ始末書ヲ差出サシメ尙ホ直屬上長ノ意見ヲ徵スヘシ

第九條 懲戒ハ言渡書(附屬書式)ヲ作り之ヲ本人ニ達スヘシ

第十條 懲戒處分ヲ言渡シタルトキハ當該理事員ハ所屬官司ニ報告シ尙ホ順序ヲ經テ其顛末ヲ社長ニ報告スヘシ

第十一條 懲戒處分ヲ受ケタル者アリタルトキハ該所屬理事員ハ本人ノ經歷書又ハ救護員手帳ニ該處分ヲ記入スヘシ

第十二條 使丁、剃夫、洗濯夫ノ懲戒處分ハ看護婦以下ニ準ス

附屬書式(一例) (用紙美濃罨紙)

第何救護班(何何)

職 氏 名

明治何年何月何日某地ヨリ某地迄患者輸送中某地ニ於テ一時休憩中輸長ノ許可ヲ得ス故ナク某地ニ赴キ發程ノ時期ニ後レ遂ニ輸送ノ任務ヲ缺キ午前(午後)何時何分歸投ス

右行爲ハ救護員懲戒規則第何條第何項ニ該當ス因テ解約(解任)ス(何ヶ月間本俸十分ノ一ヲ減ス)(譴責ス)(何日間加役ニ處ス)

明治何年何月何日

懲戒處分ヲ行フ者

職 氏 名

●戰時服務中ノ救護員刑罰ニ關スル件

人甲第九號

客年十二月勅令第二百二十三號ヲ以テ御發布相成候日本赤十字社條例第六條ニ於テ戰時服務中ノ日本赤十字社救護員ハ其職務ノ資格ニ應シ將校及下士卒ノ待遇ニ準スル旨規定セラレ候處右ハ單ニ其資格ニ應シテ待遇セラルルコトヲ定メラレタルマテニテ刑罰ノ義ハ陸海軍刑法及懲罰令ニ據リ處分セラルル義ニハ無之事ト相心得可然哉爲念此段相伺候也

明治三十五年一月十五日

日本赤十字社長

伯爵 佐野常民

陸軍大臣宛
海軍大臣宛

(指令)

壹第二六號

人甲第九號

日本赤十字社

赤十字社救護員刑罰ニ關スル件

伺出之趣左ノ通心得ヘシ

戰時事變ニ際シ陸軍統轄下ニ在テ衛生勤務ヲ幫助スル其社救護員ハ宣誓若ハ讀法ノ式ヲ履行シ軍屬トシテ陸軍刑法及陸軍懲罰令ノ適用ヲ受クルモノトス

明治三十五年四月九日

陸軍大臣印

海總第一三五號ノ二
 人甲第九號戰時服務中日本赤十字社救護員ノ刑罰ニ關スル件ハ伺之通
 但シ海軍刑法ヲ軍人軍屬ニアラサル者ニ適用スルコトニ關シ同法中ニ明文アルモノハ此ノ限ニアラ
 ス

明治三十五年一月二十一日
 海軍大臣印

◎第五節 服 制

●日本赤十字社救護員服制

改正 ●明治四十四年八月一日
 本達甲第一一號
 明治四十三年六月二十七日
 本達甲第八號

日本赤十字社救護員服制陸軍大臣海軍大臣ノ認可ヲ得別冊ノ通改正ス
 但シ明治四十四年十一月迄ハ従前ノ服制ヲ混用スルコト得
 (別冊) 日本赤十字社救護員服制

一、男救護員服制圖例

名稱	職名	帽			
		地質	前章	眼庇	頤紐
救護理事首長、救護理事長、救護理事副長、救護理事、救護調劑員	救護書記、救護調劑員補、救護看護人	表 茶褐絨 裏 甲斐絹 鉢巻 深緑絨 上部喰出	銀色金屬ノ桐花ニシテ其ノ中央ニ赤色ノ十字寸法圖ニ示ス	黒塗革	黒塗薄革兩縁折込トス 釦ハ銀色金屬ノ桐花
		表 茶褐絨 裏 生麻布 鉢巻 深緑絨 上部喰出	上ニ同シ	上ニ同シ	黒塗革 釦ハ銅製ノ桐花
			上ニ同シ	上ニ同シ	上ニ同シ

衣		袴		外		套	
形	製	地	製	地	製	卸	製
狀	式	質	式	質	式	式	式
圖ノ如シ	長袖 腕關節ニ至ル袖線章全周ニ喰出	茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル
土ニ同シ	長袖 腕關節ニ至ル袖線章全周ニ喰出	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル
裏茶褐絨	長袖 腕關節ニ至ル袖線章全周ニ喰出	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル
白銅製無地	長袖 腕關節ニ至ル袖線章全周ニ喰出	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル	裏茶褐絨	長袖 靴踵上際ニ至ル

夏衣		夏袴		袖章		肩	
形	製	地	製	線	桐花章	製	地
狀	式	質	式	章	式	式	質
圖ノ如シ	茶褐薄毛織	茶褐薄毛織	茶褐薄毛織	幅一分ノ深緑絨一條	銀色ノ金屬ニシテ救護理事首長ハ三個	深緑絨	深緑絨
上ニ同シ	茶褐布	茶褐布	茶褐布	幅一分ノ蛇腹組深緑毛糸一條但シ救護	桐花章ヲ附セス	上ニ同シ	上ニ同シ
上ニ同シ	茶褐布	茶褐布	茶褐布	幅一分ノ蛇腹組深緑毛糸一條但シ救護	桐花章ヲ附セス	上ニ同シ	上ニ同シ
上ニ同シ	茶褐布	茶褐布	茶褐布	幅一分ノ蛇腹組深緑毛糸一條但シ救護	桐花章ヲ附セス	上ニ同シ	上ニ同シ

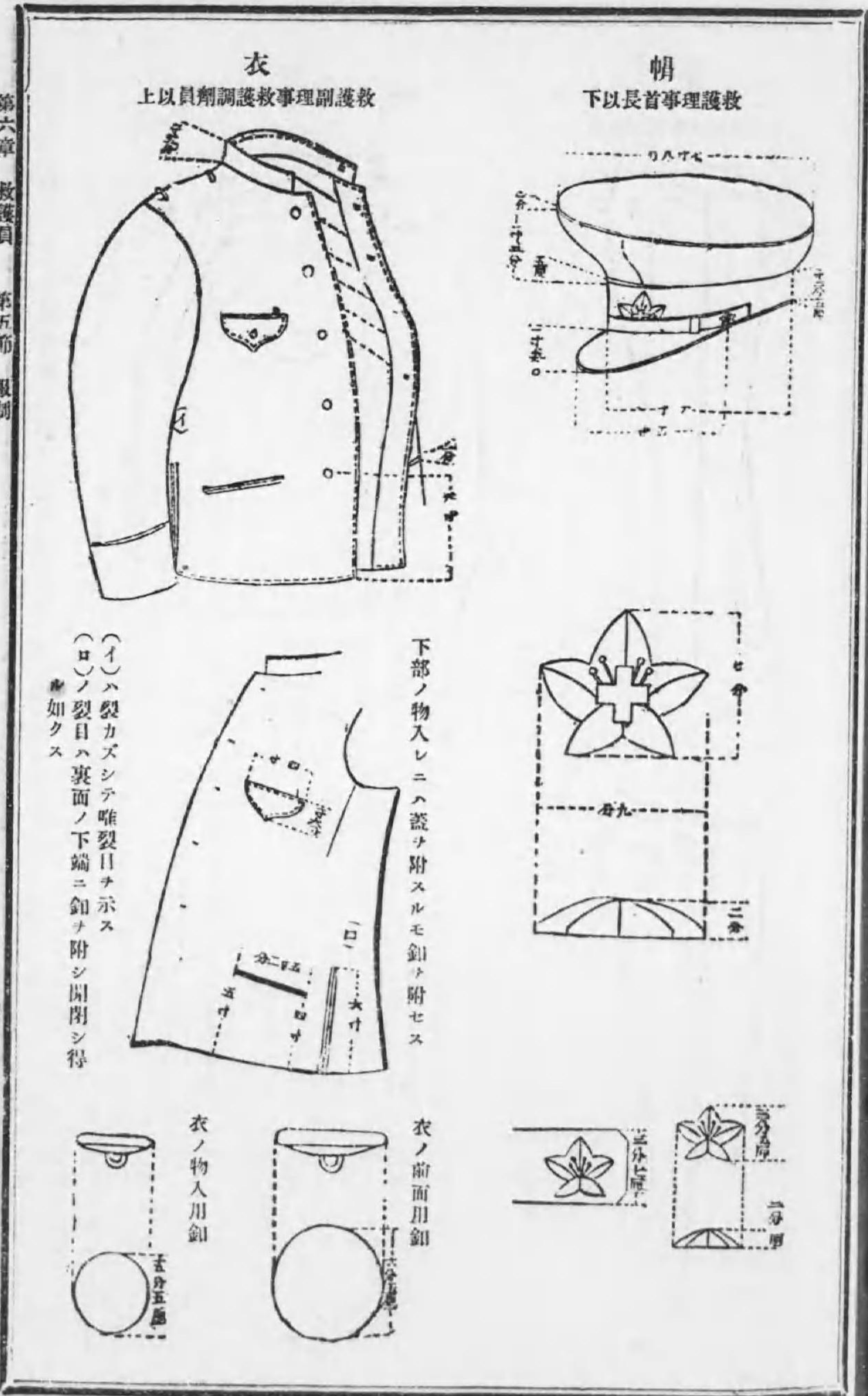
帶		劍		章		線章	
形	製	形	製	形	製	桐	線
狀	式	狀	式	狀	式	花	章
圖ノ如シ	前金具 黒塗革 金色金屬 十字ヲ彫ス	圖ノ如シ	柄ハ救護理事副長、救護醫長以上ハ鮮明斑入藍甲ニシテ金線ヲ卷キ救護理事卷ク鞘ハ黒塗革製一尺四分金具ハ金色ニシテ頭ニ十字ヲ顯ハシ周圍ニ鳳凰ヲ毛彫トシ目貫ハ桐花ヲ附シ縁、胴輪及鎧ニ竹ノ模様ヲ毛彫トス	圖ノ如シ	襟付ヨリ肩頭ニ向ツテ附着ス 寸法位置圖ニ示ス	金色金屬一個	救護理事、救護醫長ハ 救護員以下ハ 兩綠圈套銀線 繩目織中間平 織銀線一條
上ニ同シ	前金具 革 アルミニウム製備錠止メ	上ニ同シ	柄ハ木製長サ三寸四分、目貫ニ鐵製十字ヲ附ス頭、鐔、鞘ハ黒色鐵製ニシテ鞘ノ長サ一尺五分トス	上ニ同シ	上ニ同シ	上ニ同シ	平織銀線一條但シ救護看護人ニハ之ヲ附セス

二、女救護員制服圖例

外		袴		衣			帽			名稱
地	製	地	製	卸	地	製	形	製	前	職
質	式	質	式		質	式	狀	式	章	名
裏表 濃紺絨 黒毛襦子	圖ノ如シ	衣ニ同シ	長サ踝關節ニ至ル前部ニ四個後部ニ四個ノ襷袂ヲ取り蹴廻シ約一丈、物入ハ兩側ノ帶下ニ各一個ヲ附ス但シ帶止メ金具ヲ附ス	濃紺「セル」	濃紺無地「徑四分五厘」	胸ノ乳房部ハ寬ニシ襟ハ折襟トス	圖ノ如シ	留針二本ヲ添ユ	徑二分五厘ノ赤色十字ヲ附ス	救護看護婦監督及救護看護婦長、救護看護婦

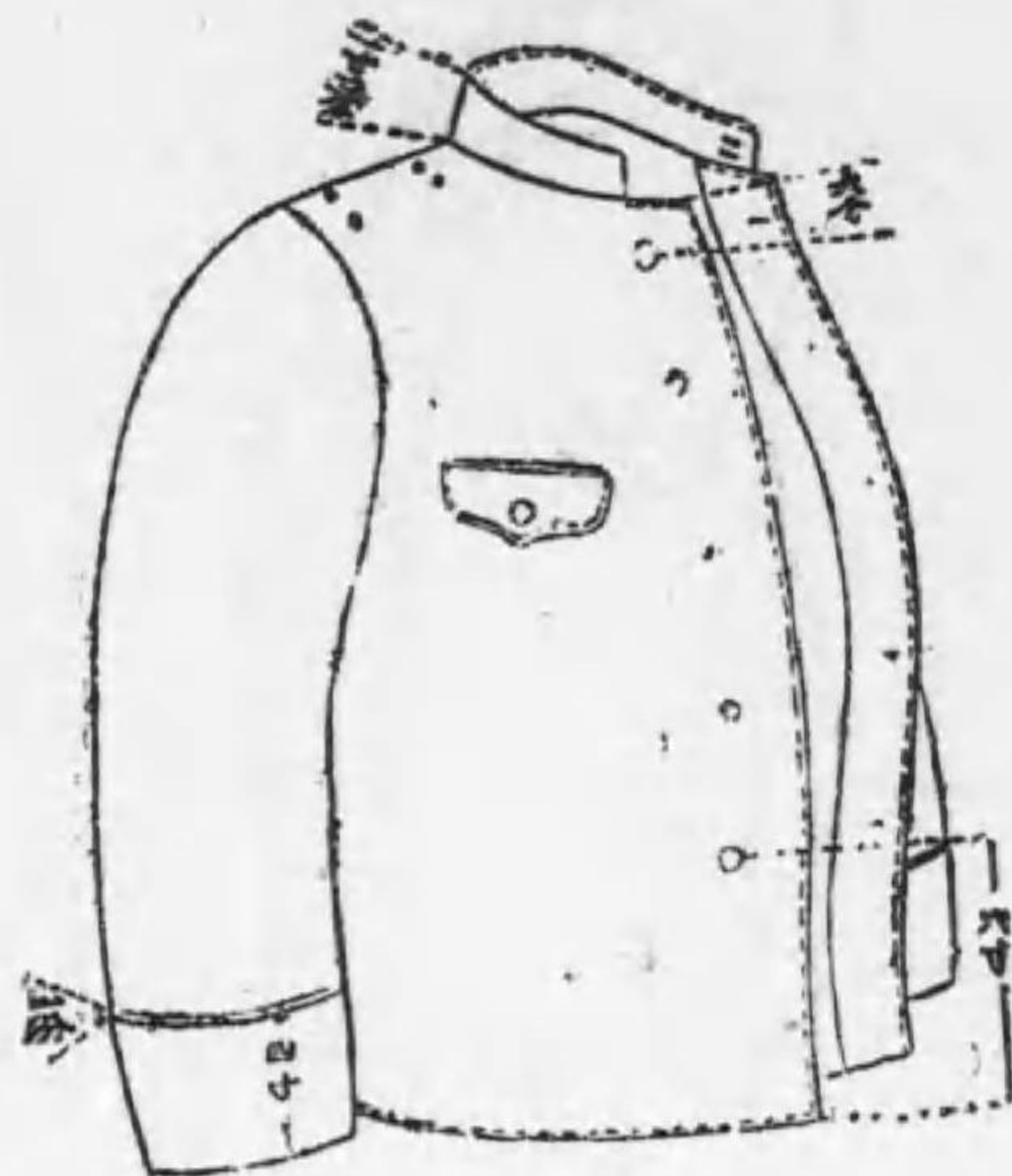
套		
形 状	製 式	釦
圖ノ如シ	二重廻シ仕立	黒煉無地徑七分五厘ノモノ六個ヲ下衣一行ニ五分五厘ノモノ四個ヲ上衣一行ニ帯ニ二個ヲ附ス

一 男救護員服制圖



衣

下以補員劑調護救記書護救

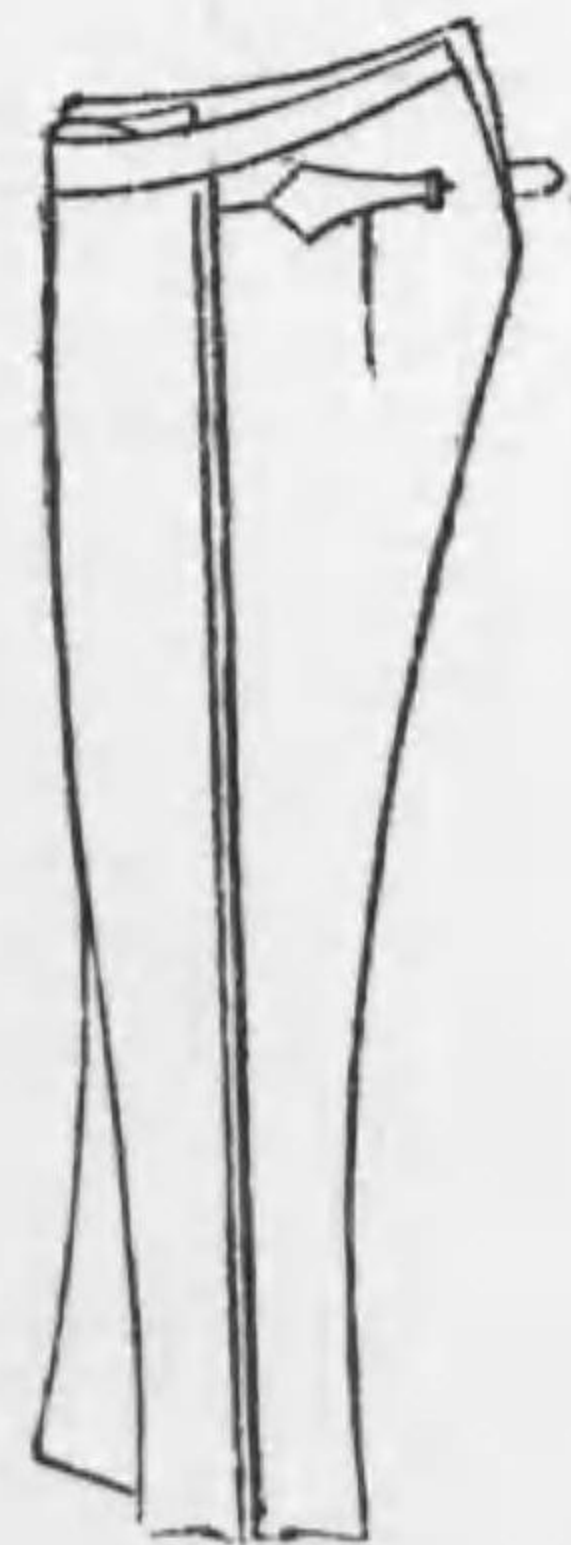


袴

上以員劑調事理副護救



下以補員劑調護救記書護救



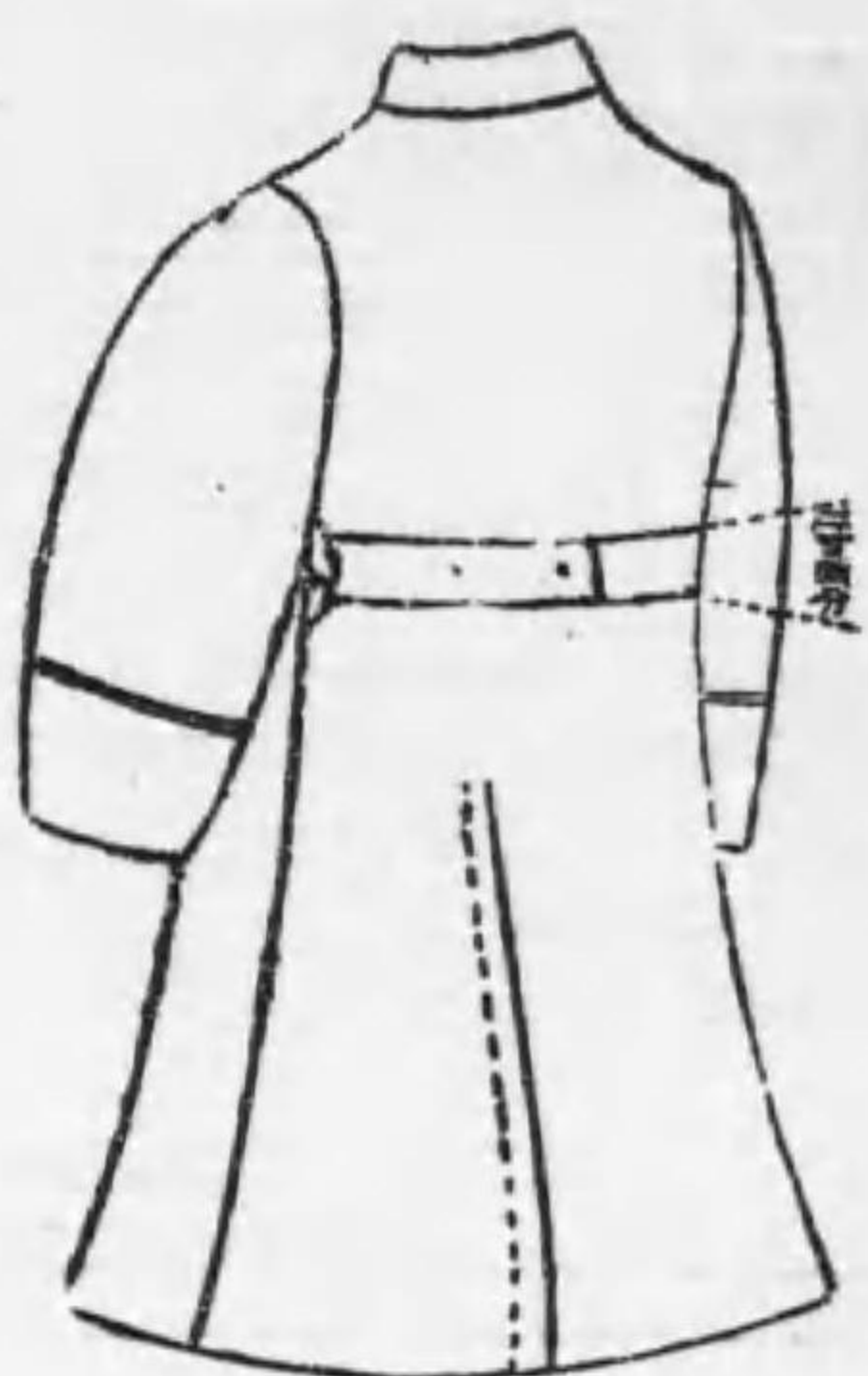
衣ノ釦入用



衣ノ前面用釦

外

上以員劑調護救事理副護救



套

下以補員劑調護救記書護救



襟巾二寸二分
入ノ廣サ六寸

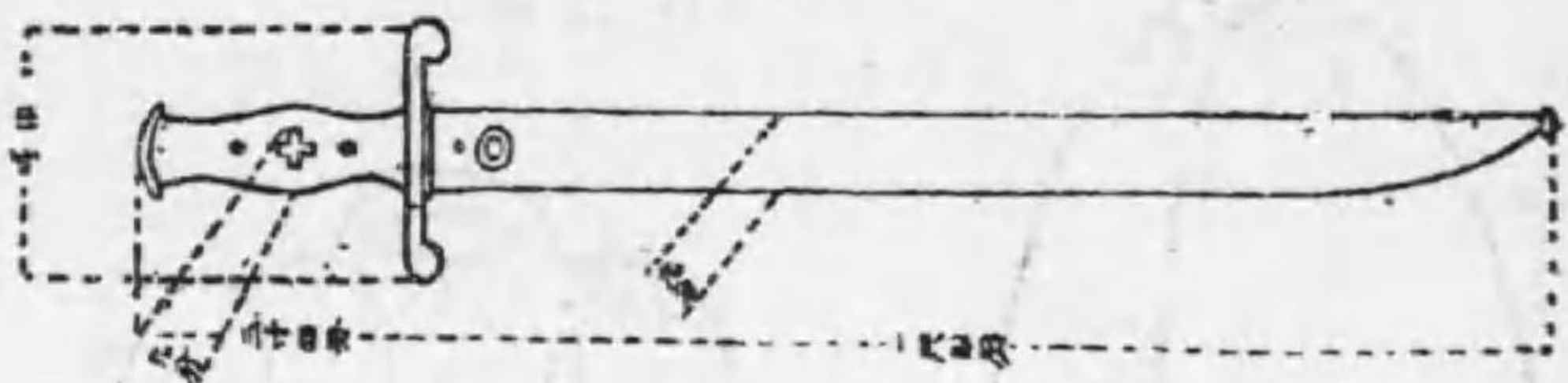


襟高サハ體格ニ應シ伸縮スルコトヲ得

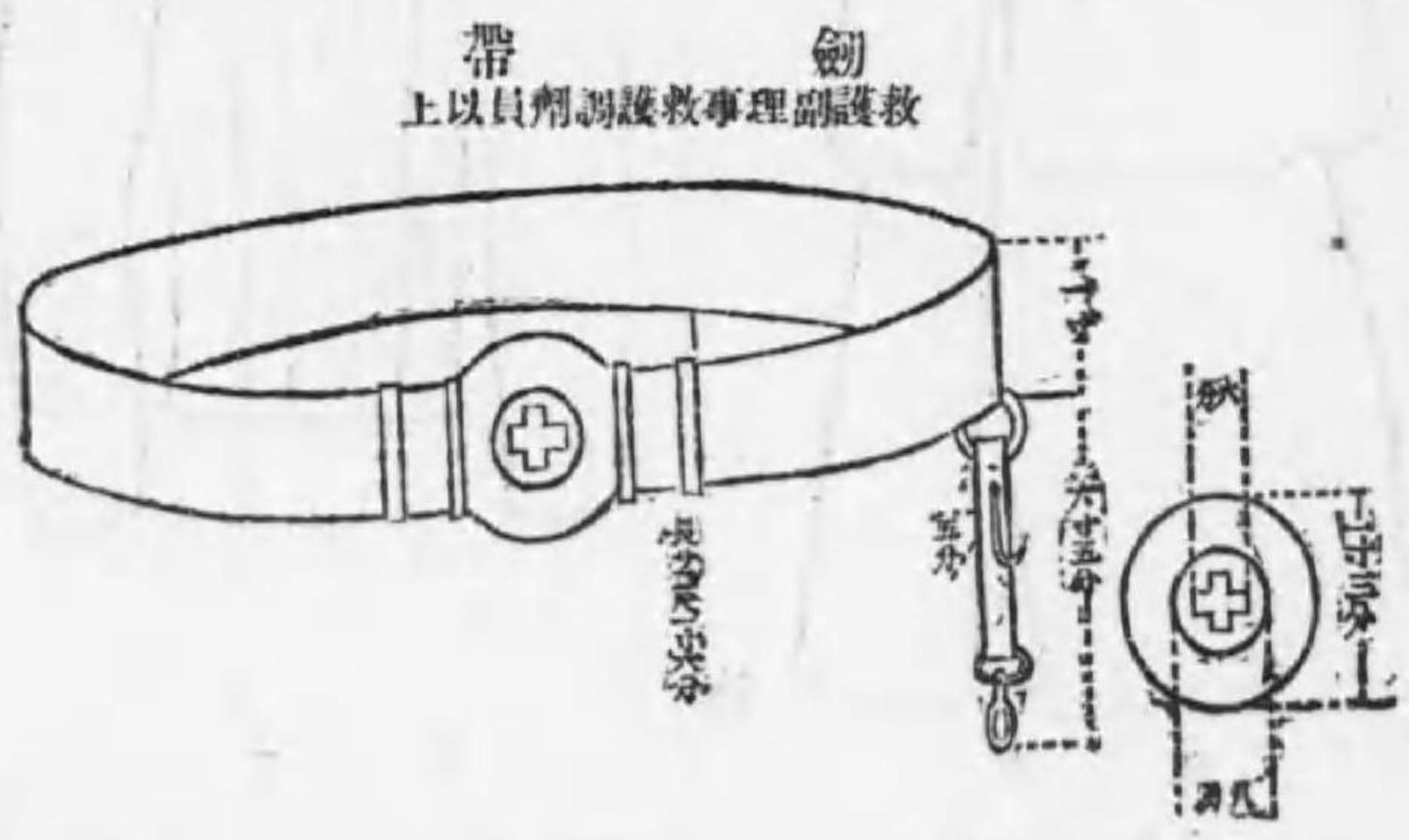
帽ノ裏、衣袴、外套ノ左側(胸)ノ裏面ニ團體及職氏名ヲ記入スル爲長二寸幅一寸ノ白布ヲ縫著ス



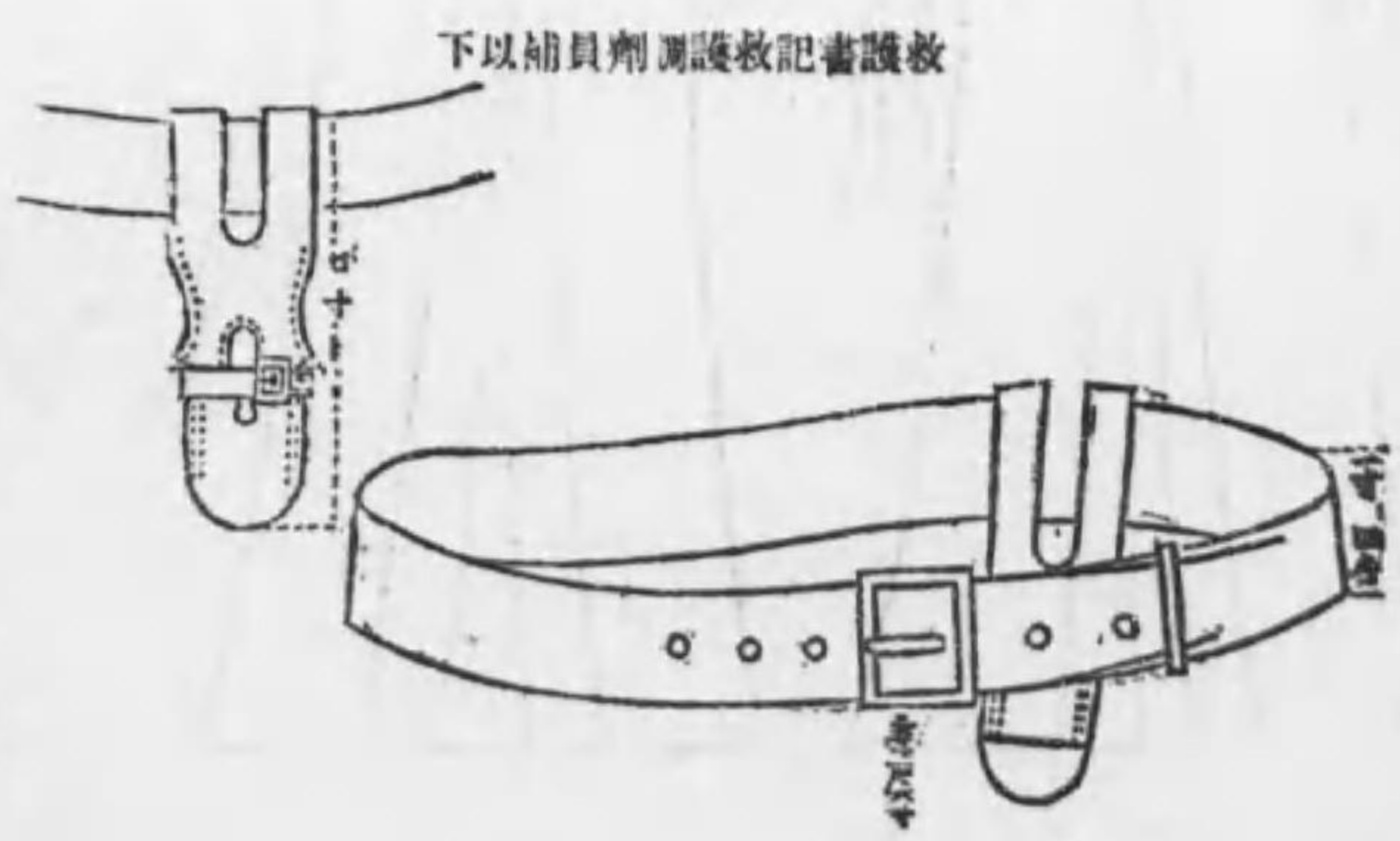
劍
上以員劑調護救事理副員救



下以員劑調護救記書護救



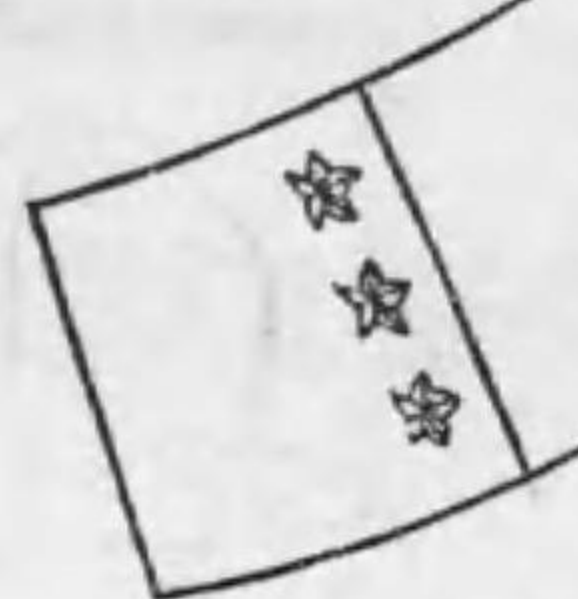
帶 劍
上以員劑調護救事理副員救



下以員劑調護救記書護救

肥滿ノ規格ニアリテハ劍帶ノ長サナ延ハスコトアルヘシ

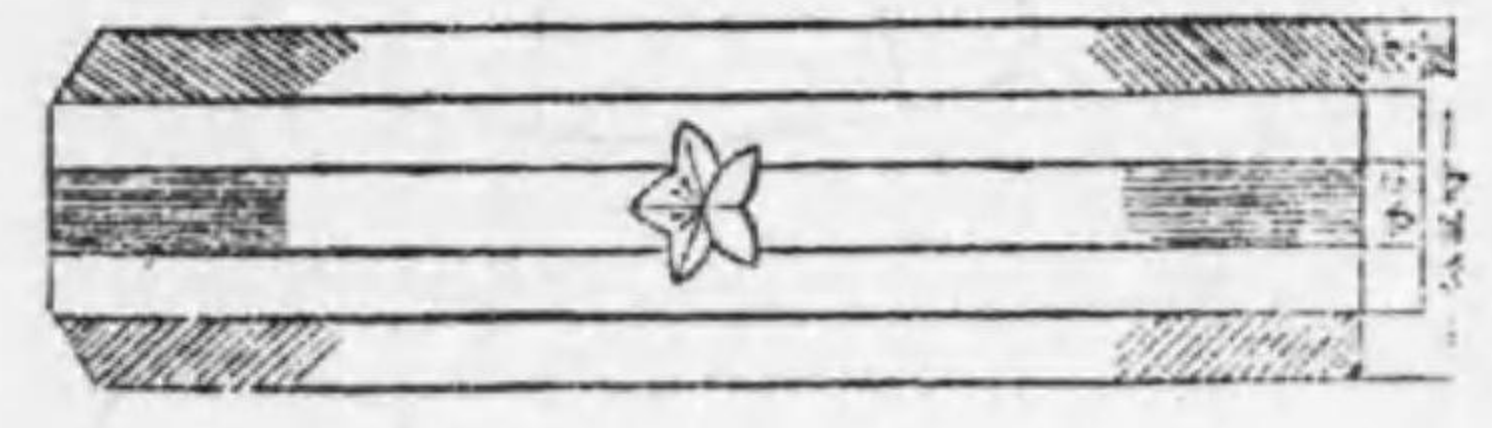
章 肩 章 袖



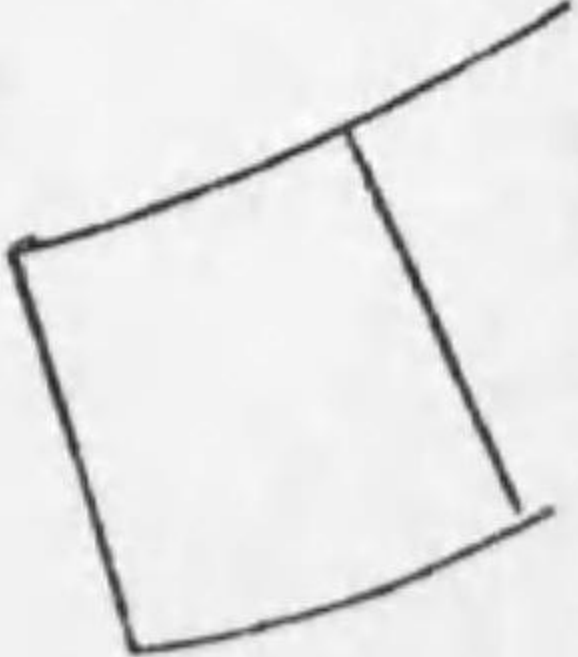
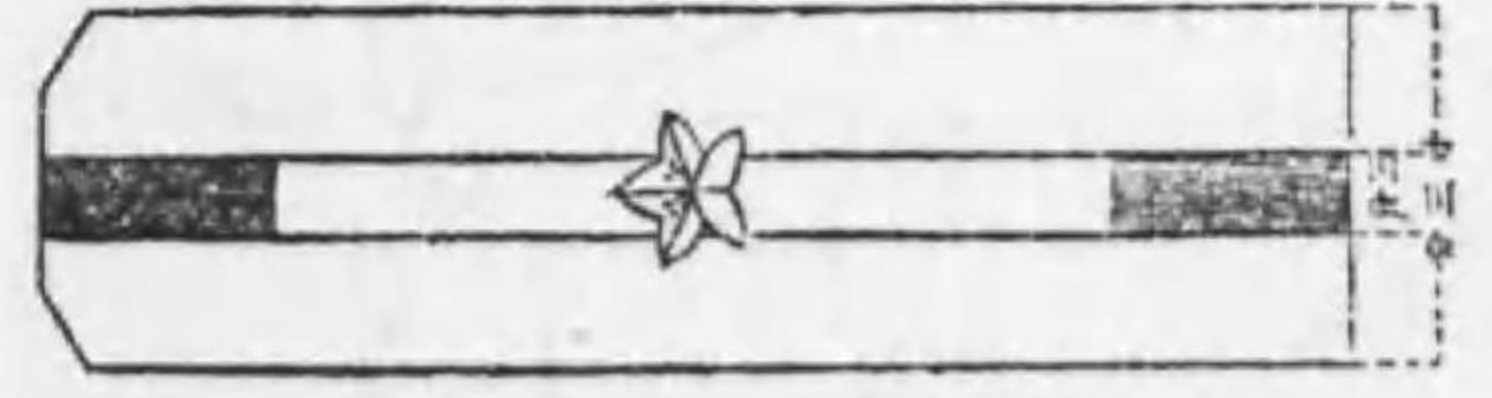
救護理事首長



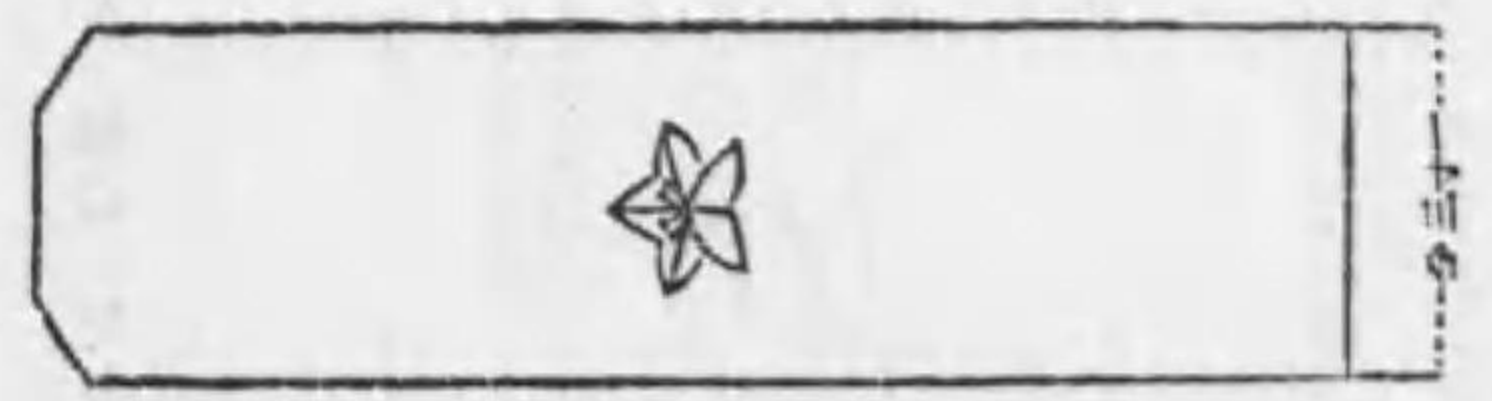
救護理事副長
救護醫長



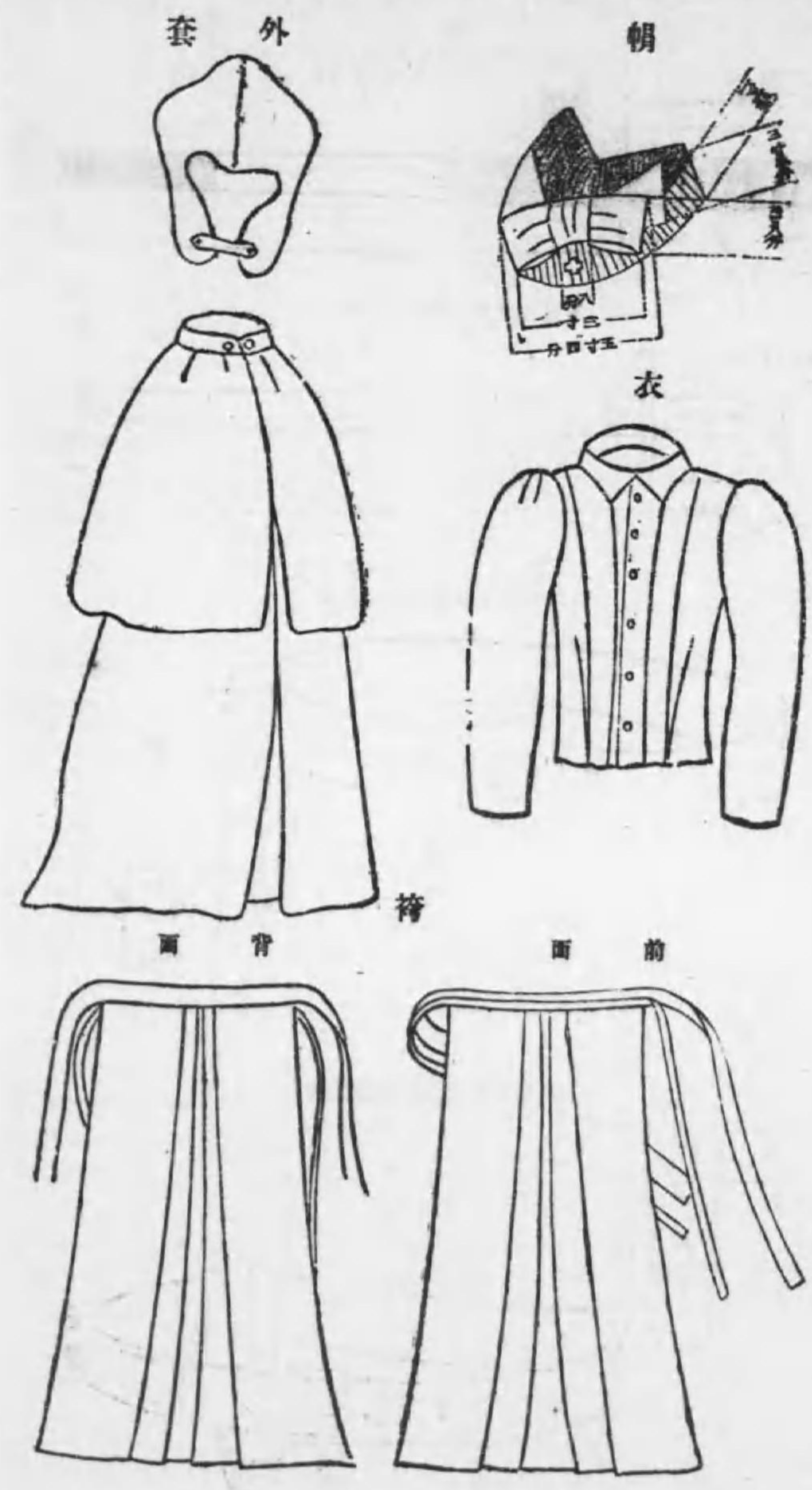
救護副理事
調劑員以上



救護看護人長以上



二 女救護員服制圖



三 徽 章

一 救護員ハ左ノ徽章ヲ衣ノ右胸上部ニ附著ス

救 護 員 徽 章



楕圓形ノ石目銅臺ニシテ中央ニ白地赤十字ヲ七寶裝ニテ顯ハシ其ノ外廓ヲ銅色ト
ス寸法形狀圖ニ同シ

二 救護員ニハ團體別ニ左ノ徽章ヲ衣ノ襟ニ附著ス但シ救護部ノ職員ニハ之ヲ附セス

男 救 護 員 襟 章



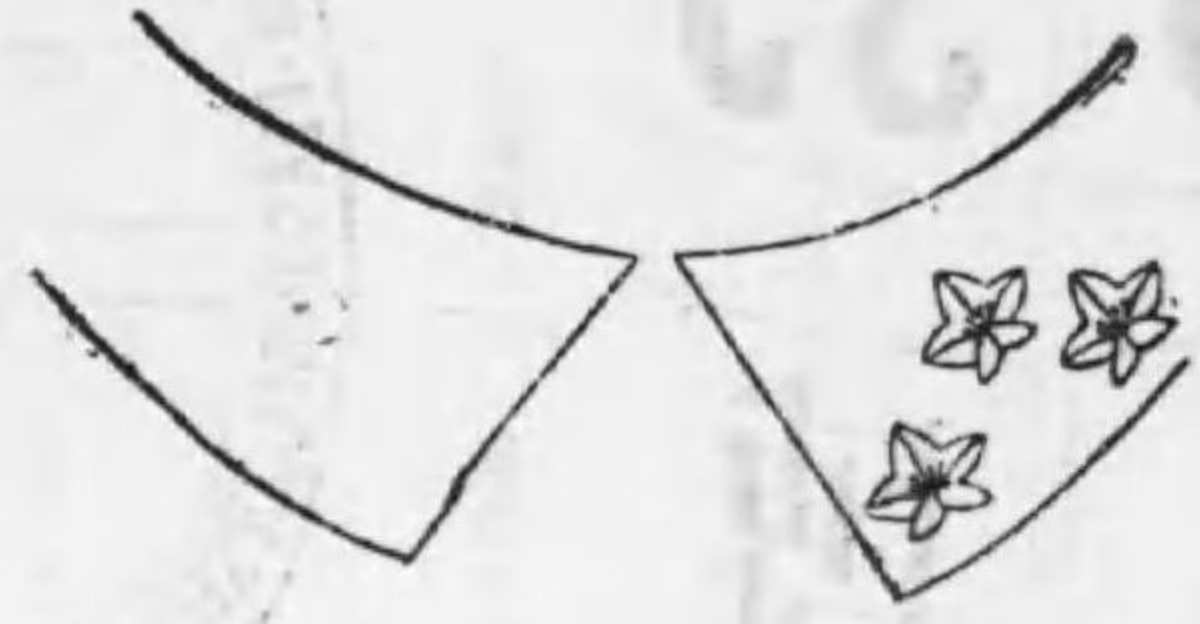
女 救 護 員 襟 章



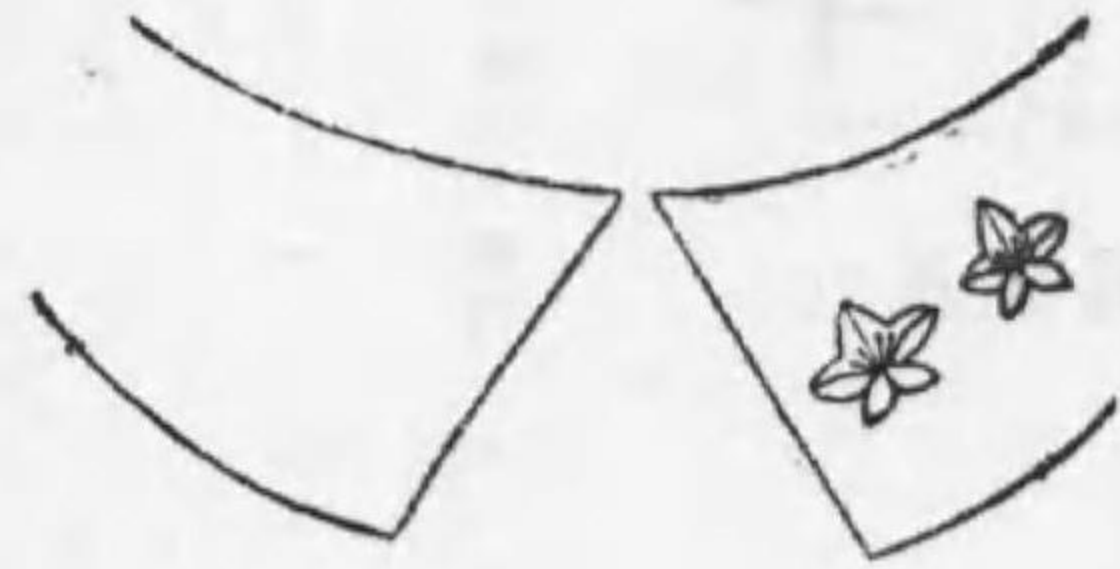
本圖ハ一例ヲ示スモノニシテ例之ハ救護班ニ在リテハ其番號病院船ニ在リテハ船名ノ頭字病院列車ニ在リテハ車ノ字トス

本圖ニ掲クル漢字、亞刺比亞數字ハ實物ノ大サヲ示ス
救護副理事、救護調劑員以上ハ銀色金屬其ノ他ハ白銅トス
救護看護婦監督、救護看護婦長、救護看護婦ハ左ノ職別徽章ヲ左襟ニ附着ス其大サハ肩章ノ桐花章ニ同シ但シ桐花章ハ銀
色金屬トス

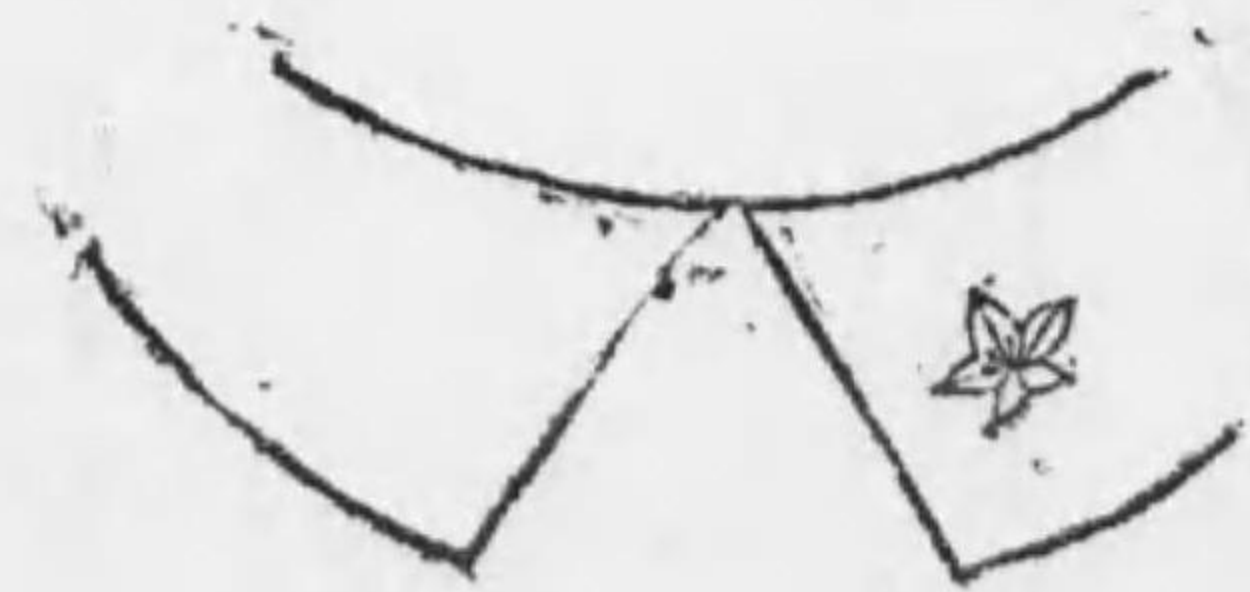
救護看護婦監督



救護看護婦長



救護看護婦



四 救護調劑員、救護調劑員補ハ左ノ徽章ヲ衣ノ右上臍部ニ附着ス



本圖ハ實物ノ大サヲ示ス
緋絨

五 救護書記ハ左ノ徽章ヲ衣ノ右上臍部ニ附着ス



本圖ハ實物ノ大サヲ示ス
緋絨(穂先ハ白絨)

六 磨工ノ職ヲ執ル救護看護人ハ左ノ徽章ヲ衣ノ右上臍部ニ附着ス



本圖ハ實物ノ大サヲ示ス
緋絨

七 組長ヲ命ジタル救護看護婦、救護看護人ノ衣及外套ニハ左ノ徽章ヲ右上臍部ニ附着ス



緋絨

●日本赤十字社救護員服裝規程

明治四十三年七月五日
本達 乙 第六號

改正

●明治四十四年八月一日
本達 乙 第五號

●明治四十四年十一月十六日
本達 乙 第一〇號

●明治四十五年三月十四日
本達 乙 第二號

日本赤十字社救護員服裝規程別冊ノ通定ム

但シ本規程ニ牴觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

(別冊) 日本赤十字社救護員服裝規程

第一條 男救護員ノ服裝ハ左ニ列記スルモノヲ用ウ

朝

衣(夏衣) 襟又ハ
襟布共

袴(夏袴)

外套

肩章

劔

救護員徽章

手套

脚絆

靴

背囊

飯盒

水筒

雜囊

第二條 女救護員ノ服裝ハ左ニ列記スルモノヲ用ウ但シ看護ニ從事スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

帽
衣襟布、
衣袖布共

袴

外套

救護員徽章

手套

靴

第三條 夏衣、夏袴ハ六月一日ヨリ九月末日迄之ヲ着用スルモノトシ時宜ニ依リ夏衣ニ袴又ハ衣ニ夏袴ヲ混用スルコトヲ得但シ肩章ヲ用ウル場合ハ此ノ限ニ在ラス

救護部又ハ救護團體ノ長ハ氣候ニ依リ必要ト認メタルトキハ前項ノ期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第四條 外套ハ雨雪ノトキ又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ着用ス但シ背囊ヲ負ヘルトキ又ハ許可ヲ得タルトキハ室内ニ在リテモ之ヲ着用スルコトヲ得

外套ヲ卷テ携帯スルトキハ左肩ヨリ右脇ニ之ヲ掛ク

第五條 肩章ハ陸軍軍人正裝、禮裝、通常禮裝ヲ爲ストキ及海軍軍人正服、禮服、通常禮服ヲ着用スルトキ之ヲ用ウ

第六條 劔ハ左ニ列記スル場合ニ限り佩用ス

- 一 戰時及災害救護實施ノトキ
- 二 演習、講習ノ場合其ノ他團體ヲ以テ行動スルトキ

劔ハ救護副理事、救護調劑員以上ニ在リテハ衣ノ下ニ救護書記、救護調劑員補以下ニ在リテハ衣ノ上トキハ其ノ上ニ佩用ス

第七條 手套ハ白色ノモノヲ用ウ場合ニ依リ燻色、茶色、褐色等ノモノヲ用ウルコトヲ得

第八條 脚絆ハ團體ヲ以テ行動スルトキ之ヲ着用ス但シ其ノ他ノ場合ト雖雨雪ノトキ又ハ服務ノ都合ニ依リ之ヲ着用スルコトヲ得

第九條 背囊外套、毛布、飯盒、水筒、雜囊ハ團體ヲ以テ行動スルトキ之ヲ携帯ス但シ救護副理事、救護調劑員以上ニ在リテハ水筒飯盒ノミヲ携帯ス

前項ノ携帯品ハ場合ニ依リ増減スルコトアルヘシ

第十條 帽ノ願紐ハ團體ヲ以テ行動スルトキ之ヲ用ウ

第十一條 水筒、雜囊ヲ携帯スルトキハ左肩ヨリ右脇ニ之ヲ掛ク但シ救護看護人長、救護看護人組長ハ第十三條但書ノ場合ハ右肩ヨリ左脇ニ掛クルモノトス

第十二條 襟章ハ救護團體ヲ編成スル場合ニ之ヲ附著ス

第十三條 救護看護人長、救護看護人組長ハ第一條ニ掲クルモノノ外必要ノ場合ハ救護看護人長ハ醫療囊、救護看護人組長ハ繙帶囊ヲ携帯ス但シ醫療囊、繙帶囊ハ左肩ヨリ右脇ニ之ヲ掛ク

第十四條 女救護員袴ノ帶止ハ衣ノ胸釦ノ直下トス

附則

第十五條 女救護員ハ團體ヲ以テ行動スルトキノ外ハ傘ヲ用ウルコトヲ得

●救護員制服作製心得

明治四十三年七月廿二日
第一二二二號(本社)

改正 ●明治四十五年四月十五日
材 第五五號

救護員制服改正ノ件本達甲第八號ヲ以テ發布相成候ニ付テハ別冊救護員制服作製心得及配布候條作製方ハ本心得ニ依リ御取扱有之度候也

(別冊) 第一 制服各部作製心得

- 一 救護員制服ノ作製ニ就キ救護員服制圖例及圖ニ示シナキモノハ本心得ニ依リ作製スヘシ
- 二 救護副理事以上及救護員看護婦監督ノ制服ハ各自ノ體格ニ應シ作製ヲ爲スヘシ
- 三 救護書記以下ノ制服ハ各自ノ身長ニ應シ大小ニ區分シ作製ヲ爲スヘシ
但シ被給者中次ノ大小號數ニ依リ難キモノアルトキハ特ニ體格ニ應シ作製ヲ爲スコトヲ得
- 四 救護書記以下ノ帽(女救護員帽ヲ除ク)ハ其大小ヲ第一號第二號第三號第四號第五號第六號第七號第八號第九號第十號第十一號第十二號ニ衣、袴、外套(女救護員外套ヲ除ク)ハ其大小ヲ第一號第二號第三號第四號第五號ニ區分ス
- 五 救護書記以下ノ制服ヲ大小ニ區分スルニハ凡ソ左ノ頭圍及身長ニ依ルヘシ

一 救護書記以下男救護員帽號數及頭圍寸度

號	數	頭 圍 寸 度	號	數	頭 圍 寸 度
第 一 號		一尺九寸六分以上	第 七 號		一尺七寸八分以上
第 二 號		一尺九寸三分以上	第 八 號		一尺七寸五分以上

第三號	一尺九寸以上	第九號	一尺七寸二分以上
第四號	一尺八寸七分以上	第十號	一尺六寸九分以上
第五號	一尺八寸四分以上	第十一號	一尺六寸六分以上
第六號	一尺八寸一分以上	第十二號	一尺六寸六分未滿

二 救護書記以下男救護員衣、袴、外套號數及身長寸度

號數	身長	號數	身長
第一號	五尺五寸以上	第四號	五尺二寸以上
第二號	五尺四寸以上	第五號	五尺二寸未滿
第三號	五尺三寸以上		

三 救護看護婦長以下女救護員衣、袴、號數寸度

號數	身長	號數	身長
第一號	五尺以上	第三號	四尺八寸以上
第二號	四尺九寸以上	第四號	四尺八寸未滿

六 本心得ノ尺度ハ曲尺トス
 七 服制ニハ其裏ニ白布二枚ヲ併列シテ縫著シ作製年月日、検査印、納入ノ記名及印、被給者團體名職氏名ヲ記載スヘシ(救護書記以下ハ大小ノ號數ヲ印ス)其例左ノ如シ

二 寸 四 分

明治 年 月 日 給與

團體

職 氏 名

シ 田 4 1

此番號ハ
服ノ大號ハ
依リ小
數ナリ

明治 年 月 日

日本赤十字社本(某支)部檢印

第 何 號

何 某 納 印

5 5 4 1

八 救護員服制圖例及圖ニ依ルノ外尙ホ作製上注意ヲ要スヘキ點ハ大略下ノ如シ

一 救護副理事以上男救護員制服

朝

地質	前章	眼庇	頤紐	製式	地質	釦	
<p>一 表茶褐絨ハ千住製絨所製第五號地及之ニ相當スル茶褐霜降絨</p> <p>二 裏服制ニ依ルヘシ</p> <p>三 裏革ハ黑「エナメル」革</p> <p>四 鉢巻及上部喰出シノ深綠絨ハ千住製絨所製第一號地及之ニ相當スル深綠絨</p>	<p>一 銀色金屬ノ桐花ハ眞鍮臺ノ鍍銀ニシテ其中央ノ赤十字ハ七寶燒トス</p> <p>二 寸法ハ服制ニ依ルヘシ</p>	<p>黑塗革ハ黑「エナメル」革其裏ハ黑革ニシテ縁取リトス</p>	<p>一 服制ニ依ルヘシ</p> <p>二 耳釦ハ服制ニ依ルヘシ但シ眞鍮臺鍍銀トス</p>	<p>一 服制ニ依ルヘシ但シ調製年月日、檢査濟印、納人ノ印及被給者ノ團體名、職氏名ヲ裏革ノ内面ニ記載スヘシ</p>	<p>絨 衣</p>	<p>一 表茶褐絨ハ朝ニ同シ</p> <p>二 裏(袖裏共)茶褐又ハ薄鼠毛縐子</p>	<p>銀色金屬ハ眞鍮臺ノ鍍銀ニシテ艶ヤ消シトス</p>
	<p>一 衣長、袖長、物入、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ</p>						

製式
<p>二 襟裏ニ角製釦五個ヲ附ス</p> <p>三 襟裏ヲ縫フニ當リテハ襟ニ團體徽章等ヲ附着スルニ便スル爲襟裏ノ下縁部ハ襟先キヲ入ルコト五分ノ處ヨリ約二寸ノ「マツリ」縫ヲ缺キ開放シ置クモノトス</p> <p>四 襟先キニ眞鍮製「ホツク」二個ヲ付ス</p> <p>五 兩肩ノ肩章留メハ表地ト同質ノモノニテ各二個ヲ付ス</p> <p>六 左脇下裂部ノ始點ハ第五釦ト同位置ニシテ裏ニ幅八分ノ表地ヲ附シ其下端ニ茶褐色毛織紐ヲ附シ前縁ノ内部ニ同色ノ煉釦ヲ附シテ開閉ニ便ス</p> <p>七 襟裏ノ中部ニ釣紐ヲ附ス</p> <p>八 救護員徽章止メハ上下二個ヲ附ス其位置ハ右胸部第三第四釦ノ中間トシ下前ノ縁ヲ外方ニ距ルコト三寸六分トス</p> <p>九 襟巾一寸五分</p> <p>十 持出シ上前五分下前一寸</p> <p>十一 袖口折返シ八分</p> <p>十二 物入位置ハ左右上部ノ二個ハ第二第三釦ノ中間ニ開口ス</p> <p>十三 左右下部ノ二個ハ第五釦ノ位置ニ開口ス</p> <p>十四 内物入ノ位置ハ上前ノ第三釦ノ處ニ開口ス</p> <p>十五 白布縫著ハ上前ノ裏第一第二釦ノ間ノ裏地ニ縫著ス</p> <p>十六 襟先キニ門縫ヲ爲スヘシ</p> <p>袖章ノ線章、桐花章ハ制服ニ依ルヘシ</p>

絨袴

地質	製式	地質
<p>一 表地ハ朝ニ同シ</p> <p>二 側章深緑絨ハ朝鉢巻地ニ同シ</p> <p>三 帶切レ裏ハ衣ノ裏地ニ同シ</p>	<p>一 袴長、物入、側章ハ制服ニ依ルヘシ</p> <p>二 内側ノ縫方ハ膝ヨリ上部及臀部全體ハ「ミシン」縫ノ上更ニ返シ縫ヲ爲ス</p> <p>三 門縫ハ股下四ツノ部ニ縫目ト反對ニ、十字形ニ、物入口ノ上下、前明キノ下部、天狗鼻ト帶切レノ縫接部、後明部等トス</p> <p>四 裾口折返シ一寸</p> <p>五 物入口ハ帶切レ縫目ヲ下ルコト約一寸二分ノ處ヨリ五寸開口シ其袋ハ長一尺幅五寸五分</p> <p>六 臀部左右ニ縫込ヲナス</p> <p>七 後明キノ二寸トス</p> <p>八 白布縫著ハ左帶切レノ下部ニ縫著ス</p> <p>九 釦ハ褐色四ツ目煉釦トス</p>	<p>一 表茶褐絨ハ朝ニ同シ</p> <p>二 裏(袖裏共)絨衣ニ同シ</p>
釦	地金ハ衣ニ同シ其他ハ服制ニ依ルヘシ	
外 套		

製式
<ol style="list-style-type: none"> 一 裱長、袖長、物入、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ 二 襟幅ハ中央四寸三分兩端四寸八分襟先キノ廣カリハ襟附部ヨリ長キコト左右共二寸トス襟附部ニ褐色煉釦五個(頭巾ノ附著用)ヲ附ス襟先キノ眞鍮製「ホック」一個ヲ附ス 三 頭巾長サ一尺五寸幅最廣部一尺二寸五分覆面ハ長サ五寸五分幅中央廣キ所二寸五分 四 左ノ脇裂ケノ位置ハ胸釦ノ第五ト第六ノ中間ニ始マリ下へ五寸八分トス其裏ニ表地一寸幅ノモノヲ附ス 五 帶付ノ耳形切レ(當業者ノ俗ニグンカント稱スル部)ハ長サ五寸幅中央ノ廣キ處ニテ二寸トス 六 後裂部ノ始點ハ帶ノ下縁ヨリ下ルコト三寸トス 七 左右物入口ハ第五胸釦ト同位置ヨリ始マリ外下方へ斜ニ六寸開口ス其袋ノ長サ一尺二寸五分幅七寸トス 八 内物入口ハ上前ノ見返シ切レノ部第三釦ト同位置ヨリ始マリ下へ五寸六分其袋ノ長サ一尺一寸幅六寸五分 九 白布ハ内部物入ノ内方ニ縫著ス 十 襟裏ノ中部ニ釣紐ヲ附ス 十一 前部持出ハ上端六寸五分 十二 袖口折返シハ一寸

夏衣

地質	卸	製式	地質
<ol style="list-style-type: none"> 一 茶褐色薄毛織ハ「セル」地トス 二 裏(袖裏共)ハ絨衣ニ同シ 	<ol style="list-style-type: none"> 絨衣ニ同シ 	<ol style="list-style-type: none"> 一 裏ハ脊抜キトナシ袖裏ヲ附ス 二 前釦ハ取脱シトス其他ハ絨衣ニ同シ 三 袖章ノ線章ハ一線ノ「ミシン」縫目ヲ附シ桐花章ハ絨衣ニ同シ 	<ol style="list-style-type: none"> 夏衣ニ同シ

肩章

製式
<ol style="list-style-type: none"> 一 服制ニ依ルヘシ但シ釦ハ褐色煉釦トス 二 白布ノ縫著ハ絨袴ニ同シ

地質	朝ノ鉢巻ニ同シ其裏ハ黒鞆革トス
線章	服制ニ依ルヘシ
桐花章	服制ニ依ルヘシ
製式	一 肩章付方、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ 二 心ハ亞鉛板トス 三 止メ金具ハ眞鍮臺「ニツケル」鍍トス
劍	
製式	服制ニ依ルヘシ但シ金具ハ眞鍮臺ニ黄金鍍トス
劍帶	
製式	帶、金具ハ服制ニ依ルヘシ但シ帶革ハ「エナメル」革ノ心入ニシテ裏面ニ於テ縫接シ 金具ハ眞鍮臺ニ黄金鍍トス
二 救護書記以下男救護員制服	
朝	
一 表茶褐絨ハ千住製絨所第三號地及之ニ相當スル茶褐霜降絨	

地質	二 裏地ハ服制ニ依ルヘシ 三 鉢巻及上部喰出ノ深緑絨ハ千住製絨所製絨第一號地及之ニ相當スル深緑絨 四 裏革ハ自然色鞆革					
前章	救護副理事以上ノモノニ同シ					
眼底	黒塗革ハ黒「エナメル」革其裏ハ自然色革ニシテ縁ハ截切リトス飾「ミシン」縫ヲナス					
頤紐	一 黒塗革ハ「エナメル」革ノ截切ノモノトス 二 耳卸ハ服制ニ依ルヘシ					
製式	服制ニ依ルヘシ但シ調製年月日検査済印、納入ノ印及被給者ノ團體名、職氏名ヲ裏革ノ内面ニ記載スヘシ					
朝作製寸法 (出来上法)						
號數	天井徑	下縁内周圍	天井喰出	襟當	鉢巻高	下縁
第一號	八寸二分	二尺		(天井ト鉢巻トノ間ノ切ヲ云)		
第二等	八寸一分	一尺九寸七分				
第三號	八寸	一尺九寸五分				

第四號	七寸九分	一尺九寸二分							
第五號	七寸八分	一尺九寸							
第六號	七寸七分	一尺八寸七分							
第七號	七寸六分	一尺八寸五分							
第八號	七寸五分	一尺八寸二分							
第九號	七寸四分	一尺八寸							
第十號	七寸三分	一尺七寸七分							
第十一號	七寸二分	一尺七寸四分							
第十二號	七寸一分	一尺七寸一分							

絨衣

地質	一 茶褐絨ハ朝ニ同シ 二 裏地ハ服制ニ依ルヘシ
鈕	一 衣長、袖長、物入、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ 服制ニ依ルヘシ

製式

- 二 襟先キニ眞鍮製「ホック」二個ヲ附ス
- 三 襟裏ヲ縫フニ當リテハ襟ニ團體徽章等ヲ附スル爲メ襟裏下縁部ハ襟先キヲ入ルコト五分ノ處ヨリ約二寸ノ「マツリ」縫ヲ缺キ開放シ置クモノトス
- 四 襟裏ノ中部ニ鈞紐ヲ附ス
- 五 兩脇下ノ裂部ノ裏ニ幅九分ノ表地ヲ附ス
- 六 劍止メノ裏ハ茶褐薄「ズック」トス
- 七 劍止メノ位置ハ脇裂部ノ門縫ノ直上一寸八分ノ處ニ堅牢ニ縫著スルモノトス
- 八 兩肩ニハ各四個ノ肩章止メ穴ヲ附ス
- 九 救護員徽章止メハ上下二個ヲ附ス其位置ハ右胸部第三、第四鈕ノ中間トシ右前ノ縁ヲ外方ニ去ルト三寸六分トス
- 十 袖線章ハ服制ニ依ルヘシ
- 十一 白布ハ上前第三鈕ノ處ノ裏地ニ縫著ス
- 十二 襟先キニ門縫ヲ爲スヘシ

絨衣作製寸法 (出來上) (寸法)

號數	背長總	長背	幅胸	幅胸	圍腹	圍裾	圍襟	長袖	長袖	付袖	口脇	裂
第一號	一・五二	二・三七	〇・六八	〇・七〇	一・七九	一・七三	一・九九	一・四二	二・〇五	一・六五	〇・五四	〇・六七
第二號	一・五〇	二・三三	〇・六六	〇・六八	一・七五	一・六九	一・九四	一・四〇	二・〇〇	一・六二	〇・五二	〇・六四

第三號	一〇六	二〇七	〇〇六	〇〇六	一〇七	一〇六	一〇九	一〇六	一〇九	一〇五	一〇五	〇〇五	〇〇六
第四號	一〇六	二〇三	〇〇六	二〇六	一〇七	一〇六	一〇八	一〇三	一〇六	一〇四	一〇八	〇〇七	〇〇八
第五號	一〇四	二〇五	〇〇六	〇〇六	一〇六	一〇七	一〇七	一〇四	一〇七	一〇三	一〇八	〇〇七	〇〇六

一 襟幅一寸三分
 二 持出上前五分下前一寸二分
 三 袖口折返シ七分
 四 前部卸穴ノ位置ハ第一穴襟附ヨリ下ルコト六分、第五穴ハ裾ヨリ上ルコト第一號衣ハ六寸九分第二號衣ハ六寸六分第三號衣ハ六寸三分第四號衣ハ六寸トシ第二第三第四ノ穴ハ第一ト第五トノ中間ニ於テ等分ニ設ク而シテ其位置ハ縁邊ヨリ入ルコト五分トス
 五 剣止メノ寸法ハ下圖ノ如シ



六 左右外物入口及蓋寸法ハ下圖ノ如シ
 同物入口ノ位置ハ第二卸ト第三卸トノ中間ニテ縁邊ヨリ入ルコト上前ハ約二寸一分下前ハ約二寸八分下前ハ約二寸八分ノ處ヨリ始マリ外方ヘ斜メニ一寸上リトス
 七 内物入ハ上前ニ設ケ上部ノモノハ第二卸ノ處ヨリ下ヘ懸ニ五寸開口シ其袋ハ長サ一尺四分幅五寸五分トシ下部ノモノハ第五卸ヨリ一寸上リタル處ヨリ下ヘ懸ニ四寸開口シ其袋ハ長サ七寸幅五寸トス

地質	絨袴	
	一 茶褐絨ハ帽ニ同シ	二 側章ハ服制ニ依ルヘシ
製式	一 袴長、物入、側章ハ服制ニ依ルヘシ	
	二 内側ノ縫方ハ膝ヨリ上部及臀部全體ニ「ミシン」縫ノ上更ニ返シ縫ヲ爲ス	
三 門縫ハ股下四ツノ部縫目ト反對ニ十字形ニ、物入口上下、前明キノ下部、天狗鼻ト帶切レノ縫接部、後明キノ部、裾口内外等トス		
四 卸ハ褐色四ツ目角卸トス		
五 白布縫著ハ左帶切レノ下部ニ縫著ス		

號數	絨袴作製寸法 (出來上) (リ寸法)									
	總長	股上	股下	腹二分ノ一	臀二分ノ一	腿二分ノ一	膝二分ノ一	腓二分ノ一	裾二分ノ一	裾二分ノ一
第一號	三・七三	一・一三	二・六〇	一・五五	二・〇〇	一・二二	〇・八〇	〇・七八	〇・七八	〇・八〇
第二號	三・六一	一・一一	二・五〇	一・五〇	一・九六	一・二〇	〇・七八	〇・七六	〇・七六	〇・七八
第三號	三・五四	一・〇九	二・四五	一・四五	一・九二	一・一八	〇・七六	〇・七四	〇・七四	〇・七六
第四號	三・四七	一・〇七	二・四〇	一・四〇	一・八八	一・一六	〇・七四	〇・七二	〇・七二	〇・七四
第五號	三・三〇	一・〇五	二・二五	一・三五	一・八四	一・一〇	〇・七〇	〇・六八	〇・六八	〇・七〇

- 一 帶切寸法ハ下圖ノ如シ
- 二 尾錠右切八寸左切錠共七寸
- 三 裾口折返八分
- 四 物入口ハ帶縫目ヲ下ルコト一寸七分ノ處ヨリ五寸開口シ其袋ハ長サ一尺一寸幅五寸トス
- 五 臀部二個ノ襷ハ深サ一寸五分
- 六 後明キ一寸五分



外套

地質 茶褐絨ハ千住製絨所製第二號地及之ニ相當スル茶褐霜降絨

鈕 服制ニ依ルヘシ

- 一 裨長、袖長、物入、頭巾、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ
- 二 襟ニハ防寒襟ヲ附スル爲メ六個ノ穴ヲ設ク其位置ハ襟付ヲ上ルコト一寸トシ中央ニ二個左右襟先キヲ入ルコト六分ノ處ヨリ各二個トシ其穴ノ間隔ハ六分トス
- 三 襟先キニ眞鍮製「ホツク」二個ヲ附ス
- 四 劍帶支ハ眞鍮製「ホツク」形ニシテ長サ一寸三分トシ其位置ハ第五鈕ヨリ上ルコト一寸ニシテ脇縫目ニ附ス
- 五 左右物入口ノ位置ハ第四第五鈕ノ中間ヨリ斜ニ外方ニ向ヒ約一寸下リテ開口ス

製式

- 六 後裂部ノ始點ハ第五鈕ト同高位置トス
- 七 後裂部ノ鈕ハ褐色四ツ目角製鈕四個ヲ附ス
- 八 内物入ハ上前ノ上部襟先キ附部ヨリ一寸三分下リトス
- 九 内物入袋ノ下端ニ褐色四ツ目角鈕一個ヲ附シ下前ニハ鈕ニ對スル處ニ鈕穴ヲ附ス
- 十 胸鈕ノ裏ニハ表地質ヲ以テ幅一寸ノ力切ヲ附ス
- 十一 襟付ノ中部ニ釣紐ヲ附ス
- 十二 白布ハ内物入袋ノ上部ニ附ス
- 十三 門縫ハ襟先キ、物入口、裾縫目等トス

外套作製寸法 (出來上)

號數	背長	長背二分	幅胸二分	幅胸二分	圍腹二分	圍裾二分	圍襟二分	長襟	幅袖	長袖二分	口後	裂
第一號	一〇六五	四〇一五	〇〇七五	〇〇七七	二〇〇〇	二〇〇〇	三〇五〇	一〇七〇	〇〇三三	二〇三〇	〇〇七〇	二〇二五
第二號	一〇六二	四〇〇〇	〇〇七三	〇〇七五	一〇九五	一〇九五	三〇四五	一〇六五	〇〇三三	二〇二〇	〇〇六八	二〇一〇
第三號	一〇五九	三〇八五	〇〇七二	〇〇七二	一〇九〇	一〇九〇	三〇四〇	一〇六〇	〇〇三三	二〇一〇	〇〇六六	一〇九五
第四號	一〇五六	三〇七〇	〇〇六九	〇〇七二	一〇八五	一〇八五	三〇三五	一〇五五	〇〇三三	二〇〇〇	〇〇六四	一〇八〇
第五號	一〇五三	三〇五五	〇〇六七	〇〇七一	一〇八〇	一〇八〇	三〇三〇	一〇五〇	〇〇三三	一〇八二	〇〇六二	一〇六〇

一	前部持出上端三寸八分腹部二寸三分
二	袖口折返八分
三	物入口六寸深 <small>長方八寸 知方六寸五分</small>
四	物入蓋長六寸幅一寸八分
五	頭巾長(最長部)一尺五寸幅(最廣部)一尺一寸五分但シ覆面長サ七寸幅二寸二分
六	内物入ハ長サ一尺、口開キ堅ニ五寸五分、幅六寸
七	外套締紐長一尺七寸幅六分

地質	服制ニ依ルヘシ
卸	同上
製式	<p>一 衣長、袖長、物入、袖線章ノ縫目、寸法、位置ハ服制ニ依ルヘシ</p> <p>二 襟ハ縫方其他絨衣ニ同シ</p> <p>三 外物入ノ位置ハ絨衣ニ同シ</p> <p>四 左右内物入口ハ下前ノ第五釦ヨリ上ルコト一寸トス</p> <p>五 肩當切レノ縫著部ハ襟ト袖付肩ノ三箇所ノ縫目トシ前縁ハ開放シ置クモノトス</p> <p>六 肩章止メ穴、救護員徽章止メ、白布縫着、襟裏ノ釣紐等ハ絨衣ニ同シ</p> <p>七 門縫ハ襟先キ、脇裂等トス</p> <p>八 釦止釦ト脇下縫目トノ間裏ニ表地ト同質ノ力切レヲ附ス</p>

夏衣作製寸法 (出來上)
寸法

號數	背長	長總	背長	巾胸	巾胸	圍腹	圍裾	圍襟	長袖	長袖	付袖	袖口	脇	裂
第一號	一・五三	二・三三	二・三三	〇・六六	〇・六六	一・七五	一・六三	一・八八	一・四〇	二・〇〇	一・六〇	〇・五〇	〇・六七	
第二號	一・五〇	二・三三	二・三三	〇・六四	〇・六六	一・七〇	一・五九	一・八三	一・三八	一・九五	一・五七	〇・五二	〇・六四	
第三號	一・四八	二・二七	二・二七	〇・六二	〇・六四	一・六五	一・五三	一・七六	一・三三	一・九〇	一・五四	〇・五〇	〇・六一	
第四號	一・四六	二・二三	二・二三	〇・六〇	〇・六二	一・六〇	一・四八	一・七三	一・三三	一・八五	一・五二	〇・四八	〇・五八	
第五號	一・四四	二・一五	二・一五	〇・六〇	〇・六〇	一・六三	一・五七	一・七九	一・三三	一・八一	一・四九	〇・四六	〇・五五	

一 襟幅、持出、袖口折返、前部釦穴ノ位置、釦止メ、外物入、寸法、位置等ハ凡テ絨衣ニ同シ

二 内物入口幅五寸深六寸

地質	夏衣ニ同シ
製式	絨袴ニ同シ但シ釦ハ褐色四ツ目角製トス

夏袴作製寸法 (出来上リ寸法)

號數	後長	股上	股下	腹二分ノ一	腎二分ノ一	腿二分ノ一	膝二分ノ一	排二分ノ一	裾二分ノ一
第一號	三・七三	一・二二	二・六〇	一・五〇	一・九五	一・二八	〇・七八	〇・七六	〇・七六
第二號	三・六一	一・一一	二・五〇	一・四五	一・九二	一・二六	〇・七六	〇・七四	〇・七四
第三號	三・五四	一・〇九	二・四五	一・四〇	一・八七	一・二四	〇・七四	〇・七二	〇・七二
第四號	三・四七	一・〇七	二・四〇	一・三五	一・八三	一・二二	〇・七二	〇・七〇	〇・七〇
第五號	三・三〇	一・〇五	二・二五	一・三〇	一・七九	一・一〇	〇・七〇	〇・六八	〇・六八

一 帶切、尾錠、裾口折返、物入、臀部襷、後明キノ寸法、位置等ハ凡テ絨袴ニ同シ

地質	線章	桐花章	製式
深緑絨ハ朝鉢卷地ニ同シ	服制ニ依ルヘシ	服制ニ依ルヘシ	一寸法ハ服制ニ依ルヘシ
肩章			

製式	劍	劍帶	朝	地質	前章
二 肩章ハ軟製ニシテ心ハ「ズツク」トシ兩端ニ茶褐毛織組紐ヲ附ス	一 柄、頭、鐔、鞘、長サハ服制ニ依ルヘシ 二 鐵製十字ノ目貫キハ表面ノ一個トス	一 帶革ハ自然色脂革トス 二 前金具ハ服制ニ依ルヘシ	三 救護看護婦監督以下女救護員服制	服制ニ依ルヘシ	服制ニ依ルヘシ但シ赤色十字ハ銀臺ノ七寶燒トス 一 濃紺天鷲絨ノ飾裝及止針ハ服制ニ依ルヘシ

製式
<p>二 裏ハ黒色ノ薄絹張トシ天井ニテ絞リ其下縁ノ表ト裏トノ間ニ積襷ヲ取リタル黒「シフォン」ヲ挟ムモノトス</p> <p>三 止針ハ十八番形鋼鐵線ノ長サ四寸乃至五寸ノモノトシ其一端ハ瑠璃色ノ硝子球ヲ附シ他端ハ尖銳トス</p> <p>四 飾装ノ天鷲絨鉢巻ノ高サ一寸六分トシ胡蝶形結ヒノ部上部ノモノハ幅三寸三分前部ノモノハ幅二寸八分トス</p> <p>五 白布ハ天井ノ裏ニ附ス</p>

地質	<p>服制ニ依ルヘシ但シ裏地ハ鼠「スレキ」トス</p>
卸	<p>卸ハ服制ニ依ルヘシ</p>
製式	<p>一 胸部及襟ノ體裁ハ服制ニ依ルヘシ</p> <p>二 衣ノ前部ハ乳房部ニ寛ニスル爲メ胸下ヨリ下端ニ至ルニ條ノ縫込ミヲ爲ス</p> <p>三 衣ノ前部ニハ肩頭ヨリ下縁ニ至ル左右各一條ノ襷切レヲ附ス</p> <p>四 左右脇縫目内部ニハ長サ五寸乃至六寸幅二分五厘厚サ約五厘ノ鯨ヲ白「テツブ」ニテ包ミ「マツリ」縫ヲ以テ縫着ス</p> <p>五 衣ノ裏ノ總紐ハ白「テツブ」ヲ腕骨上部ニ縫着シ其紐ノ長サハ約二尺五寸幅四分トス</p> <p>六 襟及袖口裏ニハ白「キヤラコ」ヲ縫ヒ添ヘ其襟布ノ長サ二尺四寸幅五寸ノモノ</p>

三ツ折トシ袖口布ハ長サハ袖口ノ全周トシ幅八寸ノモノヲ二ツ折トス

七 襟先キニ「ホツク」一個ヲ附ス

八 救護員徽章止メハ上下二個ヲ附ス其位置ハ右胸部第三第四釦ノ中間トシ右前ノ縁ヲ外方ニ距ルコト約二寸五分トス

九 白布ハ上前ノ裏第二釦ノ處ヨリ下へ縫著ス

衣作製寸法 (出來上リ寸法)

號數	背長總	長肥	下背	幅胸	幅胸	胸腹	胸腹	長襟	幅袖	長袖	付袖
第一號	一〇二	一〇五	〇〇五	一〇六	一〇六	一〇四	一〇四	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
第二號	一〇三	一〇五	〇〇五	一〇七	一〇七	一〇五	一〇五	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
第三號	一〇四	一〇六	〇〇五	一〇八	一〇八	一〇六	一〇六	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
第四號	一〇五	一〇七	〇〇五	一〇九	一〇九	一〇七	一〇七	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六

一 袖長サハ下袖ニテ尺ヲ採ルモノトス (腋下ヨリ腕關節ニ至ル)

二 持出シ上前四分下前一寸一分

三 袖口折返シ一寸

四 前部釦穴ノ位置 第一穴ハ襟附ヨリ下ルコト九分第六穴ハ裾ヨリ上ルコト第一號衣ハ四寸八分第二號衣ハ四寸七分第三號衣ハ四寸五分第四號衣ハ四寸三分トシ第二第三第四第五ノ穴

ハ第一ト第六トノ中間ニ於テ等分ニ設ク而シテ其位置ハ縁邊ヨリ入ルコト七分トス
 五 前裳ノ長サハ肩ノ縫目ヨリ裾ニ至ル其幅ハ左圖ノ如シ



袴

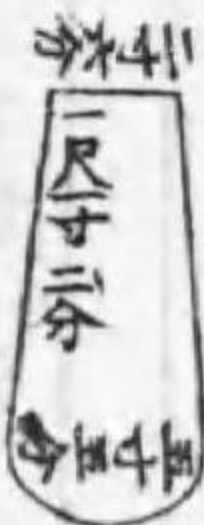
地質 服制ニ依ルヘシ

製式

- 一 袴長、積襷、物入、帶止メハ服制ニ依ルヘシ
- 二 後紐ニハ黒色縹子ノ下締ヲ縫著ス其寸法ハ前紐ニ同シ
- 三 後紐ノ心ハ麻地二枚ヲ全長ニ入レ又腰部ニ當ル處ニハ尙約一尺三寸ノ「ズツク」布二枚ヲ刺縫ヒトシテ入ルヘシ
- 四 後紐ノ下縁ニ袴地ト同質ノ腰枕ヲ附ス
- 五 左右脇裂部ニハ各一個ノ「ホツク」ヲ附ス
- 六 物入ノ位置ハ後ノ紐下裂部ニ開口ス但シ其地質ハ袴地ニ同シ
- 七 帶止メ金具ハ白銅線十三、四番ノモノヲ用ユ長サハ後紐幅ニ適合ス
- 八 白布ハ左ノ物入部ニ附ス

袴作製寸法 (出來上リ寸法)

號數	長(紐下)	腹二分ノ一	臀二分ノ一	裾二分ノ一	前長	紐幅	後長	紐幅	腰横	腰枕
第一號	三〇・五	一〇・五	一〇・六	五〇・〇	五〇・五	〇・一〇	五〇・五	〇・二五	〇・五	〇・三〇
第二號	三〇・二	一〇・四	一〇・五	五〇・〇	五〇・〇	〇・一〇	五〇・〇	〇・二五	〇・五	〇・三〇
第三號	三〇・〇	一〇・四	一〇・四	五〇・〇	五〇・〇	〇・一〇	五〇・〇	〇・二五	〇・五	〇・三〇
第四號	二八・二	一〇・三	一〇・四	五〇・〇	五〇・〇	〇・一〇	五〇・〇	〇・二五	〇・五	〇・三〇



一 物入寸法ハ下圖ノ如シ
 二 裾口折返シ五分
 三 前裳ハ二寸ノ間ニ四襷ヲ爲ス其襷ノ深サハ各二寸三分トス
 四 後裳ハ一寸五分ノ間ニ四襷ヲ爲ス其ノ襷ノ深サハ各一寸五分トス

外套

地質 一 表濃紺絨ハ濃紺「メルトン」トス
 二 裏地ハ服制ニ依ルヘシ

釦 服制ニ依ルヘシ

一 仕立形ハ服制ニ依ルヘシ

製式

- 一 左右上部ノ物入位置ハ第二釦ト同位置ノ處ニ開口ス
- 二 左右下部物入ノ位置ハ第三第四釦ノ中間ノ處ヨリ斜メニ外方ニ向ヒ約一寸下リテ開口ス
- 三 後緊收帶ノ位置ハ其上縁ヲ前ノ第三釦ノ處ニ置キ其内部ノ脇縫目ニ左右各一條ノ腰締紐ヲ附シ地質ハ裏地ヲ用ユ
- 四 後緊收ノ帶ノ下ニハ左右ニ各一個ノ襷ヲ採ルヘシ
- 五 襟先キニ二個ノ「ホツク」ヲ附ス
- 六 白布ハ右前ノ裏第二第三釦ノ間ニ縫著ス
- 七 襟裏ノ中部ニ釣紐ヲ附ス
- 八 襟付外部ニ頭巾止メノ毛織紐五個ヲ附ス
- 九 外套締紐ハ表地ニ同シ
- 十 頭巾内部ノ下端ニ五個ノ釦ヲ附ス

外套作製寸法 (出來上リ寸法)

裨 (みごろ)		廻シ (ケツブ)	
春長	總長	後長	襟前下長脇長
一〇・三五	三〇・七九	二二・一五	二二・〇〇
背幅	胸幅	裾	裾
二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一
腹	腰	後	脇
二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一
裾	裾	裾	裾
二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一
後	襟前	下長	脇長
二二・一五	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇
裾	裾	裾	裾
二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一	二分ノ一
四・七五			

一 襟長サ一尺三寸八分幅二寸二分

- 二 頭巾長サ(最長部)一尺三寸五分幅(最廣部)一尺一寸覆面長サ五寸五分幅中央廣キ處二寸二分
- 三 後緊收帶長サ左右共七寸幅二寸
- 四 裨ノ前部釦穴ハ襟付ヨリ下ルコト一寸其他ノ穴ハ各四寸五分ノ間隔ヲ取リテ六個ヲ附ス
- 五 廻シ(ケツブ)前部釦穴ハ襟付ヨリ下ルコト一寸其他ノ穴ハ各三寸五分ノ間隔ヲ取リテ四個ヲ附ス
- 六 内締紐ハ長サ各一尺八寸幅七分
- 七 外套締紐ハ一尺六寸五分幅五分
- 八 左右上部ノ物入寸法ハ口幅三寸五分深サ六寸
- 九 左右下部ノ物入寸法ハ下圖ノ如シ其蓋ハ堅ハ堅二寸



四 徽章

- 一 形狀、寸法、品質ハ服制ニ依ルヘシ
- 二 七寶燒臺地ハ純銀トシ其臺ニハ二個ノ銀製脚ヲ附シ銅臺ニ嵌入シテ其背面部ニ貫キ固著セシムルモノトス
- 三 止金ハ背面ニ眞鍮鑲ヲ以テ附着ス
- 四 背面ノ左側ニ支部毎ニ第一號ヨリ順ヲ逐フテ番號(何何支部第 號)ヲ附スヘシ

- 一 品質ハ救護副理事以上用ハ眞鍮臺ノ鍍銀トシ救護書記以下用ハ白銅トス
- 二 字面ハ輪廓ヲ設ケ其内部ヲ石目打トス

備考 絨衣袴ニ同シ	第二號	九尺六寸	四 尺	十八尺七寸三分	二尺六寸
	第三號	九尺三寸		十七尺九寸四分	二尺五寸
	第四號	九尺		十七尺五寸七分	二尺四寸
	第五號	八尺六寸五分		十六尺九寸	二尺三寸

四 男救護員外套地質要尺表 (一著分)

備考 絨衣袴ニ同シ深緑絨袖線用ハ長サ一尺七寸五分幅一尺ノモノニ枚トス	號數	茶褐色絨	深緑絨	薄鼠又ハ茶色毛襦子	茶褐色絨	茶褐雲齋
	第一號	十尺六寸	八 分	九尺四寸	十尺四寸	七 寸五分
	第二號	十尺三寸		九尺一寸	十尺一寸	
	第三號	十尺		八尺八寸	九尺八寸	
	第四號	九尺七寸		八尺五寸	九尺五寸	
第五號	九尺三寸	八尺二寸五分		九尺一寸		

救護副理事以上

救護書記以下

肩章地質要尺 (一組分)

一 深緑絨 五分(大幅)
備考 縦地ニ截斷シ長サ五寸幅二寸ノモノニ枚トス

五 救護看護婦長以下袴地質要尺表 (一著分)

備考 救護看護婦監督ノ地質要尺ハ本表ニ準シ取扱フヘシ	號數	濃紺セル	鼠スレキ	生麻布
	第一號	十四尺四寸	四 尺七寸	一 尺六寸五分
	第二號	十四尺一寸		
	第三號	十三尺八寸		
	第四號	十三尺五寸		

六 救護看護婦長以下外套地質要尺表 (一著分)

濃紺メルトン	黒毛織子	生麻布
十一尺三寸	九尺六寸	二尺二寸五分

考 備
救護看護婦監督ノ地質要尺ハ本表ニ準シ取扱フヘシ

●救護員被服物品作製心得

明治四十三年九月十二日
庫第一六六號(本社)

改正

●明治四十五年四月十五日
材 第五三號
●大正三年十一月二日
材第一八二號(本社)

本達丙第二號及丙第三號ヲ以テ救護員貸給與品並ニ看護朝、看護衣、作業衣等製式改正發表候ニ付作製心得別冊ノ通配布候條作製方ハ本心得ニ依リ御取扱有之度候也
(別冊) 救護員被服物品作製心得

第一 看護朝

スト尺曲テ總ハ度尺

地質	前章	製式
一 表裏共白寒冷紗 二 前章ハ絨絨	長サ六分幅二分ノ赤十字形ヲ作り白金巾ヲ以テ裏打ヲ爲ス	一 寸法ハ前面ノ最高部ヲ約五寸五分後面ノ最低部ヲ約二寸八分トス 二 變換ハ左右各八折リトシ <small>(深サハ看護朝裁縫圖解ニ示ス)</small> 鉢巻ハ長サ約一尺七寸幅約一寸二分トシ其兩端ニ朝ト同質ノ細紐(約五寸)ヲ附ス 三 形狀ハ第一圖ノ如シ 四 看護婦ヲシテ自製セシムルニ至テハ看護朝裁縫圖解ニ依ラシムヘシ

第二 看護衣

地質 白「キヤラコ」

釦

貝製四ツ目ノ徑五分ノモノヲ襟先ニ一箇前部ニ五箇兩袖口ニ各一箇兩上膊外側部ニ各一箇又上前帶内面ニ角製四ツ目ノモノ一箇ヲ附ス

製式

- 一 裨ノ長サハ踝關節ニ至リ袖長サハ腕關節ニ至ル蹴廻シハ約十尺トス
- 二 乳房部ヲ寬ニスル爲メ帶上ニ二條ノ襷ヲ取り帶下ノ前後部ニ各四條ノ襷ヲ設ク其深サハ各襷積共約二寸三分トス
- 三 襟ハ立襟トシ襟付内部ノ中央ニ鈎紐ヲ附ス
- 四 左側物入ノ裏面ニ所管部名氏名ヲ記スル爲メ白布ヲ附ス
- 五 袖口ハ内側ノ縫目約二寸五分ヲ開ク袖口ノ折返シハ約七分トス
- 六 帶下左右兩側ニ各一個ノ物入ヲ附シ堅ニ約五寸開口ス其袋ノ寸法下圖ノ如シ
- 七 前開キハ帶下六寸迄トス
- 八 裾ノ折返シハ約五分トス
- 九 左襟ニ職別徽章ヲ附シ又組長ニハ右上膊部ニ組長徽章ヲ附スルコト(女救護員服制ノ例ニ依ル)
- 十 帶ハ長サ七尺トシ幅ハ「キヤラコ」半幅ノ者ヲ疊ミテ用ヒ帶止ハ制服ノ者ニ同シ
- 十一 前掛ハ長サ(紐下)二尺八寸幅二尺二寸トシ左右各二箇ノ襷ヲ設ケ内方ノ襷(内方ノ襷ハ中央ニ接スルモノトス)ハ深サ一寸一分外方ノモノハ一寸三分トシ縋紐ハ長サ六尺八寸幅八分トス
- 十二 形狀ハ第二圖ノ如シ
- 十三 看護衣ノ大小ハ第一號乃至第四號ニ區分シ之ヲ調製ス其寸度ハ左表ノ如シ

看護衣寸法 (出來上) (リ寸法)

號數	背長	下線	長	幅胸	幅胸	圍胸	圍腹	圍腰	圍襟	長襟	幅袖	長袖	付袖	口
第一號	一〇四	一〇五	四三〇	〇五五	〇六〇	一六六	一五四	一四二		一〇七	〇八八	〇四〇		
第二號	一〇三	一〇四	四二〇	〇五〇	〇五七	一五八	一四六	一三六		一〇三	〇八六	〇四〇		
第三號	一〇二	一〇三	四一〇	〇四八	〇五六	一五〇	一四〇	一三三	〇一〇	一〇九	〇八四	〇三七		
第四號	一〇一	一〇二	四〇〇	〇四六	〇五三	一四四	一三〇	一二五		一〇五	〇八二	〇三七		

背長ハ襟付ヨリ帶切上縁マテ、袖長ハ袖下縫目ニテ、袖口ハ鈎ヲ掛ケテノ寸法ナリ

第三 作業衣

地質

白雲齋(救護調劑員以上ハ白「キヤラコ」)

釦

角製四ツ目ノ徑五分ノモノヲ前部ニ四箇、上前裏ニ一箇ヲ附ス

- 一 仕立ハ兩前式トシ上前ノ釦ヲ隠シ釦作リト爲シ襟ハ折襟トシテ眞鍮製「ホツク」一箇ヲ附ス尙襟付内部ノ中央ニ鈎紐ヲ附ス
- 二 裨ノ長サハ踝關節部ヨリ上ルコト約八寸袖長サハ腕關節ニ至ル
- 三 胸部ノ持出シハ左右兩前トモ二寸七分トシ前部ノ見返シ切レハ長サ全長ニ達シ

幅ハ上部約六寸下部約三寸トシ上端ハ袖付ニ至ル

四 兩前下部ニ各一個ノ物入ヲ縫著シ其深サハ約六寸五分口幅ハ約五寸五分トス

五 下前見返シ切レノ胸部ニ所管部名及氏名記入用ノ白布ヲ附ス

六 袖口ハ五分ヲ折返シテ袋縫ト爲シ白「テツブ」二尺ヲ通シ置クモノトシ内側縫目ノ袖口ハ約三寸ヲ開ケ置クヘシ

七 背部ノ兩側縫目ニ緊收用トシテ結紐各一條ヲ附シ其位置ハ臑骨上部トス寸法ハ下圖ノ如シ

八 裾折返シハ五分トス

九 左襟ニ桐花章ヲ救護醫員、救護調劑員ハ三箇、救護調劑員補、救護看護人長以上ハ二箇、救護看護人ハ一箇ヲ又救護調劑員、救護調劑員補ニハ調劑員徽章ヲ組長ニハ組長徽章ヲ右上膊部ニ附スルコト

十 肩後裏ニ表地ト同質ノ肩當切レヲ附ス

十一 形狀ハ第三圖ノ如シ

十二 作業衣ノ大小ハ第一、第二號ニ區分シ之ヲ調製ス其寸度左ノ如シ

號數	作業衣寸法 (出來上)											
	背長	長	背二分	胸二分	胸一分	胸一分	胸一分	長襟	幅袖	長袖	付袖	口襟
第一號	一・五〇	三・九〇	〇・七五	〇・七〇	一・九五	一・九二	一・五五	〇・二五	一・六五	一・〇〇	〇・六二	五・五〇
第二號	一・四五	三・七〇	〇・七〇	〇・六五	一・九〇	一・八八	一・五〇	一・二五	一・六〇	〇・九五	〇・六〇	五・五〇

背長ハ襟付ヨリ帶切ノ上縁ニ至ル、袖長ハ袖下縫目ニテノ寸法トス

第四 救護副理事以上男救護員 肌衣 (救護副理事以上トアレハ理事員、醫員、調劑員以上ナク云フ)

製式	地質	(一) 肌衣 (上)													
		一	二	三	四	五	六								
製式	地質	一	冬肌衣ハ縞「ネル」	一	脊長約二尺四寸五分前長約二尺一寸胸開キ約一尺ニシテ貝釦四箇ヲ附ス	二	胸圍(二分ノ一)約一尺九寸	三	襟長サ約一尺四寸五分襟幅一寸	四	袖長サ約一尺七寸五分袖付約八寸袖口約四寸	五	肩當切レノ幅二寸五分	六	其他ハ普通仕立トス
		二	夏肌衣ハ白木綿縮												

製式	地質	(二) 肌衣 (下)			
		一	二	三	
製式	地質	一	總長(紐下)約三尺二寸五分股上(紐下)約九寸股下二尺三寸五分		
		二	腹圍(二分ノ一)約二尺六寸		
		三	腿圍(二分ノ一)約一尺二寸裾口(二分ノ一)約六寸裾口ニハ白「テツブ」ノ締紐ヲ		

附ス
四 縹紐ハ白金巾トシ其長サ約六尺六寸幅約一寸トス
五 其他ハ普通仕立トス

第五 救護書記以下男救護員肌衣

地質	一 冬肌衣ハ縹綿「ネル」 二 夏肌衣ハ天竺木綿
製式	第四ノ肌衣(上、下共)ニ同シ但シ釦ハ陶製四ツ目ノモノトス

第六 女救護員用冬肌衣

地質	(一) 肌衣(上) 白綿「ネル」(救護看護婦監督用ハ白「ネル」)
製式	一 脊長約二尺四寸前長約二尺胸釦(貝釦)四箇ヲ附ス 二 胸圍(二分ノ一)約一尺六寸 三 袖長サ約一尺三寸五分袖付約七寸五分袖口約四寸五分 四 肩當切レ幅二寸 五 形狀裁縫ハ第四圖ノ如シ

(二) 肌衣(下)

地質	肌衣(上)地ニ同シ
製式	一 總長約三尺股上約一尺股下二尺 二 帶切レハ前部ノ幅ハ中央二寸後部末端一寸四分各其末端ニハ長サ約二尺二寸幅約一寸四分ノ縹紐ヲ附ス 三 腹圍(二分ノ一)約一尺三寸五分 四 臀圍(二分ノ一)約二尺五寸五分 五 腿圍(二分ノ一)約一尺裾口約五寸五分裾口ニハ白「テツブ」ノ縹紐ヲ附ス 六 形狀裁縫ハ第四圖ノ如シ

第七 女救護員用夏肌衣

地質	白木綿縮
製式	冬肌衣(上、下共)ニ同シ

第八 女救護員用單衣

地質	白真岡木綿
製式	一 身長約四尺二寸前開キ約一尺八寸胸釦ハ貝製徑四分五厘ノモノ五個ヲ附ス

製式	二 肩幅約一尺三寸胸圍(二分ノ一)約二尺裾圍(二分ノ一)約三尺二寸襟ノ上部ニハ肩ヲ下ルコト約七寸ノ所迄前、後部共各六條ノ襷積ヲ設ケ其襷ノ深サハ約三分トシ後部ノモノハ縫付トス 三 袖長約一尺三寸五分袖付約七寸五分袖口約四寸五分トス 四 形狀裁縫ハ第五圖ノ如シ
----	--

第九 女救護員用裕衣

地質	表裏共白真岡木綿
製式	一 單衣ニ同シ 二 形狀ハ第五圖ノ如シ

第十 (削除)

第十一 襟及襟布

地質	一 襟ハ白「キヤラコ」又ハ麻布 二 襟布ハ白「キヤラコ」
製式	一 襟ハ普通立襟用ノモノトス 二 襟布ハ長サ約二尺二寸五分幅約七寸ノモノヲ四ツ折トス

第十二 女救護員用手套

地質	救護看護婦監督用ハメモリヤス其他ハ白瓦斯絲メリヤス
製式	普通婦人形トシテ夏冬兼用ノモノトス

第十三 靴足袋

地質	一 救護副理事以上、救護看護婦監督ハ瓦斯絲メリヤス 二 救護書記及看護婦長以下用ハ木綿メリヤス
製式	救護副理事以上及女救護員用ハ踵付其他ハ踵ナシトス但シ女救護員用ハ筒深ノモノトス

第十四 脚 絆

地質	茶褐絨但シ締紐ハ茶褐毛織
製式	一 救護副理事以上用ハ長サ約九尺救護書記以下用ハ長サ約八尺幅ハ各三寸周縁ハ裁切其紐ヲ防ク爲メ千鳥掛ノ「ミシン」縫ヲ爲ス 二 紐ノ長サ約六尺幅七分トス 三 紐付部ノ裏面ニ白布ヲ附ス 四 形狀裁縫方ハ第七圖ノ如シ

第十五 救護副理事以上男救護員用靴

地質	自然色革、縮紐ハ茶褐色毛織
製式	<p>一 形ハ編上ケ形ニシテ深サ四寸五分トシ砂除革ハ扇「マチ」ト爲シ其廣サハ上部ニテ七寸トス</p> <p>二 鳩目ハ左右各五個「ホツク」ハ各四個トス</p> <p>三 編上ケ紐ノ長サハ約三尺七寸七分ニシテ平織トシ紐ノ兩端ニハ眞鍮製ノ刺金ヲ附ス</p> <p>四 甲裏ハ白「ダツク」トス</p> <p>五 底面土踏マスノ所ニ文數及納入、作製年月ノ刻印ヲ附ス</p> <p>六 形狀ハ第八圖ノ如シ</p>

第十六 救護書記以下男救護員用靴

地質	自然色牛革、縮紐ハ茶褐色木綿組紐
製式	<p>一 形ハ編上ケ形ニシテ深サ四寸八分トシ鳩目ハ左右五箇トス</p> <p>二 編上ノ長サ二尺二寸組方ハ九打トシ其兩端ハ眞鍮製ノ刺金ヲ附ス</p> <p>三 底面ハ鉞打トス但病院船乗組ノモノハ鉞ナシトス</p> <p>四 底面土踏マスノ所ハ文數及納入作製年月ノ刻印ヲ爲スヘシ</p> <p>五 形狀ハ第九圖ノ如シ</p>

第十七 救護看護婦長以下女救護員用靴

地質	黒小牛革、縮紐ハ黒毛織
製式	<p>一 形ハ編上ケ形ニテ深サ四寸三分トシ鳩目左右各五箇上部ニハ「ホツク」各四箇トス</p> <p>二 編上ケ紐ノ長サ約三尺六寸組方ハ平打トシ其兩端ニ眞鍮製（黒色トナシタルモノ）ノ刺金ヲ附ス</p> <p>三 其他ハ普通婦人用形トス但シ踵ハ稍大トス</p> <p>四 救護看護婦監督用靴ノ革質ハ救護調劑員以上用ノモノニ準スヘシ</p> <p>五 形狀ハ第十圖ノ如シ</p>

第十八 半部毛布

地質	赤絨
製式	長約六尺乃至七尺幅約五尺三寸乃至五尺五寸量目約五百四拾匁（九十斤掛ケノモノ半截）

第十九 衣服行李

地質	<p>一 箱ハ櫨</p> <p>二 力木ハ無</p> <p>三 革條其他ノ革ハ多脂自然色革</p> <p>四 錠前、蝶番、備錠ハ眞鍮トス</p> <p>五 隅金具、提革ノ止鉞、蓋ノ力金ハ鐵臺ノ亞鉛引トス</p>
----	---

製式	<p>一 箱ハ長サ二尺二寸幅一尺一寸身ノ高サ六寸(泥臺ヲ除ク)總高七寸七分(泥臺ヲ除ク)板厚三分五厘</p> <p>二 革條ハ長サ四尺三寸幅一寸</p> <p>三 提把革ハ長サ六寸幅ハ中央八分兩端一寸四分</p> <p>四 力木幅一寸厚サ四分</p> <p>五 泥臺幅一寸厚サ五分</p> <p>六 蓋ノ蝶番三箇所トス</p> <p>七 蓋裏ノ鐵條(力金)ハ長方二條(表面ノ力木ノ直下トス)短方三條トシテ甲乙共幅八分厚サ三厘</p> <p>八 外面ハ茶褐「エナメル」塗り但シ左右ノ兩側面ハ白「エナメル」塗りトシ其部提把部ノ下ニ長サ三寸五分幅九分ノ赤十字ヲ表シ蓋ノ表面ニハ白「エナメル」ヲ以テ中央ニ衣服行季ト記シ其左側ニ一字下リニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社某支部ト記ス</p> <p>九 名札ハ檜ノ長サ一寸五分幅一寸厚サ二分ノモノヲ附ス但シ此札ハ行李使用者ノ職氏名ヲ記スモノトス</p>	<p>六 鋳ハ銅臺ニ「ニツケル」鍍</p> <p>七 外部ノ「エナメル」下地ハ「ズツク」</p> <p>八 内部白「ダツク」</p> <p>九 内部ノ衣服締紐ハ白木綿絲ノ平織</p> <p>十 塗料ハ「エナメル」</p>
----	---	--

第二十 背囊

製式	<p>一 形ハ陸軍式ニ依ル但シ附屬ノ工具締紐ヲ除ク</p> <p>二 蓋ノ裏ニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社某支部ト黒書ス</p> <p>三 形狀ハ第十二圖ノ如シ</p>	<p>一 外皮ハ朝鮮牛毛皮</p> <p>二 内枠ハ檜板</p> <p>三 革條ハ自然色多脂革</p> <p>四 備錠及環ハ鐵製茶褐色焼漆</p> <p>五 裏地ハ麻布</p> <p>六 紐ハ茶木綿真田織</p>
----	--	--

第二十一 衣囊

地質	<p>一 「ズツク」</p>
----	----------------

製式	地質
<p>二 締紐及口ノ「カガリ」紐ハ麻三約ノ細綱</p> <p>一 深サ一尺三寸底長サ一尺三寸幅九寸但シ底ニハ「ズツク」裏切ヲ附シ樹形ニ三回「ミシン」縫ヲ掛ケ其間隔ハ各等分トス</p> <p>二 袋ノ兩面中央部ニ底ヨリ上ルコト四寸ノ所ヨリ長サ三寸幅一寸ノ赤十字ヲ附シ其左側ニ底ヨリ八寸上リタル間ニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社某支部ト黒書ス</p> <p>三 口ノ折返シハ二ツ折返シテ四分幅トシ麻糸ヲ以テ綴止トス</p> <p>四 「カガリ」紐通シノ穴ハ周縁ニテ二十個ヲ等分ニ附ス</p> <p>五 「カガリ」糸ノ波動狀ノ緩ルミノ高サ約一寸</p> <p>六 締紐ノ長サハ袋ノ周縁ヨリ約二寸延トス</p> <p>七 形狀ハ第十三圖ノ如シ</p>	

第二十二 雜 囊

製式	地質
<p>一 袋ハ茶褐「ズツク」</p> <p>二 革條ハ自然色多脂革</p> <p>三 備錠ハ鐵ノ焼漆トス</p> <p>四 「ホツク」負帶附環、帶掛金具ハ眞鍮</p> <p>一 袋ハ堅七寸橫幅上部八寸八分下部一尺二分幅切<small>(兩側ノ切)</small>ノ幅ハ上部三寸下部三寸四分</p>	

製式	地質
<p>二 蓋布ハ堅八寸五分幅ハ上部九寸下部一尺二分</p> <p>三 帶布ノ長サハ長キ方三尺七寸短方五寸幅ハ各一寸</p> <p>四 帶鈎リ布ハ長サ二寸幅一寸其鈎金ハ幅六分</p> <p>五 内面上部ノ力革ハ幅一寸</p> <p>六 内部ノ備錠革長サ五寸幅六分</p> <p>七 蓋附ノ備錠革長サ六寸幅五分</p> <p>八 蓋ノ裏面ニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社支部ト黒書ス</p> <p>九 形狀ハ第十四圖ノ如シ</p>	

第二十三 燕口袋

製式	地質
<p>一 袋ハ所講燕口形ニシテ「ズツク」方形ノモノヲ三ツノ隅角ヲ中點ニ集合セシメ縫合セシモノトシ其高サ二寸三分幅五寸六分蓋ノ長サ三角形尖頂マテ二寸其尖頂ニ長サ一尺幅二分ノ締紐ヲ附ス</p> <p>二 櫛ハ梳櫛形ニシテ長サ三寸三分幅一寸七分ノ兩齒トス</p> <p>三 鍔ハ女鍔ニシテ長サ約三寸四分</p>	<p>一 袋ハ「ズツク」</p> <p>二 締紐ハ「テツブ」</p> <p>三 櫛ハ黃楊</p> <p>四 鍔ハ鋼鐵</p> <p>五 糸卷ハ木製</p>

- 四 糸巻ハ圓柱形長サ五寸徑約七分下端一寸二分ノ處ニ於テ螺旋ニテ縫針四本ヲ收ム又二寸五分ノ處ニ尙螺旋ニテ長サ一寸四分ノ四ツ目錐ヲ藏シ上端一寸七分ノ間ニ各三分宛四箇所ヲ線削リ糸巻トス之ニ茶褐色、深緑、濃紺、白ノ四色ノ「カタ」糸ヲ卷纏ス。
- 五 形狀ハ第十五圖ノ如シ

第二十四 ナイフ

- 地質
- 一 刀身及撥條ハ鋼鐵
 - 二 鞘ハ角及軟鐵
 - 三 釦ハ眞鍮線(十六番形)

- 製式
- 一 刀身ノ長サ鞘トノ接際部ヨリ二寸五分幅爪掛ノ部ニテ約六分但シ尖頭ハ擬寶珠形
 - 二 鞘ハ長サ三寸三分角ノ部二寸七分幅六分
 - 三 鞘ノ内面及關節部ハ鐵トス
 - 四 撥條ハ鞘ノ大サニ從フ
 - 五 釦附著部ハ下端二分ノ所トス
 - 六 形狀ハ第十六圖ノ如シ

第二十五 飯包布

地質 生麻布但シ締紐ハ麻二枚糸

- 製式
- 一 麻布ハ木綿幅ノモノ一尺一寸ニシテ兩端ノ切口ハ二分五厘ニツ折リ返シテ麻糸ニテ縫止ヲ爲ス
 - 二 締紐ハ長サ一尺六寸ノモノヲ生麻布ノ一隅ニ縫著ス

第二十六 水筒

- 地質
- 一 筒ハ「アルミニウム」但シ栓ハ「キルク」
 - 二 革條ハ自然色多脂革
 - 三 備錠ハ亞鉛引鐵

- 製式
- 一 筒ノ高サ五寸九分肩迄ノ高サ四寸口径(内法)八分肩外徑廣方二寸九分狹方二寸五分底部ヨリ六分上リノ部外徑廣方二寸七分狹方二寸三分五厘
 - 二 栓ハ「アルミニウム」ノ上蓋及下座トノ間ニ「キルク」ヲ狭ミ「アルミニウム」ノ線ヲ以テ頂天ヨリ下端ニ貫通シ「カラクリ」止メトシ其線ノ上部ハ釦ト爲シテ革條ヲ通ス
 - 三 塗裝ハ茶褐焼漆トシ肩部ノ後方ニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社某支部ト朱漆ニテ記ス但シ文字ノ大サハ二號活字大トス
 - 四 革條ハ掛紐ハ長サ六尺幅ハ筒ノ部六分五厘其他ハ五分備錠穴ハ十箇胴革幅一寸一分栓口止メ革長サ一尺八寸五分幅四分
 - 五 形狀ハ十七圖ノ如シ

第二十七 飯盒

地質	製式
一 盒ハ「アルミニウム」 二 手柄ハ眞鍮線(十一番形)	一 盒ノ高サ二寸七分(蓋付)長徑五寸四分短徑三寸一分蓋ノ高サ八分六厘身ノ高サ二寸五分 二 身ノ兩側ニハ蛭環ヲ附シ手柄ヲ連繼ス 三 塗裝ハ茶褐燒漆トシ蓋及身ノ後部ニ日本赤十字社本部又ハ日本赤十字社某支部ト朱漆ニテ記ス但シ文字ノ大サハ水筒ニ同シ 四 懸盒ハ高サ八分五厘 五 形狀ハ第十八圖ノ一ノ如シ

第二十八 飯盒袋

地質	製式
一 茶褐「ズツク」 二 革條自然色多脂革 三 備錠ハ眞鍮製	一 袋ノ大サハ飯盒ノ形ニ依ルヘシ 二 革條長サ五尺六分幅五分五厘 三 袋ノ前ニ長サ一分幅九分ノ赤十字ヲ表ス但シ背囊ヲ用ユル者ニハ袋及革條ヲ要セス 四 形狀ハ第十八圖ノ二ノ如シ

第二十九 手術衣(帽一箇ヲ添フ)

地質	製式
白「キヤラコ」	角製四ツ目ノ徑五寸ノモノヲ背ノ上部襟ニ一箇其下部ニ二箇ヲ附ス 一 仕立ハ背ニテ鈕掛ケトシ襟ハ立襟ニシテ襟下ヨリ胸部ニ至ル間六寸ハ前後共二重トシ胸部ノ中央及背ノ左右ニ細カキ皺襞ヲ爲シ腹部ノ左右縫目ニ締紐二條ヲ附シ襟ノ緊收ニ便ス 二 襟ノ長サハ踝關節部ヨリ上ルコト約八寸袖長サハ腕關節ニ至ル 三 物入ハ左胸部ハ幅五寸深サ六寸五分ノモノ一箇ヲ附ス 四 袖口ハ袋縫トシ白「テツブ」ヲ通シテ緊收ニ便ス 五 帽ハ其形狀圓形ニシテ天井ノ直徑八寸トシ鉢卷ハ幅七分長サ一尺九寸五分トシ 六 形狀ハ第十九圖ノ如シ 七 手術衣ノ大小ハ第一號第二號ニ區分シ之ヲ調製ス其寸度左ノ如シ

手術衣寸法 (出來上) (寸法)

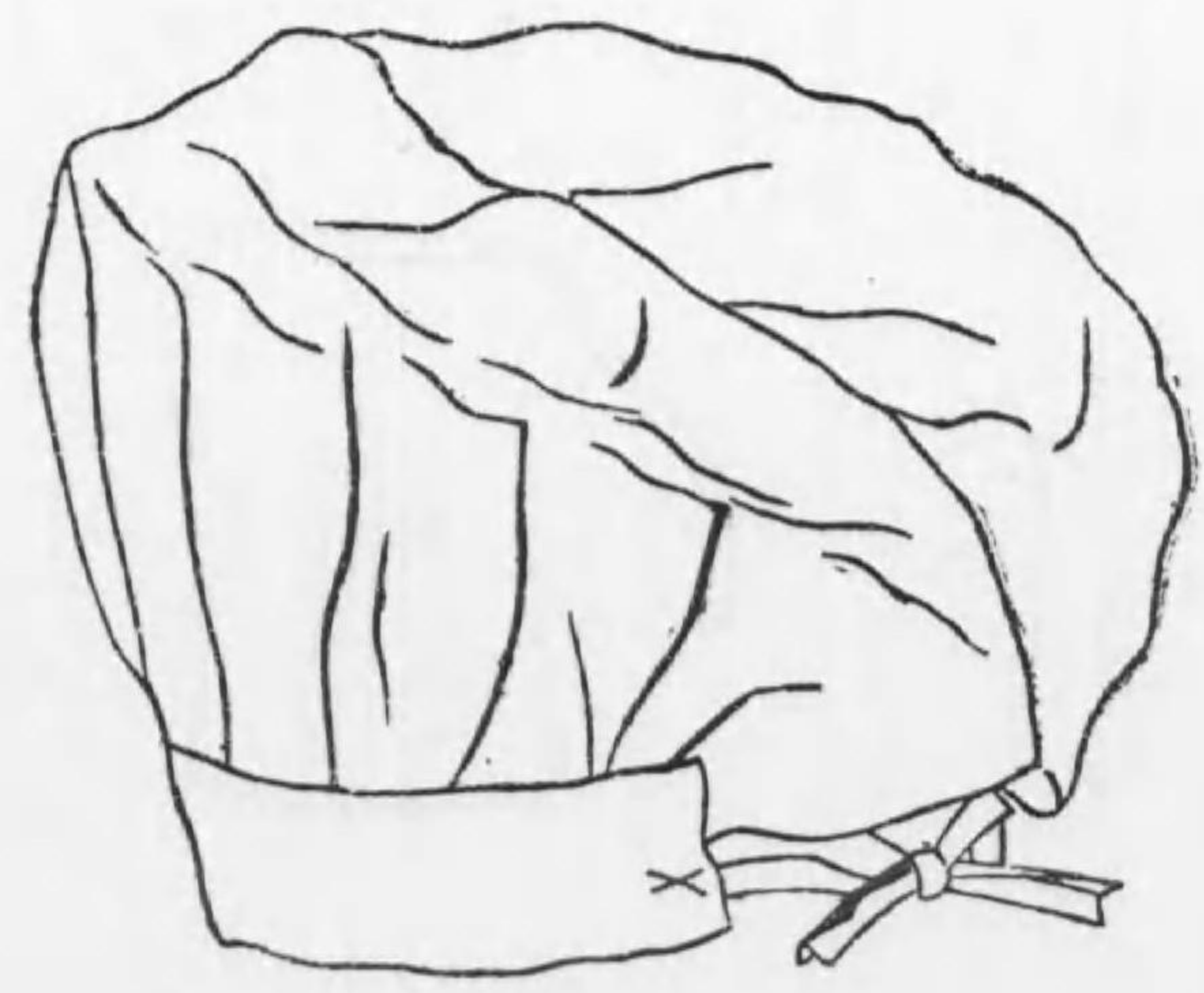
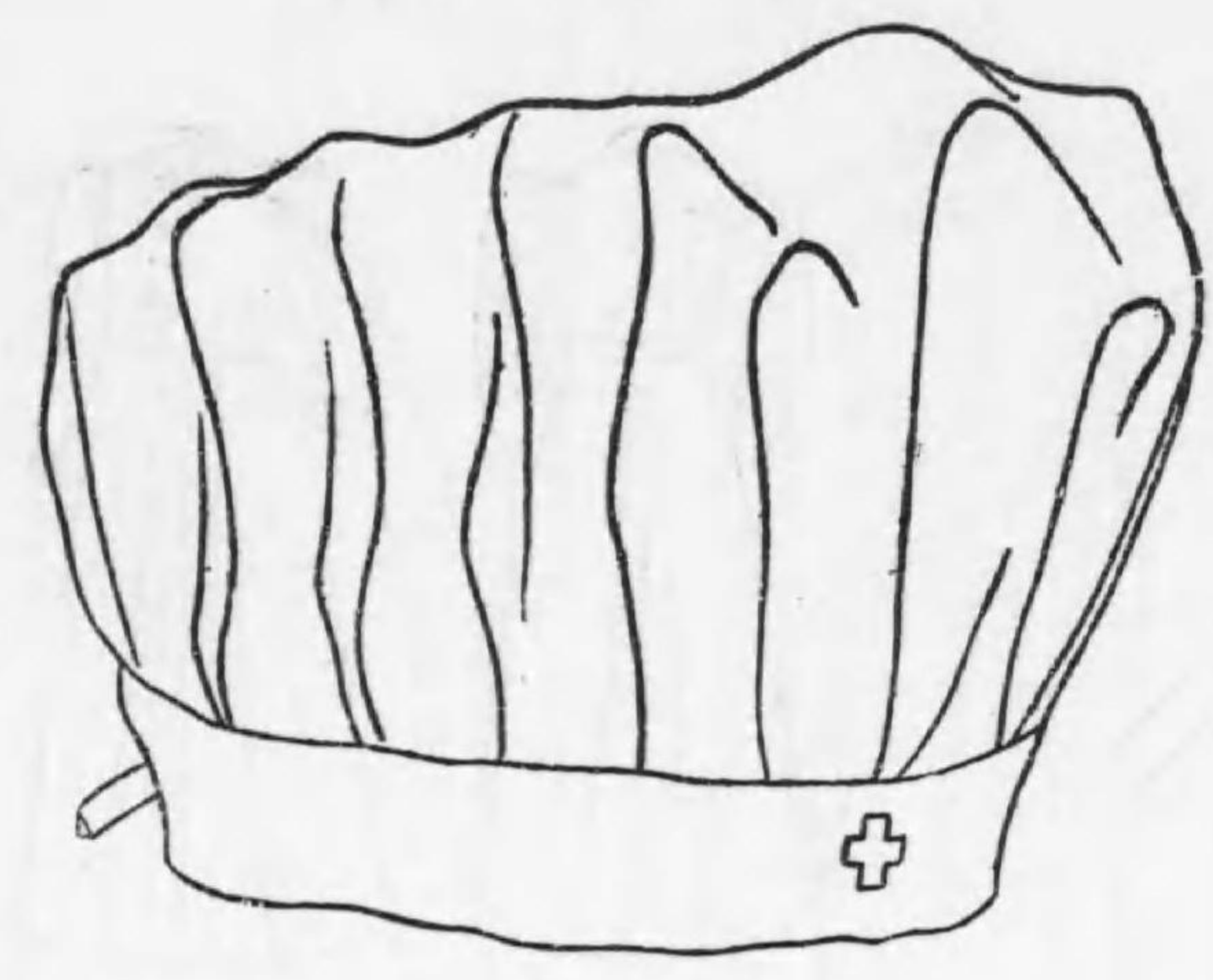
號數	背長	長背	幅胸	幅肩	圍腰	圍腰	襟長	長襟	幅袖	長袖	長袖	付袖	付袖	口幅	裾圍	長紐	紐幅
第一號	一五〇	四〇〇	〇八五	〇八七	二〇〇	二〇〇	一五五	一五五	一三五	一三〇	〇九五	〇六三	四七〇	二五〇	〇一一		
第二號	一四五	三〇〇	〇七〇	〇七六	二一〇	二一〇	一五〇	一五〇	一三五	一三五	〇八五	〇六〇	四三〇	二四〇	〇一一		

第三十 避病衣(足袋一足ヲ添フ)

製式	卸	地質
一 衣ハ總テ作業衣ニ同シ 二 足袋ハ深サ約一尺三寸五分蹠底ノ長サ約八寸五分筒口周圍約一尺四寸六分蹠關節部ノ周圍約一尺二寸トシ上部ノ後ニ白「テソゾ」長サ二尺ノモノヲ附ス 三 足袋ノ形狀ハ第貳拾圖ノ如シ	作業衣ニ同シ	衣ハ白「キヤラコ」足袋ハ生雲齋トス

看 護 帽

第 壹 圖



衣 業 作



第 參 圖

洋 衣 護 看



半
丈
尺

第 貳 圖

止 帶 垂 前
(大實)

